

東北酒造概説

昭和六年八月

仙臺稅務監督局



\*0031322000\*

0031322-000

AZ-371-4

東北酒造概説

仙臺稅務監督局

1931. 8

AEB



AZ  
371  
4

# 東北酒造概說 目次

第一章 酒造沿革	一
一 酒ノ種類	一
二 原料水	七
三 原料米	七
四 製麴	八
五 酒母	九
六 製醪	二一
第二章 酒造税制	二四
酒税率ノ變遷	二五
第三章 酒税法	二七
一 民部省達(明治二、二二、三) 第一一六號)	二七
二 清酒濁酒醬油鑑札收與並ニ收稅方法規則 (明治四、七) 大政官布告)	二八



588.5

78W10872



三	酒類稅則(明治八、二、二〇).....	三
四	酒類稅則取扱心得書(明治八、五、二九).....	四
五	酒造稅則(明治一三、九、二七).....	五
	酒造稅則附則.....	

六	酒造稅則取扱心得書(明治一三、一、二四).....	六
七	醬麴營業稅則(明治一三、九、二七).....	七
八	醬麴營業稅則取扱心得書(明治一三、一、二四).....	七
九	明治十六年十月大藏省達第六十九號.....	七
一〇	酢造營業者酒造稅則ニ準據ノ件(明治一六、一、一八).....	七
一一	酒造稅則施行細則(明治二二、一〇、二五).....	七
一二	酒造稅則施行細則(省令第一四號).....	七
一三	酒造稅則施行細則(明治二二、八、二〇).....	七
一四	酒精營業稅法(明治二六、四、二〇).....	八
一五	酒精營業稅法施行細則(明治二六、六、二).....	八
一六	酒造稅法(明治二九、三、二七).....	九
一七	酒造稅法(明治二九、三、二七).....	九
一八	酒造稅法(明治二九、三、二七).....	九
一九	酒造稅法(明治二九、三、二七).....	九
二〇	酒造稅法(明治二九、三、二七).....	九
二一	酒造稅法(明治二九、三、二七).....	九

二二	混成酒稅法(明治二九、三、二七).....	二四
二三	酒造稅法施行規則(明治二九、八、一七).....	二七
二四	混成酒稅法施行規則(明治二九、八、一七).....	二七
二五	自家用酒稅法施行規則(明治二九、八、一七).....	二七
二六	酒精及酒精含有飲料稅法(明治三四、三、三〇).....	二八
二七	麥酒稅法(明治三四、三、三〇).....	二八
二八	酒精及酒精含有飲料稅法施行規則(明治三四、八、二四).....	二八
二九	麥酒稅法施行規則(明治三四、八、二四).....	二八
三〇	非常特別稅法(拔萃)(明治三七、三、三一).....	二九

第四章 諸 統 計

一	酒類査定高表(附製造場數).....	一三
	宮 城 縣.....	一三
	岩 手 縣.....	一三
	福 島 縣.....	一三
	秋 田 縣.....	一三



二 藏出高表

青森縣	一九〇
山形縣	一八五
六縣計	一八七
全國計	一九一
宮城縣	一九五
岩手縣	一九七
福島縣	一九九
秋田縣	二〇一
青森縣	二〇三
山形縣	二〇五
六縣計	二〇九
全國計	二〇二
三酒類持越高表	二一一
宮城縣	二一一
岩手縣	二一二

四 酒精、混成酒及酒精含有飲料查定高表

福島縣	二一九
秋田縣	二二〇
青森縣	二二四
山形縣	二二六
六縣計	二二九
全國計	二三三

五 麥酒查定高表

宮城縣	二三五
岩手縣	二三八
福島縣	二四一
秋田縣	二四四
青森縣	二四七
山形縣	二五〇
六縣計	二五四
全國計	二五六
五	二五九



六 清酒移出入高表

六

宮城縣	岩手縣	福島縣	秋田縣	青森縣	山形縣	六縣計	宮城縣	岩手縣	福島縣	秋田縣	青森縣	山形縣	六縣計
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
二六二	二六三	二六四	二六五	二六六	二六七	二六八	二六九	二七〇	二七一	二七二	二七三	二七四	二七五

七 酒類消費高表

宮城縣	岩手縣	福島縣	秋田縣	青森縣	山形縣	六縣計
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
二七六	二七七	二七八	二七九	二八〇	二八一	二八二

東北酒造概説

仙臺稅務監督局

第一章 酒造沿革

一、酒ノ種類

- 1 八釀酒 一ニ八鹽折ニ作ル、やしほりト訓ス乃チ素盞鳴尊脚摩乳手摩乳ヲシテ釀サシメ玉フ所ニシテ紀ノ一書ニ尊乃チ教レ之曰 汝可以衆菓釀酒八瓊ト云フモノ即是レナリ
- 2 天甜酒 米ヲ以テ釀サル所ナリ和名類聚抄ニ醪字ヲ用キ日本紀私記ヲ引キテ甜酒、多无佐介、今案可用此字ト註シ東雅ニ令義解ニ注セシカ如ク即今ノアマサケトイフモノト見エケリ
- 3 醇酒 古代造酒考ニ醇酒ハ市乾鹿文カ父ヲイタク沈醉セシメムタメニ設ケタル酒ナレハ通常ノ酒トハ其味ノカラキニヤ醇ニ兩訓アルハ其ノ味ノカラキト其質ノカタキトニヨレルカ如シト云ヘリ
- 4 味酒 うまさけト訓ス上代ノ歌詞ニ數見ル所ナリ古事記傳ニ味酒ハ糟交ノ酒ノ名、あま酒ト云稱ハ即コノ味酒ノ轉レルモノナルヘシト云ヘリ



5 醴酒、東雅ニ倭名抄ニ四聲字苑ヲ引テ醴ハコサケ一日一宿酒也ト註セシハ後ニ讀ミテヒトヨサケト云フナリ又讀ミテアマサケトイフハ令義解ニ醴ハ甜酒トイフト見エシニ依レルナルヘシ

6 清酒、すめるさけ又きよさかト訓ス大神宮儀式解ニ清酒ハ伎與佐加トヨムヘシ酒ト云ヘハ濁酒ナリ又醴ノ類ヲ云フサテ之ヲシボリテ清酒ト云フト見エ古代酒造考ニ清酒ハ精ヲシホリテスミタル酒ヲイフナリ姓氏錄ニ糟ヲ以テ垣ニ作ルコト見エテイニシヘヨリ糟ヲシホリタル酒ノアリシ事モシラルルナリト云ヘリ所謂清酒ハ蓋醸工來朝後ノ製ニシテ方今稱スル所ノモノト自ラ別ナリ内藤耻叟ノ說ニ清酒ハ往古ヨリアルモノナリト云ヒ山海名産圖會ニ酒ヲ絞リテ清酒トセシハ纔百三十年以來ニテ其前ハ唯飯籩(ソウケ)ヲ以テ漉タルノミト云ヘリ所謂すめる酒ハ蓋シ此ノ類ナラン

7 黒酒白酒、白紀、黒紀ト訓ス貞丈雜記ニ禁裏ニテ御代替リノ初ニ大嘗會ト云。御神事有。其時ニ神ニ白酒、黒酒トテ二品ノ神酒ヲ奉リ給フ白酒ハ常ノすみ酒ナリ黒酒ハ常山ノ根ヲ黒燒ニシテマセタルモノ也中古黒胡麻ノ粉ヲ用ラレシ事モアリシト也是非ナリトソ。ト見エ傍廂ニコノ黒酒ハ式ニヨリテ常山ノ灰ヲ入ルトモ又胡麻粉ヲ入ルトモイヘリ白酒ハ常ノすみ酒ナリトイヘリ是レ誤リナリ常山灰、胡麻粉ナトイヘルハ黒酒トイフ名ニヨリテノオシハカリナリ。又白酒ハ常ノすみさけナリトイフモセンカタナサノヒカコトナリ、イニシヘハ荒稻、和稻トイヒテ荒稻ハ玄米ニテ和稻ハ白米ナリ、春キタルモ春カサルモ白クシテ黒クハアラネトモ玄米ト白米トイヘルカ如ク玄米ノ酒ハ黒

東

酒ニテ白米ノ酒ハ白酒ナリ常ノすみ酒ハ白酒トイフヘキ故ハナシイニシヘハ皆濁酒ニテ清酒ハナカリシナリ黒酒モ白クシテ黒クハアラネトモ白酒ニ對シテ白カラネハ黒酒トイヘル事白米ニ對シテ玄米トイフニ等シト云ヒ大神宮儀式解ニ後ニハトモアレ延曆ノ比ハ濁酒ヲ黒ト云ヒ濁酒ヲシホリテ清酒トシタルヲ白ト云フト見ユ

8 醪 和名抄ニ毛呂美ト訓シ説文ヲ引キテ汁滓酒也ト云ヘリ

9 醕 加須古米ト訓ス説文ニ云フ醕醇未漉也ト。東雅ニ我國ノ俗物ノ二ツナルヲモロトイウテ諸字ヲ借用ユミトハ實也、凡物ノ形アルヲイフ、猶身トイフカ如ク古ノ時ニモロミトイヒシハ汁ト滓ト二ツ相混セシヲイヒ、イマタシタマサルヲカスコメトイヒシト見エタリカスハ糟也コメハ籠也猶糟交トイフカ如シ今ノ如キハ汁滓ノ酒ヲハ濁酒トイヒ其イマタシタマサルモノヲハモロミトイフ古ニ云ヒシ所ニ同シカラサルニ似タリト云ヒ下學集ニ茆柴ハ濁醪也、一醉而即醒、如燒茆柴火便滅ト云フモノ即チ是ナリ後世或ハ必ぶろくと稱ス蓋濁醪ノ訛ナリ

10 屠蘇酒 萬法一覽ニ歲華記ニ云フ昔人アリ草庵ノ中ニ居ル毎歲除夕里閭ニ藥一貼ヲ送り袋ニ入レテ井中ニヒタサシメ元日ニ水ヨリ取上ケ酒樽ニ入レ名ケテ屠蘇酒ト號ス合家之ヲ飲メハ瘟疫ヲ瘥スト、屠ハほふるト讀ミ蘇ハよみがへると訓ス此酒ヨリ邪氣ヲ屠リ死セル人ヲ蘇生セシム故ニ屠蘇ト云ヘルモノ即チ是ナリ



11 練酒 酒史新編ニ色似練絹故名、未漉曰實練酒ト云ヒ和漢三才圖會ニ筑前博多之練酒得名、似白酒而甚粘、其味甘美也、蓋此與白酒一類、製之精者矣、下戸婦人小兒好吃、多飲則宿滿ト日本社會事彙ニコノ練酒ハ少許ヲ盃ニイレ燭酒ヲサシテ溶解シテ飲ム誠ニ味甘美ナリト云ヘリ

12 燒酒 和訓栞ニせうちう燒酒ノ音ナリト云ヘリ通雅ニ阿刺吉燒酒也ト見エ物理小識ニ幹頼機又名哈刺基謂燒酎也ト見エ和漢三才圖會ニ燒酒今用燒酎字、酎重釀酒名也、字義亦通、ト見エ日本社會事彙ニ西遊記ニ薩州ニハ燒酒トテ琉球ノ泡盛ヤウノ酒アリ京都ノ燒酒ノヤウニ強カラス國中七八分ハ皆此燒酒ニテ酒宴スル事ナリ常ノ酒ハ祝儀事ナトノ贈リモノ、アルヒハ儀式ノ宴會ナトニノミ用ユ是ハ皆京大阪邊ヨリ積下ス酒ニテ其價尤高直ナリ彼國ニテタマノ造ル酒ハ甚タ下品ニシテ飲ミ難シ夫ユヘニ此燒酒ヲ多ク用ユル事ナリト見ユ、燒酒ハカラザケト古クイヘリ猛烈ニシテ飲ムヘカラスト見ユ

13 白酒 本朝食鑑ニ醉ハ和名之良加須、俗ニ三月三日ノ節物トシテ雜祭ニ供スト云ヒ貞文雜記ニ公方様ニテハ正月五ケ日其外節朔ニハ片口ノ御饅子白シ御酒モ白酒也、白酒トハ今モ有白酒也、濃クハ有ヘカラスウスタアルヘシト云フ

14 諸白 清酒發明前ニ專ラ行ハルル所ナリ、貞丈雜記ニ進物ノ目錄ナトニ酒ノ事ヲ諸白ト書ク人アリ左様ニハ書クマシキ事ナリ酒ヲ作ルニ米ヲ至極能クツキシラケテ作ルヲ諸白ト云、サノミ能モシラケスシテ作ルヲ片白ト云フ由或人申タリ然レハ諸白片白トイフハ酒造ル者ノ詞ニテ立イリタル事ナレハ目錄ナトニハ書ヘカラス又常ノ詞ニモイフマシキ事也ト即チ是ナリ又タ南都ニ霰酒ト稱スルモノアリ往時猿澤池畔ノ釀戶淺田某會テ池上ニ霰ノ浮動セルヲ見心感スル所アリ運思其ノ時ニ模倣シ一種ノ酒ヲ製ス味甚タ美ナリ因テ名ヲ霰酒ト命シ之ヲ朝ニ獻ス時ニ寛永十一年十一月也後ニ其ノ製大ニ廣マリ遂ニ奈良ノ名産ヲ以テ稱セラルト云フ

15 泡盛 酒史新編ニ琉球國有露酒、造法蒸米和麴、各有分劑不須下水、封釀而成、以飯蒸取其滴露、盛之甕中、密封七年而後用之、其俗名泡盛ト見エ成形圖說ニ沖繩蝦夷ハ地粟ヲ以テ燒酒ヲ造レリ沖繩ニテ粟盛トイフ氣味酷烈此ノ間ノ人多ク飲ハ醉斃ニ至ル而ルニ南島ノ人ハ此粟盛ヲ恒ニ飲ムコト燒酒ニ異ナラス夏日ノ鬱暎ニ此ヲ冷シナカラ飲マサレハ暑氣ヲ散スコトナラサルナリト云ヘリ

16 天野酒 河内國天野山金剛寺ニ於テ釀ス所ナリ河内名所圖會ニ天野酒ムカシハ坊舍ニテ造リ高貴ヘ獻ス佳美ナリ「酒造ル寺タノモシヤ雪ノクレ西吟」ト見ユ

17 菊酒 加賀ノ國產ナリ酒史新編ニ加賀菊酒、蓋一條兼良所謂賀州宮腰也、源肖栢謂之菊花、古與越州豊原、並稱ト見ユ

18 江川酒 酒史新編ニ伊豆江川有三年酒、所謂江川酒也、北條氏政嘗贈之織田公ト云ヘリ

19 赤酒 肥後ノ國產ナリ其色赤褐ニシテ特殊ノ香味ヲ有シ頗ル異趣アリ相傳フ文祿ノ役ニ加藤清正



朝鮮ニ於テ其ノ釀法ヲ習得シ以テ封内ニ傳フル所ナリト或ハ云フ三百年來盛ニ行ハレ明治ノ初ニ至リ漸ク振ハス然モ十年ノ查數ニヨルニ熊本ニ於テ三千石以上ヲ釀造スルモノ猶ホ七十六戸ノ多キニ及ヘリ其後益々振ハス方今ハ則チ畿ニ三戸ニ過キスト

20 保命酒 備後ニ産スル所ナリ其ノ由來詳ナラス然モ三備ニ酒ヲ産スルハ蓋シ久遠ナリ和名抄製註ニ又按吉備醋見賦役令義解、蓋謂加須古米、萬葉集丹生女贈大宰帥大伴卿歌、有吉備能酒、蓋謂之也、庭訓往來亦有備後酒ト見ユ

21 麻池酒 夏季ノ飲料トシテ賞翫セラル諸國名物記ニ豊後ノ名産トシ和漢三方圖會ニ南都ニ産スルモノヲ以テ名品トセリ一ニ淺茅酒アサチサケマアサチサケタアサチサケ朝生酒ニ作り一名ヲ土カブリト云フ此ノ酒ハ冬季ニ釀造シ土中ニ埋メ艸茅ノ類ヲ以テ其ノ上ヲ覆ヒ翌年ノ夏季ニ及ヒ之ヲ出セハ則チ既ニ熟セリ故ニ此ノ名アリト云フ

22 美淋酒 和漢三方圖會ニ美淋酒、近時多造之、其味甚甘、而上戸人及婦女喜飲之、マク其精亦甘、賤民代菓子ト見ユ日本社會事彙ニ案スルニ味淋酒ハ下總流山ノ産ヲ佳トナス近世ハ釀造法最モ精美ヲ極ムトイフト見ユ琉球國史略ニ八重山出者名密林酒ト云フモノ蓋シ是ナリ

23 葡萄酒 酒史新編ニ云フ河内石川郡植葡萄酒味美、釀爲酒尤美、甲斐勝岩崎二村以葡萄酒聞甲地宜百果而葡萄酒爲最、物茂郷詩有云、甲陽美酒綠葡萄、蓋謂此也、ト

二 原料 水

所謂灘地方ノ宮水ハ毎年釀造期前ニ於テ各井必ス其ノ井欄及井壁ヲ清メ又其ノ水ヲ汲ミ盡シ以テ之ヲ新ニシ且井底ノ砂礫ヲ取り出シ仔細ニ洗滌シ再ヒ之ヲ下シ其ノ既ニ釀造場ニ運搬スルニ及ヒ亦遽ニ之ヲ用キス必ス水桶ニ移シ一晝夜若クハ二晝夜ヲ經テ而シテ後始メテ使用セリ今試ニ其ノ十萬分中重量ノ分析成績ヲ録スレハ則チ左ノ如シ

宮水 分析表 (明治三十一年分析)

有機物	七二、四六	苦土	二〇、一六
硅酸	三〇、五六	加里曹達	九二、八五
鐵礬土	一五、八二	鹽素	九九、四〇
石灰	六〇、五九	硫酸	三四、五二

三 原料 米

原料米ヲ精白ニスルハ明治ノ始ヨリ特ニ多ク水車ヲ用キ踏臼ヲ使用スルモノ漸ク減シ明治十九年酒造家中始メテ蒸汽機關ヲ用キテヨリ做ウテ起ルモノ益々多シ從來ノ水車ハ胴搗ト稱シ其ノ用キル所ノ杵頗ル長大ナリ蒸汽機關ヲ用キルニ及ヒ仍ホ其ノ制ニ依レリ既ニシテ其ノ米粒ヲ粉碎スル多キヲ覺リ水車ト蒸汽トヲ問ハス皆投搗ニ改メタリ投搗トハ其ノ杵ノ制全ク踏臼ト同一ナルモノヲ稱スルナリ而シ



テ其ノ水車場ノ景況ハ百箇乃至百五十箇ノ臼ヲ設ケ一基ニ對シ玄米約一斗ヲ入ル杵ノ搗數ハ通常一分  
間五十回ニテ一晝夜ヨリ三晝夜ニ及フコトアリ其ノ間一臼ニ付約四時間毎ニ器械篩ニテ糠及碎米ヲ分  
離セリ而シテ其ノ蒸汽機關ヲ用キルモノハ臼數概ネ五百箇以上ニ及ヘリ然レトモ場内ノ景況ハ水車ト  
殆ト異同アルナシ但其ノ搗減ノ量ニ至リテハ明治ノ初ニ在リテハ配米ハ二割ヨリ三割掛米ハ一割四、  
五分ヨリ二割四、五分ニ至ルヲ以テ適度トシ十四、五年ノ交ヨリ更ニ進テ配米ハ三割掛米ハ二割五分  
ニ及ヒタルモ久シカラスシテ漸ク退キ配米ハ二割五分掛米ハ一割七、八分ヲ以テ普通トセリ其ノ後二  
十七、八年ノ交ニ至リ復タ漸ク進ミ三十七、八年ニ至リテハ略ホ明治初年ノ例ノ如シ而シテ其ノ精米  
ニ要スル時間ハ配米ニ於テ水車ハ三十六時間ヨリ七十二時間蒸汽ハ二十四時間ヨリ四十八時間掛米ニ  
於テ水車ハ二十四時間ヨリ四十八時間蒸汽ハ二十時間ヨリ三十時間ニ至ルト云フ

#### 四 製 麴

製麴ノ法ハ童蒙酒造記、酒造手引艸ニ詳ナリ其ノ童蒙記載スル所ヲ摘録スレハ曰ク麴食(カウヂキ)  
ノ事モ時々添食程ノ加減ニシテ床ニツクネ置、其上ニ莖五、六枚程モ取着セ置クナリ但シ食ノ加減、  
息(イキリ)ノ強キ弱キニヨリ兼テハ定メ難シ又新室始メテ息付ル時ハ各別強クシテ入ル也、食トハ  
餘ヲ云ヒ息トハ蓋シ温度ヲ云フナリ曰ク室食、今晝過ニ入ル床ニ在ルヲ同夜五ツ時分、見ルニ蠟チ離ト  
成、是ヲ擇食(ツハル)ト云フ、此時上ヲ下ヘ端ヲ中ヘ手返シテ右ノ如ク又床ニツクネ莖ヲキセ置也、

曰ク食入タル翌朝麴蓋ニ一升宛コンモリト盛ル也大體米一升、食コンモリト一升有也、扱蓋ハ五、六  
枚ヨリ六、七枚マテ段々ニ重ネ中棚ニ積ムナリ、コンモリ一升トハ蓋シ一升有餘ヲ云フ猶俗、山盛一  
升ト云フカ如シ曰ク夜ニ入灯ニテ觀ルニ所々花付三ヶ所程葩煎申也、是ヲ麴ノ足トイフ也此時人肌温  
ミ有ヘシ右足出事次第上ヲ下ヘ中ヲ端ヘ群ナク返シ蓋一杯ニ擴ケ元ノ如ク重ネ置也但シ自然室冷、此  
時温ミ不來、足見エスハ此時ノ仕事ヲ延テ或ハ二時三時、自然其翌朝翌晝迄成トモ足出來次第仕事仕  
候事口傳也曰ク大抵食入タル日ヨリ三日目朝白花付也、白花麴ナラハ其時出スヘシ黄花ナラハ其下棚  
ヘ下シテ其晩ニ出スヘシ自然ニ室冷ヘ三日目白花モ出來兼ネハ四日目朝晝晩或ハ五日目迄モ中棚ニ置  
ヘシ是自然ノ事ナリ併麴ニナラヌ間ハ何迄モ中棚ニ置クヘシ惣テ中棚息強ク上下ノ棚息弱ク候、花ヲ  
黄色ニ好ム時ノ爲ニハ上下ノ棚ヲ用ウヘシ曰ク不絶大分入ル時ハ大体必ス三日目ニ出ル又入不入、温  
メ醒シ少ツツノ時ハ四日五日不同ニ出スヘシ努々急クヘカラス急ケハ仕損シ有也大分トハ猶ホ夥多ト  
云フカ如シ曰ク冷室ニ食入ル時ハ始メ多ク入ヘシ息渡リテハ少シ宛ニテモ不苦、但シ少分ニテ室冷候  
ハ或ハ湯ヲ入或ハ火ヲツケ或ハ食ヲ釜ヨリ直ニ入テ息ヲ付ル事モアリ但シ湯ヲ強ク入ルレハ麴黒ク火  
ヲ強クイケ候ヘハ麴堅ク出來ル物也何モ用捨時宜ニヨルヘシ

#### 五 酒 母

酒母ハ俗、配或ハ醃ト稱スルモノニシテ往時之ヲ數種ニ別テリ所謂菩提配、煮配、水配、寒酒配、春



配、醪配、清酒配、小米配、餅米配是ナリ蓋シ天和貞享ノ際一時盛行スル所ト云フ

1 菩提配 一ニ飯配(イカキモト)若シクハ腐配ト云フ即チ所謂菩提性ノ酒母ナリ精米一斗乃至三斗ヲ磨洗シ之ヲ十分シ其ノ一分ヲ炊キテ飯トシ冷却シテ飯モシクハ袋ニ盛り以テ腐敗セシメ其ノ九分ヲ水ニ漬シ日ニイシ水ノ腐敗スルヲ候ヒ米ヲ取り蒸シテ飯トナシ熱氣未タ去ラサルニ前ニ腐敗セシムル飯ヲ和シ瓶ニ盛り麴六升乃至一斗八升ヲ加ヘ又腐水ヲ漉シテ之ニ注キ攪拌和合ス

2 煮配 仲秋、季秋ノ間ニ於テスルモノノ酒母ナリ蒸米一斗ニ對シ麴四升水一斗五升ヲ以テ率トス水ノ多量ナルハ煮沸ニ便スル所以ナリ而シテ其ノ米ヲ蒸スハ午下ヲ以テシ夜ニ入りテ之ヲ冷却シ仕込ハ半切桶ヲ用キ八、九月ノ交ニ於テハ五升ヲ限リトシ寒ニ遇ヘハ從テ之ヲ増シ仕込後一日夜毎ニ攪拌ス三五日モシクハ十日ニシテ必ス泡起ル其狀鬼灯ノ如シ其ノ去ラントスルヲ候ヒ之ヲ釜ニ移シ徐々之ヲ熱シ擲テ以テ絶エス攪拌ス乃チ泡復タ生ス其ノ狀綿帽子ノ如シ則チ復タ半切ニ移シ其熱ヲ去リ攪拌ス

3 水配 九月、十月ノ交霜已ニ降り寒氣漸ク加ハル時ニ於テ醸造スルモノノ酒母ナリ精米三斗乃至六斗、蒸米一斗ニ對シ麴四升其ノ麴ハ尤モ熟セルヲ貴ヒ水ハ一斗二升トス、之ヲ蒸シ之ヲ冷シ之ヲ攪拌シ及寒暖ニ由リ其ノ量ヲ増減シ半切桶ニ仕込ムハ猶煮配ノ法ノ如シ

4 寒酒配 六斗ヲ以テ一配トス即チ所謂寒酒ノ酒母ナリ、良米ヲ選ミ之ヲ舂シテ洗ヒ其ノ精ヲ極メ之ヲ漬スハ三日夜麴ハ二斗四升、白花付ヲ可トス水七斗二升必ス前日ニ於テ之ヲ汲ミ靜止シ其ノ用キルニ及ヒ一點塵汚ナキヲ期シ仕込ハ必ス半切桶四箇ヲ用キ階上ニ於テスルヲ例トス

5 春配、春酒ノ酒母ナリ殆ト寒酒ト相同、但米ヲ漬スル一日夜ヲ限リ半切桶ヲ用キル必ス其ノ數ヲ限ラス氣候ノ寒暖ニ因リ時ニ増減アリ

6 醪配、清酒配 共ニ釀期ノ外急造ニ用キル酒母ニシテ小米配、餅米配ハ糯米ヲ用キテ製スル所ナリ而シテ其ノ制ハ四者皆前掲諸法ト異同アルナシ

酒母ノ製造ハ冬至ヨリ凡ソ二十日間以内ヲ以テ尤モ適當ノ時季トシ之ヲ隔日ニ行フ其ノ一日ノ工程ハ六配ヨリ以テ十二配以上ニ及ヘリ而シテ其ノ一配ノ量ハ大略左ノ如シ

種目	年次	明治十年	明治十四年	明治十九年	明治二十八年
蒸米	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇
麴	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
汲水	七〇〇	七〇〇	七〇〇	六〇〇	二〇〇
米水ノ歩合	一、〇〇〇	一、〇〇〇	八四〇	八三七	九二四
		八三六	八四〇	八三七	八三七

六 製 醪

醪ノ仕込ハ之ヲ三段ニ分ツハ即チ初添、中添、留添是ナリ通シテ之ヲ添ト稱ス、添トハ蒸米ト麴ト水



ヲ酒母ニ投シ其ノ酸酵ヲ旺盛ナラシムル所以ニシテ各定量アリ其ノ法ハ酒母ヲ三尺桶ニ移シ先ツ水ヲ  
 六投ス、俗ニ之ヲ水添ト云フ尋テ蒸米ト麴ヲ投シ權ヲ以テ攪拌シ薦ヲ以テ厚ク之ヲ蔽フ即チ所謂初設是  
 ナリ其ノ後二日平分シテ二桶ニ盛リ先ツ蒸米ト麴ヲ投シ而シテ後水ヲ投シ攪拌シテ薄ク薦ヲ蔽フ即チ  
 所謂中添是ナリ、後二日二時間毎ニ權ヲ加フル一日、明日又之ヲ平分シ其ノ半ヲ大桶即チ醪ノ仕込桶  
 ニ移シ蒸米ト麴ト水ヲ投ス所謂留添即チ是ナリ既ニシテ酸酵漸ク靜ナリ乃チ盡ク之ヲ大桶ニ合ス俗ニ  
 之ヲ打ト稱ス此レ其ノ大略ナリ然レトモ其ノ之ヲ三段ニ分ツ何ノ時ニ起ルヲ審ニセス天和、貞享ノ際  
 季夏、孟秋醸造セルモノノ如キハ概ネ之ヲ初添、留添ノ二段ニ分チ中添ヲ用キス蓋シ炎威尙去ラス頗  
 ル酸酵ヲ助長スルヲ以テ之ヲ略スルナリ

明治五六年ノ交ニ當リ熱掛ト稱シ蒸米ノ幾分ハ敢テ之ヲ放冷セス飯ヨリ出シ即チ投スルモノアリ然レ  
 トモ久シカラスシテ廢シテ行ハレス蓋シ其ノ成績ノ宜シカラサルニ因ルト云フ  
 桶ハ初添ニ於テ三尺桶一箇、中添ハ二箇、留添ハ四箇モシクハ二箇ト大桶一箇ヲ用キタルカ如シ而シ  
 テ其ノ打ハ酸酵ノ度ヲ檢シテ行フ爾後大ナル異同ナク以テ明治初年ニ至ルト云フ  
 天和、貞享前後ニ於テハ尙片白、諸白ノ別ヲ存シ頗ル汲水量ヲ異ニセリ今一、二仕込方法ヲ摘記スレハ

	原料	配	添	中	留	計	摘	要
諸白、寒酒	蒸 麴 水 米 米 米	六〇〇 二四〇 七二〇	一、〇〇〇 三〇〇 九〇〇	二、〇〇〇 六〇〇 一、五二〇	四、〇〇〇 一、二〇〇 二、六三六	七、六〇〇 二、三〇〇 五、七七六		
片白、園酒	蒸 麴 水 米 米 米	六〇〇 二四〇 七二〇	一、〇〇〇 三〇〇 九〇〇	二、〇〇〇 六〇〇 一、五二〇	四、〇〇〇 一、二〇〇 二、六三六	七、六〇〇 二、三〇〇 五、七七六		
一二三造	蒸 麴 水 米 米 米	六〇〇 二四〇 六二六	一、〇〇〇 四〇〇 一、〇〇〇	二、〇〇〇 六〇〇 二、一〇〇	三、〇〇〇 九〇〇 三、三〇〇	六、六〇〇 二、一四〇 七、一六六		
明治六年	蒸 麴 汲 米 米 水					五〇四 二二六 七五六	米一石ニ對スル 水量歩合	一、〇五〇
明治十一年	蒸 麴 汲 米 米 水					六、八二〇 二、一八〇 九、〇〇〇		一、〇四六
以後	蒸 麴 汲 米 米 水					九、〇〇〇 二、一八〇 一、〇四六		



明治二十八年	蒸米	六五	一、二五〇	二、五〇〇	四、七五〇	九、二五	米一石ニ對スル 水量歩合
以	麴米	二五〇	三七五	六五	一、二五〇	二、五〇〇	
降	汲水	七六七	一、四五〇	三、四五〇	七、六〇〇	一三、二八七	一、二四三

### 第二章 酒造税制

一、慶應四年五月會計官布達ヲ以テ古來ノ酒造鑑札ヲ改メ酒造規則五箇條ヲ制定シ造酒百石ニ付一時冥加（即チ免許料）清酒、濁酒造酒百石ニ付二十兩トス之明治維新以來酒税ニ關シテ規定ヲ設ケタル嚆矢トス

一、慶應四年八月會計官布達ヲ以テ一時冥加清酒百石ニ付十兩、濁酒百石ニ付十二兩ニ減額シ明治元年八月行政官布告ヲ以テ凶作ノ爲酒造石高ヲ免許造石高ノ三分ノ一ニ制限ス

一、明治元年九月造酒高百石未滿ノモノ百石迄ノ増造ヲ許シ及百石以上ノ株高分株ヲ許可ス

一、明治元年十一月會計官布達ヲ以テ關東諸國ニ限り、一時冥加高ノ外別ニ年々冥加百石ニ付五兩ヲ併課ス

一、明治元年十二月會計官布達ヲ以テ年々冥加金納付方ヲ一定シ其年十月限大總代ヲシテ取纏メ會計官

ニ上納セシムルコトトス茲ニ初メテ納期ヲ定ム

一、明治二年十二月民部省達ヲ以テ酒造竝濁酒造株鑑札渡方竝年々冥加上納方ヲ定ム（每百石ニ付酒造株鑑札冥加高十兩、酒造年々冥加高十兩、濁酒造株鑑札冥加高十兩、濁酒造年々冥加高七兩其年十一月限上納）

一、明治三年九月太政官布告ヲ以テ從來ノ造石制限ヲ解除ス

一、明治四年七月布告ヲ以テ清酒、濁酒（醬油）鑑札收與竝收稅方法規則ヲ定メ從前ノ株鑑札ヲ廢止シ免許料トシ更ニ免許鑑札ヲ下付ス、新規免許料、清酒、味淋、白酒其他銘酒類各十兩、濁酒五兩又免許稅及釀造稅ヲ定メ免許稅ハ造石ノ多少ニ拘ラス稼人一人ニ付毎年清酒、味淋、白酒其他銘酒類ハ各五兩、濁酒一兩二分、釀造稅ハ一年清酒、味淋、白酒其他銘酒類ハ各其生酒代金ノ五分、濁酒ハ同三分ト定ム

一、明治四年十一月太政官布告ヲ以テ諸國竝近在ヨリ江戸ニ廻送スル酒類ニ對シ酒樽十駄ニ付二兩宛ノ冥加金ヲ市中酒問屋ノ取次ヲ以テ上納セシメタル慣例ハ延ヒテ維新ノ後ニ及ヒタルカ右冥加金ノ上納ヲ廢ス

一、明治六年二月太政官指令ヲ以テ酒造規則中收稅ニ係ル分ハ北海道ニ限り當分便宜ノ處置ニ任スルコトトス



一、明治六年四月大藏省達第六十七號ヲ以テ醫麴營業稅徵收ノ制ヲ定メ免許鑑札(税金ハ清酒造ノ半額)ヲ下付ス、之レ從來陸羽地方ニ於テハ醫麴營業者ニ清酒、濁酒ト同一ノ免許鑑札ヲ附與シ清酒稅額ノ半額ヲ賦課スルノ慣例ナリシカ本達ヲ以テ全國一般ニ課稅スルコトトシタルモノニシテ納期ニ付テハ別段ノ規定ナシ

同八年二月第二十六號布告但書ヲ以テ同年九月三十日限リ濁酒醫麴ノ稅ヲ廢止ス

一、明治六年九月租稅寮伺指令ヲ以テ燒酎ハ銘酒ニ準シ課稅スルコトト定ム

一、明治六年十二月大藏省達第一七四號ヲ以テ酒造規則中改正シ鑑札下付及税金上納期ヲ改正ス

1 鑑札下渡期日毎年十月中 2 免許料及免許稅其ノ年十月三十一日限 3 釀造稅凡半方其ノ年

四月三十日限殘部其年七月ヨリ九月三十日限

一、明治八年二月第二十六號布告ヲ以テ前法令ヲ廢止シ更ニ酒類稅則ヲ制定シ免許料ヲ廢シ免許料ヲ倍

課シテ之ヲ酒造營業稅ト改メ濁酒ノ課稅ヲ免シテ酒類請賣營業者ニ營業稅ヲ賦課ス(酒造營業稅一酒

種ニ付一期十圓、酒類請賣營業稅一期五圓、釀造稅酒類賣捌代價十分ノ一、免許鑑札書替手數料二十

錢、納期營業稅其年十月三十一日限、釀造稅凡半方其年四月三十日限殘部其年七月ヨリ九月三十日限)

二、明治十年十二月第八十一號布告ヲ以テ酒類稅則中改正シ再ヒ濁酒稅ヲ賦課ス(濁酒營業稅每一期ニ

付五圓、釀造稅賣捌代金二十分ノ一、酒類請賣營業稅卸賣年十圓、小賣年五圓、酒類行商鑑札料一枚

ニ付十錢、鑑札書替手數料一枚十錢)

一、明治十一年九月第二十八號布告ヲ以テ酒類稅則中稅率及納期ヲ改正シ釀造稅ヲ賣買價格ニ比例セシムルノ法ヲ廢シ其ノ造石高ニ課稅スルコトニ改ム

納期ハ釀造稅ハ毎年四月三十日限リ見込石數稅金ノ半數殘余ハ九月三十日限ト定ム

一、明治十二年二月大藏內務兩省達乙第一二號ヲ以テ精劑丁幾劑及酒劑ノ如ク醫藥用外藥品ヲ配伍スル酒類ハ總テ酒類稅則ニ依リ燒酎トシテ課稅スルコトトス

一、明治十三年九月第四十號布告ヲ以テ酒類稅則ヲ廢止シ酒類稅則ヲ制定シ一酒造場毎ニ酒造免許稅ヲ課スルコトトス釀造稅ヲ改メテ造石稅トシ稅率ヲ高メ自家用料酒ノ造石高ヲ一箇年一石以下ニ制限ス葡萄酒、麥酒類製造ハ免許稅ヲ課シ造石稅ハ之ヲ免除ス

酒造免許稅製造場一箇所ニ付毎年三十圓

納期ハ第一期 其年四月三十日限(前年自十月一日至其年三月三十一日)

第二期 其年七月三十一日限(其年自四月一日至六月三十日)

第三期 其年九月三十日限(其年自七月一日皆造迄檢査済石)

一、明治十三年九月第四十一號布告ヲ以テ醫麴營業稅則ヲ制定シ製造場一箇所毎ニ五十圓ヲ免許鑑札ヲ受ケタルトキニ納付セシム



一、明治十五年三月第十七號布告ヲ以テ從來酒精ハ燒酎ト同一ニ看做シ來リタルヲ酒精ニ稅ヲ課スルコトヲ明定ス

一、明治十五年十二月第六十一號布告ヲ以テ酒造稅則中稅率ヲ改正シ一定ノ造石高以上ニ非サレハ免許ヲ與ヘサルコトトシ自家用料酒ニハ免許鑑札料ヲ徵シ其ノ製造シタル酒類ノ賣買ヲ禁ス

造石高制限ニ清酒百石以上濁酒十石以上一類(清酒濁酒ヲ除ク)二類、三類五石以上

一、明治十六年十二月布告第四十二號ヲ以テ酢造營業者ノ酢元ニ供スル酒類ニ對シ酒造稅則ヲ準用シ造石稅ヲ課ス

一、明治十九年八月勅令第六十號ヲ以テ酒造稅則中改正シ自家用料ノ清酒ヲ製造スルコトヲ禁シ自家用酒ハ濁酒ノミノ製造ニ止ム

一、明治十九年十二月勅令第七十九號ヲ以テ第三期造石稅納期九月三十日ヲ十月三十一日限ニ改ム

一、明治二十二年九月法律第二十四號ヲ以テ北海道ニ酒造稅則ヲ施行シ稅率ヲ左ノ通定ム

酒造免許稅ニ酒造場一箇所ニ付二十圓

酒類造石稅ニ每一石ニ付釀造酒二圓 蒸餾酒三圓 再製酒四圓

一、明治二十三年七月法律第四十九號ヲ以テ納期區分三期ヲ四期ニ改ム

第一期 四月十五日限(十月一日ヨリ一月三十一日マテ検査石數ニ係ル稅額ノ半額)

第二期 八月十五日限(二月一日ヨリ五月三十一日マテ検査石數ニ係ル稅額ノ半額)

第三期 十一月十五日限(六月一日ヨリ九月三十日マテ検査石數ニ係ル稅額ノ半額並第一期

第二期ニ係ル殘納額ノ半數)

第四期 翌年一月十五日限(前納額ノ殘額)

一、明治二十六年四月法律第十七號ヲ以テ酒精營業稅法ヲ制定シ酒造稅則ニ依ル造石稅ノ外ニ酒精營業稅ヲ課シ酒精販賣高一石ニ付二十五圓ノ稅率ニ依リ翌年一月三十一日限納付セシム

一、明治二十九年三月法律第二十八號ヲ以テ酒造稅法ヲ制定スルト共ニ混成酒稅法及自家用酒稅法ノ制定ヲ見タリ

造石高制限ニ清酒ニ限リ百石以上トス

納期ニ第一期 七月一日ヨリ同十五日限(前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一)

第二期 九月一日ヨリ同十五日限(同上)

第三期 翌年一月一日ヨリ同十五日限(同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一)

第四期 翌年三月一日ヨリ同十五日限(前納額ノ殘數)

洋引減量控除ノ制ヲ設ク 清酒査定石數ノ百分ノ二

納稅保證制ヲ定ム 造石稅半額ニ相當スル保證物ノ提供

免許稅ヲ廢シ營業稅法ニ依ラシム



一、明治二十九年三月法律第二十九號ヲ以テ自家用酒税法ヲ制定シ同十九年八月勅令第六〇號ヲ廢止ス

一、明治二十九年三月法律第三十號ヲ以テ混成酒税法ヲ制定ス

納期 第一期 其年七月一日ヨリ同三十一日限（一月一日ヨリ六月三十日迄査定石數ニ係ル稅額）

第二期 翌年一月一日ヨリ同三十一日限（七月一日ヨリ十二月三十一日迄査定石數ニ係ル稅額）

稅額）沖繩縣、小笠原島、伊豆七島ニハ當分本法ヲ施行セス

一、明治三十一年十二月法律第二十三號ヲ以テ酒造税法中造石稅及納期其ノ他ヲ改正ス

納期 第一期 七月十六日ヨリ同三十一日限

第二期 十月十六日ヨリ同三十一日限

第三期 翌年二月十六日ヨリ同二十八日限

第四期 翌年三月十六日ヨリ同三十一日限

納稅保證物 一酒造年度見込石數一石ニ付四圓ノ割合

免許制限石數 清酒百石、濁酒五十石、燒酎五十石

一、明治三十一年十二月法律第二十四號ヲ以テ自家用酒税法ヲ廢止ス

一、明治三十一年十二月法律第二十五號ヲ以テ混成酒税法中稅率ヲ改正シ小笠原島、伊豆七島ニ本法ヲ

適用スルコトトス

一、明治三十一年十二月法律第二十六號ヲ以テ酒精營業税法ヲ廢止ス

一、明治三十四年三月法律第七號ヲ以テ酒造税法中稅率其他ヲ改正ス

一、明治三十四年法律第八號ヲ以テ酒造税法中酒精造石稅ニ關スル規定ヲ削リ新ニ酒精及酒精含有飲料

税法ヲ制定ス

一、明治三十七年四月法律第三號非常特別税法ヲ以テ第一種及第二種ノ酒類各一石ニ付五十錢第三種及

酒精又ハ酒精含有飲料同酒精分一度毎ニ二錢五厘ノ増徴ヲ課ス

一、明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別税法ニ改正ヲ加ヘ酒造稅ノ増徴ヲ第一種、第二種、第

三種及第四種ハ各一石ニ付二圓、第五種ハ一石ニ付酒精分一度毎ニ十錢、酒精又ハ酒精含有飲料ハ酒

精分二十度以下ノモノ一石ニ付二圓、同二十度ヲ超ユルモノ酒精分一度毎ニ十錢ト改ム

一、明治三十八年一月法律第三號ヲ以テ酒造税法中ニ酒類ノ定義ヲ定メ稅率ヲ改正ス

一、明治三十八年一月法律第四號ヲ以テ葡萄酒、果實酒ノ定義ヲ定メ其ノ製造ハ免許ヲ要スルコトトス

一、明治三十八年一月法律第七號ヲ以テ酒母醱及麴取締法ヲ制定シ酒類ヲ製造セサル者ノ製造スル酒母

醱又ハ麴ニ對シ政府ノ免許ヲ受クルコトトセリ

一、明治四十一年三月法律第十八號ヲ以テ稅率其ノ他ヲ改正シ沖繩縣及東京府、小笠原、伊豆七島へ本

法ヲ施行（稅法ノ稅額ノ三分ノ一）シ同時ニ非常特別税法中酒造稅、酒精及酒精含有飲料稅ニ關スル規



定ヲ廢止ス

免許制限石數ニ酒精 五十石 酒精含有飲料 十石

一、大正七年三月法律第六號、第七號ヲ以テ稅率其他ヲ改正ス

免許制限石數ニ清酒三百石、濁酒百石、燒酎十石

燒酎ノ原料中ニ玉蜀黍、馬鈴薯ヲ加フ

滓引及貯藏減量ニ清酒查定石數百分ノ五ニ引上、味淋查定石數百分ノ二控除新設

一、大正九年七月法律第十四號、第十五號ヲ以テ稅率其ノ他ヲ改正ス

味淋ノ粕漉ヲ定義中ニ加フ

燒酎原料ニ味淋粕ヲ加フ

納稅保證物ニ見込石數一石ニ付金四圓ノ割合ヲ七圓ニ高ム

原料用酒類ニ課稅セサル旨ヲ規定シ用途變更ノ場合ハ檢定石數ニ依リ課稅スルコトトス

貯藏減量ニ新ニ燒酎ニ對シ查定石數ノ百分ノ一ヲ控除ス

一、大正十一年三月法律第十六號ヲ以テ酒造稅法第八條滓引減量又ハ貯藏減量ヲ改正ス

清酒 百分ノ七、味淋百分ノ三、燒酎百分ノ二

一、大正十五年三月法律第十四號、第十五號ヲ以テ稅率其ノ他ヲ改正ス

徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵稅事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命セラレタル酒造組合ニ對シ酒類查定石數十石ニ付一圓ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ノ交付金ヲ交付スルノ制ヲ定ム

酒稅率ノ變遷

(表中アラビヤ文字ハ附則ヲ示ス)

改正年月	清酒	濁酒	白酒	味淋	燒酎	銘酒	酒類	酒類	自家用酒及免許稅
慶應四、五會計官布達	一時冥加百石ニ付 100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
慶應四、八	100%	110%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
明治二、一 民部省達	株鑑札冥加高 100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	年々冥加高 100%	70%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
明治四、七 太政官布告	新規免許料 100%	50%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	免許稅稼人一人ニ付 100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	釀造稅生酒代金ノ五分 100%	30%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
明治八、二 布告	酒造營業稅 一期 100%	30%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	











- 一、濁酒造株鑑札冥加高百石ニ付金十兩ツツ上納ノ事
  - 一、同斷年々冥加高百石ニ付金七兩ツツ上納ノ事
  - 一、醬油造株鑑札冥加高百石ニ付金五兩ツツ上納ノ事
  - 一、同斷年々冥加高百石ニ付金三兩ツツ上納ノ事
- 右之趣小前未々迄無遺漏可觸示候事

(別紙國割略)

明治四年七月太政官布告

清濁酒醬油釀造株鑑札渡方並ニ稅則ノ儀是迄一定ノ成規無之間々無鑑札ニテ自釀爲致候向々モ有之哉ノ趣元來收稅ハ其事ヲ修治スルノ要費ニ供スルノ儀ニ候處右様稅則及取締方法紛雜致シ候テハ其弊害不少ニ付今般改テ國內齊一ノ規則別紙ノ通確定相成候條自今以後無鑑札ニテ釀造不相成ハ勿論總テ成規ニ遵ヒ違犯無之様各管轄廳ニ於テ取締可致候事

(別紙) 今般清濁酒其外銘酒類並ニ醬油釀造御定稅則御改正被 仰出從前ノ株鑑札都テ廢止致シ更ニ免許鑑札大藏省租稅司ヨリ引替可相渡候間是迄渡置候鑑札ハ不洩府縣管轄廳ニ於テ取纏當未年十月限り同省へ可差出事

但鑑札壹枚毎ニ造人國郡村名前書小切ニ認メ且其管轄廳印ヲ押シ鑑札相添可差出事

一、是迄分ケ株ト唱ヘ一株ヲ二所或ハ三所へ分ケ候者有之趣右ハ自今禁止候事

一、右分ケ株ヲ以テ釀造致シ居候モノ今般改テ相願候ハハ新規鑑札下ケ渡候間願人姓名書相添前同様可差出候事

一、向後新規稼致シ度望ノ者ハ其管轄廳へ願出次第姓名其他前同様取調可差出事

一、右免許鑑札所持者以來石數ノ定限無之釀造ノ手續ハ其年造込凡積石數銘々ノ力ニ應シ造主ヨリ八月晦日限り爲申立各管轄廳ニ於テ其年柄勘辨ノ上釀造石數差定造高免許鑑札相渡シ置總体取纏石數名前等巨細認分ケ十月中大藏省租稅司へ可相届事

但當未年ハ免許鑑札引換以前ノ儀ニ付從前ノ株鑑札ヲ以テ造込石數可爲申立事

一、造高免許ノ鑑札年々稼人へ下ケ渡方ハ各管轄廳ニ於テ造込石數聞届候節別紙雛形ノ通認メ相渡可申事

一、免許料造高免許稅其外都テ各管轄廳ニ於テ綿密ニ簿冊ニ記入シ稼人幾組免許料何程造込石數何程造高稅何程ト各造人名面明細ニ認譯候調書右收稅金ニ相添年々三月限り府縣共直ニ大藏省へ相納可申事

一、管内若シ濫造ノ者有之候ハハ別紙規則ニ從ヒ科料可申付尤モ右手續ハ調書ヲ以テ其節可相届事

右ノ趣管内無遺漏可相觸事

辛未七月

民 部 省



清酒濁酒醬油鑑札收與並ニ收稅方法規則

第一則

一、新規免許鑑札願受候モノハ爲免許料清酒ハ金拾兩濁酒ハ金五兩醬油ハ金壹兩壹分宛可相納尤モ味淋白酒其外銘酒類ハ清酒ノ通タルヘキ事

但右鑑札引替ノ分ハ免許料ニ不及候事

一、免許鑑札ハ來申年ヨリ毎年八月其管轄應ニ於テ相改メ可申萬一燒失流失或ハ盜難等ニテ失ヒ候者有之候節ハ事實取糺シ手續書ヲ以テ其段租稅司ヘ申立更ニ鑑札相下可申事

但燒失等ニテ更ニ鑑札相下ケ候ヘハ新規願受ケ候節ノ免許料ノ半高上納可致候事

一、造高ノ多少ニ不拘清酒ハ稼人一箇ニ付金五兩濁酒ハ金壹兩二分醬油ハ金二分ツツ當未年ハ十月來申年ヨリ毎年八月鑑札改メ節免許稅トシテ可相納候事

但味淋白酒其他銘酒類ハ清酒ノ通タルヘキ事

一、造方休業致シ候者モ當未年ハ十月來申年ヨリ毎年八月鑑札ノ改メヲ受可申其節御定則ノ免許稅可相納事

一、休業致シ候者免許鑑札返納相願候ヘハ免許稅ニ不及候事

第二則

一、免許鑑札賣買致シ度者ハ雙方村町役人トモ連印ヲ以テ其管轄應ヘ願出不相當無之候ハハ其應ニ於テ別紙雛形ノ通繼紙證文致シ免許可致事

但買請人國郡村名前書相添管轄應ヨリ租稅司ヘ可相届事

一、右鑑札賣買ノ節證印稅トシテ賣代金百分ノ二但拾兩ニ付永二百文相納可申事

第三則

一、毎年八月免許鑑札改メ節其年ノ造高申立造高免許ノ鑑札可相願事

但當未年ハ免許鑑札引替以前ニ付從前ノ株鑑札ヲ以テ可申立來申年以來ハ今年渡置候造高免許鑑札ヘ其年ノ造高ヲ別紙雛形ノ通小切ニ認糊付致シ可差出事

附昨年ノ造高免許鑑札燒失等ノ節ハ別段書面ヲ以テ可願出事

一、右ノ如ク當年造込願高認添候昨年ノ造高免許鑑札ハ八月限リ差出候ヘハ各管轄應ニ於テ其年柄ヲ察シ國內ノ總造高ニ見比ヘ詮議ノ上相定メ九月限リ別紙雛形ノ通造高免許鑑札可相渡事

但本文鑑札ハ其管轄應ニ於テ製造致シ候儀ト可心得候事

第四則

一、清酒ハ造高改トシテ時宜見計管轄應ヨリ巡見造高相改可申事



但醬油ノ儀ハ五十石以上造ヨリハ出役ノ上可相改事  
 一、濁酒ハ時々醸造可致ニ付支配役人ノ見分ニ不及尤造込ノ都度醸造人ノ村町役人トモニ於テ見分致シ綿密ニ相改造方免許鑑札ノ數ニ不過様可取締事

第五則

一、清酒並ニ銘酒類味淋白酒等生酒代金ノ五分但百兩ニ付五兩其所前年ノ酒價平均ヲ以テ爲醸造稅每年八月造高免許鑑札相願候節金高爲書出十月中可相納事  
 一、濁酒ハ右同斷ノ三分但金百兩ニ付三兩前同様ノ振合ヲ以テ可相納事  
 一、醬油ハ前同斷ノ五厘但金百兩ニ付二分右同様ノ振合ヲ以テ可相納事  
 一、生酒代金五分ノ稅其所前年ノ酒價平均ト有之候者前年醸造イタシ候生酒ノ稅ヲ當年取立候儀ニ有之即チ當年免許ヲ請醸造イタシ候五分ノ稅ハ來申年八月前同様ノ手續ニテ取立候事(明治四年十月十四日第五百四十號增補)  
 但酒價平均ノ儀ハ前年九月ヨリ翌年二月迄ノ平均ト可心得且其最寄相場相立候市町ニ於テ二箇所或ハ三ヶ所ノ相場平均可致儀ニ付兼テ其市町相定置可申事  
 一、生酒トハ即チ醸成ノ上全ク賣出シ候升高以石數何程ト取調候儀ニ有之候事(同上增補)  
 譬へハ米高百石造込候へハ生酒何ニ當ル哉ハ其管轄廳ヨリ造高改トシテ時宜見計巡見ノ節巨細相分可申事

右ノ手續ニ付當年ハ規則ノ通免許稅ノミ取立候儀ト可相心得事

但清酒其外味淋白酒並ニ醬油等總テ右ニ準候事

一、造高免許鑑札表面並其年造高免許願ノ認方左ノ通改定致候也(同上增補)

第何號	清酒	造高免許	繼願
支元石何千何百何十何石造	何府縣支配何郡何村町	鑑札願振	當干支年
何	某	形	元石何千何百何十何石
			何府縣支配何郡何村町
			右御免許鑑札奉願候 何 某

但味淋白酒其外總テ之ニ準ス

第六則

一、免許鑑札無之自己ノ利益ヲ計リ商賣ノ爲メ密醸致シ候者於相願ハ都テ其品取上ケ清酒銘酒ハ造高百石ニ付金七拾五兩一石ニ付金三分濁酒並ニ醬油ハ造高百石ニ付金二拾五兩一石ニ付金一分ノ割ヲ以科料可申付事  
 一、其年ノ造高免許鑑札不願請自儘ニ醸造致シ候モノ於相願ハ其醸造品ハ勿論兼テ相渡シ置候免許鑑札ヲモ取上ケ且爲科料清酒銘酒類ハ造高百石ニ付金二拾五兩一石ニ付金一分濁酒並ニ醬油ハ造高百石ニ付金拾兩一石ニ付金二分ノ割ヲ以テ取立可申事



一、過造致シ候者ハ其過造ノ分ヲ取上ケ清酒銘酒類ハ造高百石ニ付金五拾兩一石ニ付金二分濁酒並ニ醬油ハ造高百石ニ付金貳拾五兩一石ニ付金一分ノ割ヲ以テ科料可申付事

但取上候諸品並ニ釀造ノ分共入札拂可申付事

一、免許鑑札並ニ造高免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事

但免許鑑札借受釀造候者有之相願ルルニ於テハ規則第六則密釀ノ廉ヲ以處分シ造高免許鑑札ハ同則第二條自備釀造ノ廉ヲ以テ處分可致貸渡候者ハ免許料五倍ノ科料金免許鑑札造高免可申付事(明治七年一月九日)布告第二號追加但鑑札借受釀造スル時ハ其品密釀ノ廉ヲ以テ處分スヘシ貸渡シ候者ハ其鑑札取揚ケ借受候者ノ密釀

ノ科料金ト同様可申付事(明治八年四月十二日布告第五十六號但書改定)

### 第七則

一、右様取締相立候ニ付テハ向後規則ニ背キ候取計有之候者ハ都テ定則ノ科料金可申付若シ又村町役人等ニテ釀造人ノ頼ニ寄り不正筋取計候カ又ハ不正筋ト乍存見遁シ候事共有之於相願ハ相當ノ答可申付事

一、稼人共不正筋有之候ヲ見付訴出候者ハ其品ニ從ヒ相當ノ賞譽可有之事

一、科料金並ニ取上ケ品拂代總高百兩迄ハ五分通百壹兩以上ハ三分通但百壹兩ナレハ百兩迄ノ五分ト一兩取扱候者又ハ訴出候者ハ褒美並ニ爲手當被下候ニ付管轄廳ニ於テ相當ニ配給可致候事

右ノ通規則相定候間各管轄廳ニ於テ成規ニ照準シ取締可致且收稅及ヒ科料金等ノ儀年々精細ニ調譯簿冊ニ記載シ其年十二月中府縣共大藏省ヘ可相納候事

但本文規則相立候ニ付テノ諸入費ハ府縣トモ一ヶ年試ノ上可申立事

辛未七月

民部省  
大藏省

明治四年七月布告酒造取締並ニ稅則及ヒ追々増補等ノ條共本年九月三十日限り相廢シ更ニ酒稅規則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但濁酒醬油醬麴ノ稅ハ本文同日ヨリ相廢シ候事

### 酒類稅則

(明治八年二月二十日) (明治十三年九月二十七日) (太政官布告第二十六號) (布告第四十號廢止)

#### 第一則 營業稅 釀造稅

##### 第一條

一、清酒味淋燒酎白酒銘酒米雜穀果實何品ニ限ラス釀造シ又ハ蒸溜シテ酒トナスモノ一切酒造營業又ハ請賣他ヨリ受賣候モノ營業致度者ハ其管轄廳ヘ申立免許鑑札ヲ受ケ一期ノ營業稅トシテ一期毎ニ左ノ通上納可致事

酒造營業稅

一種ニ付 金拾圓



酒類請賣營業稅

金五圓 卸賣拾圓(明治十年十二月五日) 小賣五圓(布告第八十一號改正)

但營業免許ノ期限ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期ト相定候條右一期中何月ニ新規營業候共營業免許ノ節其一期分ノ金額ヲ直ニ納稅可致事

卸賣營業鑑札ヲ受ケ小賣ヲ兼候者ハ別段小賣營業鑑札ヲ願受ルニ及ハスト雖モ小賣營業鑑札ヲ受ケ卸賣ヲ兼候儀ハ不相成候事(明治十年十二月五日) 布告第八十一號追加)

第二條

一、酒造營業ノ者ハ酒類賣捌代價拾分壹(金壹圓ニ付拾錢)醸造稅トシテ年々上納可致事 但價格ハ前年十月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ平均相場ヲ以テ管轄廳ニ於テ相定候事

第二條

一、酒造營業免許ヲ受タル者ハ其造石數ニ應シ醸造稅トシテ年々左ノ通上納可致事(明治十一年九月二十八日) 布告第二十八號改正)

一清 酒 一石ニ付 金壹圓

一濁 酒 同 金三拾錢

一白 酒 同 金貳圓

一味 淋 同 金貳圓

一燒 酎 同 金壹圓五拾錢

一銘 酒 同 金三圓

一、濁酒醸造營業ノ者ハ免許鑑札申受ケ營業稅每一期ニ付金五圓醸造稅賣捌代價貳拾分ノ一(金壹圓ニ付拾錢)年々上納可致事(明治十年十二月五日布告第八十一號追加)

第三條

一、醸造稅納期ハ毎年四月三十日限り凡半分 前年平均相場比 例ヲ以テ定ム 管轄廳へ上納殘金ハ七月ニ至リ平均相場確定ノ後上納九月三十日限り管轄廳へ皆濟可致事

第三條

一、醸造稅ハ毎年四月三十日限り見込届石數ニ相當スル稅金ノ半額ヲ上納シ殘餘ハ九月三十日限り皆納可致事(明治十一年九月二十八日) 布告第二十八號改正)

第四條

一、酒造營業ノ者ハ其一期造高見込ノ石數ヲ毎年十月中管轄廳へ可届事 但營業初年ハ免許鑑札ヲ受候節直ニ其一期中造高見込ノ石數可届出事

第五條

一、請賣營業ノ者ハ酒類請賣所ト書タル看板へ免許鑑札ノ番號ヲモ書加へ戶外ニ掲ケ可申事



第六條

一、酒造營業免許ノ者自己醸造ノ外他ヨリ買受醸造場ニ於テ賣捌クトモ更ニ受賣營業稅上納ニ不及事(明治八年七月二十二日第二百二十二號追加)

第六條

一、酒造營業免許ノ者ハ何種類ヲ問ハス他家ノ造酒ヲ買受ケ販賣スルニ於テハ受賣營業稅可相納事

(明治十一年九月二十八日)  
(布告第二十八號改正)

第七條

一、酒造營業免許ノ者一構製造場ノ外別ニ醸造場ヲ設クル時ハ其場所毎ニ更ニ酒造營業免許鑑札相受可申事(明治八年七月二十二日)  
(布告第二十八號削除)

第八條

一、酒造營業免許ノ者醸造場外ニ開店シ右醸造ノ酒類ヲ賣捌ク時ハ受賣ニ準シ更ニ受賣營業免許鑑札相受可申事(明治八年七月二十二日)  
(第二百二十二號追加)

第九條

一、酒類受賣營業免許ノ者一箇賣酒店ノ外別ニ賣酒店ヲ設クル時ハ其店毎ニ更ニ受賣營業免許鑑札相受可申事(同上追加)

一、酒類營業人ノ中行商ヲ爲ス者ハ行商鑑札其管廳ヨリ申受ケ必ス提携可致尤一戸一枚ニ限ラス願ニ依リ何枚ニテモ可相渡候條鑑札料ハ每一枚ニ付金拾錢ツツ上納可致事(明治十年十二月五日)  
(布告第八十一號追加)

一、酒類ヲ請賣スル者ハ假令飲食店ト雖モ請賣鑑札申受ケ營業稅上納可致事(同上追加)

一、行商鑑札ハ貸借決シテ不相成候條若シ貸借スル者アルトキハ其鑑札取上枚數ニ應シ鑑札料拾倍ツツノ科料可申付右鑑札ヲ所持セスシテ行商ヲ爲ス者ハ鑑札料貳拾錢ノ科料可申付事(同上追加)

第二則 鑑札検査 醸造検査

第一條

一、免許鑑札ハ毎年十月中管轄廳ニ於テ検査ヲ遂ケ其一期免許濟ノ證トシテ鑑札裏面ニ千支ノ印ヲ押シ可相渡候條管轄廳ヨリ相達次第鑑札差出検査ヲ受ケ營業稅上納可致事  
但廢業ノ者ハ其節鑑札返納可致事

第二條

一、免許鑑札若シ水火盜難等ニテ失却候節ハ其旨管轄廳へ届出新規鑑札可申受事  
但手數料トシテ金貳拾錢可相納事

第三條

一、免許鑑札ハ貸借決シテ不相成事



但免許鑑札賣買讓與又ハ改名代替轉居等ノ節ハ其旨管轄廳へ申立候ハハ鑑札引換可相渡尤前條手數料金貳拾錢可相納事

第四條

一、酒類拾石以上醸造高検査トシテ時宜見計管轄廳主任ノ官員巡視可致候條検査前ハ一切賣捌不相成事  
但醸造高拾石以下並拾石以上タリトモ季節ニ拘ラヌ醸造蒸溜ノ酒類ハ官員巡視ヲ待ニ及ハス區戶長ニ於テ精販検査ヲ遂ケ其時々石數届出候上ハ賣捌不苦事

第四條

一、造酒ハ地方廳主任官員検査可致候條其時宜可届出候事(明治十一年九月二十八日 布告第二十八號改正)  
但本文検査ノ外主任官員臨時巡回シ酒もと並ニもろみ其他酒造ニ用フル元米等ヲ検査スルコト可有之事

第五條

一、醸造税管轄廳へ上納皆濟期限前非常ノ災害或ハ腐敗等ノ儀有之節ハ其旨直ニ管轄廳へ届出主任ノ官員検査ノ上他ノ品類ニ變製シ販賣スル者ハ其賣代價拾分ノ壹ヲ上納シ全ク廢棄ニ至ル者ハ其石數ニ係ル醸造税上納ニ不及事  
但検査済ノ腐敗酒ヲ以テ有税ノ酒類ニ變製候共其酒類ニ屬スル營業税ハ別段上納ニ不及事

第五條

一、醸造税地方廳へ上納皆濟期限前非常ノ災害或ハ腐敗等ノ儀有之節ハ其旨直ニ地方廳へ届出主任ノ官

員検査ノ上他ノ有税酒類ニ變製スル時ハ更ニ其酒類ニ屬スル醸造税ヲ上納スヘシト雖モ全ク廢棄ニ至ルモノハ其石數ニ係ル醸造税上納ニ不及候事  
但検査済ノ腐敗酒ヲ以テ有税ノ酒類ニ變製候共其酒類ニ屬スル營業税ハ別段上納ニ不及候事

(明治十一年九月二十八日 布告第二十八號改正)

第六條

一、若シ非常ノ災害或ハ腐敗等ノ儀其節届出スシテ検査ヲ受ケサル者ハ既ニ届出タル石數ヲ以テ醸造税上納可致事

第七條

一、酒造營業免許ノ者ハ検査未済ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ飲料贈物等ニ供シ候儀ハ不相成候事  
但検査ノ後自飲等ニ供スル分ト雖モ其醸造税ハ免除不致候事(明治十一年九月二十八日 布告第二十八號追加)

第八條

一、清酒搾リ器械へハ主任官員ノ封印ヲ附シ置キ常ニ之ヲ用フルヲ許サス候條使用ノ節ハ其旨届出開封ヲ請フヘキ事(同上追加)

第三則 賞罰例

第一條



一、免許鑑札ヲ受ケス密造營業致シ候者ハ其酒類ハ勿論器械共取上ケ壹石ニ付金七拾五錢ノ割ヲ以テ科料可申付事

但密造酒類既ニ賣捌候ハ、其代金取上ケ可申事

第二條

一、免許鑑札借受酒造營業致シ候者ハ前條密造同様處分致シ貸渡シ候者ハ一期營業稅五倍ノ科料可申付事

第二條

一、免許鑑札借受酒造營業致シ候者ハ前條密造同様處分致シ貸渡シ候者ハ鑑札取揚ケ借受ケ候者ト同様ノ科料可申付事(明治八年四月十二日)  
(第五十七號改正)

第三條

一、釀造高検査ヲ受ケス又ハ検査ノ際釀造高ヲ隱蔽シ賣捌候者ハ其賣代金取上ケ密造同様ノ科料可申付事

第四條

一、免許鑑札ヲ受ケス請賣營業致シ候者ハ一期營業稅五倍ノ科料可申付事

第五條

一、免許鑑札ヲ借受ケ請賣營業致シ候者ハ前條同様ノ科料申付貸渡シ候者ハ一期營業稅三倍ノ科料可申付事

第五條

一、免許鑑札ヲ借受ケ請賣營業致シ候者ハ前條同様ノ科料申付貸渡シ候者ハ鑑札取揚ケ借受ケ候者ト同様ノ科料可申付事(明治八年四月十二日)  
(第五十七號改正)

第六條

一、區戸長ニ於テ検査ノ節不正ノ取計致シ候歟或ハ不正ノ情ヲ知り見逃シ候儀有之ニ於テハ律ニ照シ處分可致事

第六條

一、検査ノ際其造石數ヲ隱蔽シ未タ賣捌カサル者ハ其酒類ヲ取揚タル上壹石ニ付金七拾五錢ノ割ヲ以テ科料可申付事(明治十一年九月二十八日)  
(布告第二十八號改正)

第七條

一、前條々ニ掲ケタル處ノ犯人ヲ見届訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ科料金並ニ取上品拂高金拾圓ニ付壹圓宛下サルヘキ事

第七條

一、造石検査未済ノ酒類ヲ自飲用ニ用フル者アル時ハ其石數ニ係ル釀造稅ヲ徵收スルハ勿論壹石ニ付金七拾五錢ノ割ヲ以テ科料可申付事(明治十一年九月二十八日)  
(布告第二十八號改正)

第八條

一、検査官ノ許可ヲ得スシテ猥リニ器械ノ封印ヲ解披スル者ハ金拾五圓以下六圓以上ノ科料可申付事

(明治十一年九月二十八日)  
(布告第二十八號追加)







但石數ハ合數ニ止ム

每桶ヘ掲載スヘキ番號ハ一家毎ニ起號シ桶數ニ應シテ其順號ヲ定ムヘシ

第七條 毎年釀造高検査ノ節ハ每桶掲載ノ石數ヲ以テ總石數ヲ定ムヘキ事

第八條 蒸餾酒類ニ用フル瓶ノ類ハ第六條ニ準シ調査方實際適宜ヲ以テ取極ムヘキ事

第九條 桶類ノ石數ニ充タサル減石ヲ造込シ分ハ其現實石數ヲ豫メ酒造人ニ爲申立尙實際ニ於テ検査ヲ

遂クヘキ事

第十條 營業稅ハ十月三十一日限り各廳ニ收入十一月三十日限り租稅寮ニ相納手數料ハ鑑札書換引替之

都度取立翌月末限り租稅寮ニ可相納事

第十一條 釀造稅ハ規則之通凡半方四月三十日限り收入五月三十一日限り租稅寮ニ相納メ殘金之儀ハ九

月三十日限收入十月三十一日限租稅寮ニ可相納事

第十二條 酒類諸稅帳ハ十一月三十日限り酒類營業人員並釀造(元)石高帳ハ十二月二十五日限り租

稅寮ニ可差出事(明治八年七月十九日大藏省達第九十九號ヲ以テ「元」ノ字削除シ製酒ノ石數見込申立サセ候儀ニ達)

但一旦届済ノ石高増減有之分並右期限後新規免許候者ノ釀造(元)石高ハ其時々届出ヘシ

第十三條 免許鑑札検査シ營業稅取立之節相用フル干支之印ハ **乙亥收稅** 如圖ノ各廳ニ於テ彫刻致置相用

可申事

第十四條 免許鑑札毎年検査ヲ遂ケ其年々相當セル干支ノ印ヲ裏面ヘ押印シ餘白盡キタル上ハ更ニ新鑑

札引換相渡スヘシ尤手數料取立ニ及ハサル事

第十五條 酒類諸稅 免許鑑札元拂計算帳ハ十一月三十日限租稅寮ニ可差出事

但廢業並引換ノ舊鑑札ハ甲年十月ヨリ乙年九月迄ノ分取纏メ租稅寮ニ返納致スヘシ

### 酒造稅則 (明治十三年九月二十七日) 布告第四十號

#### 第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ク

ヘシ

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ納稅保證ノ爲メ管廳ニ於テ相當ト認ムル所ノ保證物ヲ差出スカ若ハ資

産ヲ有スル保證人ヲ立ツルニアラサレハ前項ノ免許ヲ與ヘサルヘシ(明治二十三年七月八日) 法律第四十九號追加

一 第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

二 酒類造石稅ノ滯納處分ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三 所有不動産ノ價額造石稅四分ノ一ニ滿タサル者

保證物ノ種類及保證人ニ要スル條件ハ大藏大臣之ヲ定ム



第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ

二類 蒸餾酒 燒酎酒精再餾酒精其他蒸餾シタルモノヲ云フ (明治十五年三月二十三日布告) 第十七號酒精再餾酒精加入

三類 再製酒 銘酒味淋白酒等釀造蒸餾ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許税及造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許税

酒造場一箇所ニ付 金三十圓

酒類造石税

一類 一石ニ付 金二圓 二類 一石ニ付 金三圓 三類 一石ニ付 金四圓

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許税及造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ (明治十五年十二月二十七日) 布告第六十一號改正

酒造免許税

酒造場 一箇所ニ付 金三十圓

酒類造石税

一類 一石ニ付 金四圓 二類 一石ニ付 金五圓 三類 一石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス (明治十五年十二月二十七日) 布告第六十一號追加

清酒 百石 濁酒 十石

一類 清酒濁酒ヲ除ク 二類、三類 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ツヘシ (同上追加)

第五條 免許ヲ請フ者ハ毎年九月三十日迄ニ管廳ニ願出ヘシ右期日ヲ過クレハ免許セサルモノトス (明治十五年三月二十三日) 布告第十七號削除

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ (明治十五年十二月二十七日) 布告第六十一號追加

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ三月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

十月一日ヨリ二月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數 (明治十五年三月二十三日) 布告第十七號改正

第二期 七月三十一日限

四月一日ヨリ六月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數



三月一日ヨリ六月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數(同上改正)

第三期 九月三十日限

十月三十一日限

(明治十九年十二月十六日勅令第七十九號ニテ九月十月ニ改正)

七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル税額並前納額ノ殘數

第九條 造石税ハ左ノ四期ニ納ムヘシ(明治二十三年七月八日法律第四十九號改正)

第一期 四月十五日限

十月一日ヨリ一月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 八月十五日限

二月一日ヨリ五月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 十一月十五日限

六月一日ヨリ九月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ全數並第一期第二期ニ係ル殘納ノ半數

第四期 一月十五日限

前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出検査ヲ受ケ現石數ニ付納税スヘシ(明治十五年十二月二十七日布告第六十一號追加)

第六十一號追加

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其

酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ(同上追加)

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十一條 營業免許後不動産ヲ賣渡讓渡及抵當トシ其現在スル價額造石税四分ノ一ニ滿タサル場合ニ於

テハ第一條第二項ニ依リ更ニ保證物ヲ差出スカ若ハ保證人ヲ立テシムヘシ

前項ノ保證物ヲ差出サス若ハ保證人ヲ立サルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ検査済酒類ニ係ル造石税

ヲ納メシムヘシ(明治二十三年七月八日法律第四十九號改正)

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ム

ヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税ハ總石數ヲ以テ之

ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石

シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石

數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ



但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

第十六條 検査済酒類納税以前ニ於テ腐敗シ若ハ天災其他避クヘカラサル事故ニ依リ廢棄ニ屬シタルト

キハ直ニ管廳ニ申出テ検査ヲ受ケ其造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得(明治二十三年七月八日法律第四十九號改正)

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ(其製成スルヲ得サル者及ヒ廢

棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ヲ免除ス)(明治二十三年七月八日法律第四十九號活基内削除)

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もト其他仕込米及ヒ

營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳ヘ申出其容量ノ検査ヲ受クヘシ

但賣買等ハ其時々管廳ヘ届出ヘシ

第二十條 酒造用諸器械ノ使用以前管廳ヘ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳ヘ届出ツヘシ

(明治十六年八月四日布告第二十六號改正)

造酒着手後造石税完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得シテ諸器械ヲ酒造場外ヘ移スコトヲ許サス

酒造用諸器械ヲ賣買讓與貸與及所持主ヘ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラズ検査済ニ係ル造石税ヲ完納ス可シ(明治二十三年七月八日法律第四十九號)

削除

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もとヲ販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もどノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニアラス(明治十五年三月廿三日第十七號布告追加)

第二十二條 都テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ代造スルヲ許サス

第二十二條 他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造

場ヲ貸スヲ許サス(明治十五年十二月二十七日布告第六十一號改正)

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ所用ニ消糜スルヲ許サス

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消糜スルヲ許サス

検査既済ノ酒類ヘ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス(明治十五年十二月二十七日布告第六十一號本條改正)

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒樽リ器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數並ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換並見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋並ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ



但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

#### 第四章 罰 令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及製造諸器械トモ沒收シ免許稅額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類並ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 造酒石數ノ検査ヲ受ケスシテ賣捌キタル時ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒類石數ノ検査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(明治十五年十二月二十七日) 布告第六十一號改正

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 検査ノ際酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ但未製成ノ酒類もともろみノ類ト雖モ隠蔽シタル者ハ本條ニ據テ處分ス

第三十二條 酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(明治十五年十二月二十七日) 布告第六十一號改正

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 前條々ニ明記スルモノ、外第三章中ノ正條ニ違犯スル者ハ一圓ヨリ少ナカラス三十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條(又ハ第二十條)ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(明治十五年十二月二十七日) 布告第六十一號改正 十六號又ハ以下六字削除

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス第二十條ヲ犯シテ検査ヲ受ケサル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス(明治十五年十二月二十七日) 布告第六十一號追加

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス(明治十六年八月四日) 布告第二十六號改正

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス(明治十五年十二月二十七日) 布告第六十一號追加

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス



但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス(同上追加)

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス  
(同上追加)

附 則

酒造營業者ニアラスシテ自家飲用ノタメ酒類ヲ製造スルモノハ一箇年一石各種製造スルトキニ超ヘカラス若シ一石ヲ超ルトキハ總テ本則ニ從フヘシ

酒造稅則附則 (明治十五年十二月二十七日) 布告第六十一號改正

第一條 自家用料ノ酒類飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シラ製造セント欲スル者ハ其旨管廳ヘ届出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八十錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス(明治十九年七月二十八日) 勅令第六十號追加

第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス(明治十九年七月二十八日) 勅令第六十號追加

- 一 酒類受卸小賣營業者
- 一 飲食店又ハ旅館屋營業者

一 前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高一石二種以上製造スル者ヲ超ユルヲ得ス(若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ) (明治十五年十二月二十七日布告第六十一號若シ以下) (追加明治十九年七月二十八日勅令第六十號同文削除)

第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造(スルヲ得ス)シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス(明治十九年七月二十八日勅令第六十號ヲ以テ「スルヲ得ス」ノ五字削除シ又「シ」以下十九字加入)

第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ官廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ(明治十九年七月二十八日勅令第六十號) 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス(同上追加)

第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器(犯罪ニ係ル物品及ヒ器械)ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ(明治十九年七月二十八日勅令第六十號)

第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ハ其ノ鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ニ同シ(明治十九年七月二十八日) 勅令第六十號追加

第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス



酒造稅則取扱心得書 (明治十三年十一月二十四日) (大藏省達乙第三十九號)

第一項 營業免許

第一項 免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ租稅局ヘ申出之ヲ受取置クヘシ

第二項 免許鑑札雛形及ヒ其記載方ハ第一號圖式ノ如シ

第三項 酒造場ハ倉庫ノ棟數ト製酒ノ種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ免許鑑札ヲ授與ス

第四項 免許鑑札ハ其年一期有効ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フ者アルトキハ最初授與シタル鑑札ヲ

差出サセ其鑑札ノ裏面ヘ該期ノ免許證印第五項雛形ノ如シヲ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ

但鑑札裏面餘白盡キタルトキハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第五項 免許證印ハ左ノ雛形ノ如ク各府縣廳ニ於テ調印スヘシ

但其證印方郡區長ヘ委任ノ向ト雖モ各府縣廳ニ於テ之ヲ調製シ相渡スヘシ

明治何年一期  
酒造免許ノ證

細輪廓 字体階書 印肉朱  
寸法 堅幅曲尺一寸四分 橫幅曲尺四分

第六項 免許鑑札ノ授與ハ新規營業ト引續營業ヲ問ハス年々十月一日執行スルモノトス

第七項 稅則第六條免許鑑札賣買讓與ノ節其書換方若シ甲乙兩管廳ニ交渉スルトキハ双方連署ノ書面ニ

免許鑑札ヲ添ヘ甲管廳賣渡讓渡人所在ノ管廳ニ出願セシメ甲管廳ニ於テハ乙管廳買受讓受人所在ノ管廳ヘ添輸該明免許稅納済且免

但酒造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩管廳ニ交渉スルモノモ本項ノ手續ニ據ルヘシ

第八項 廢業ノ者ハ其届出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムヘシ

第九項 廢業並書換等ノ返納鑑札ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ十年當省乙第七號達ニ據リ不取締無之様消却

第十項 稅則第五條每年九月三十日迄トアルハ新規又ハ引續共翌期ノ營業免許ヲ出願セシムルノ期限ト

心得ヘシ

第十一項 稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ト雖モ一期製造見込ノ種目石數等總テ稅則第二十六條ニ依リ

届出シムルハ勿論一期製造ノ分ハ其石數翌期十月中ニ届出シムヘシ

第十二項 稅則第二十六條酒造見込ノ種目トアルハ清酒濁酒燒酎白酒味淋ト其種目毎ニ掲記セシムル義

ト心得ヘシ

但銘酒ハ直酒保命酒桑酒養老酒菊酒紫蘇酒あられ酒南蠻酒等各其酒名ヲ分記セシムヘシ

第十三項 稅則第二十七條酒造ニ屬スル倉庫納屋等ハ其實況詳細繪圖面ニ製シ且該器械ハ第二號雛形ノ

通取調之ヲ差出サシムヘシ



但本文調書中増減及書換等アルトキハ其時々更ニ調書ヲ製シ引換ヲ乞ハシムヘシ

第十四項 税則第二十八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製セシムヘシ

但石數ハ最初届出ノ見込高ヲ掲記シ増減アルトキハ其時々札紙ヲ貼付シ之ヲ更訂セシムヘシ

寸法 堅幅 曲尺 三尺 横幅 製酒種類ノ數ニ依リ適宜定ムヘシ

第何一號	清酒	何石造
	白酒	何石造
	何府縣國郡町村番地	
	何	
	某	

第十五項 營業者ノ屬籍住所ト酒造場ト甲乙兩管應ニ交渉スルモノハ都テ酒造場所在ノ管應ニ於テ免許

鑑札ヲ授與シ造酒検査及ヒ徵稅方等取計フヘシ

第二一欸 桶瓶調査

第十六項 税則第二十條酒桶瓶類調査方ハ第三號書式ノ如ク豫メ調査簿甲乙二帳ヲ製シ置キ新規輪替等

調査ノ都度詳細ニ之ニ記入シ酒造検査方ノ照據ニ供スヘシ

但甲帳ハ管應ニ備置キ乙帳ハ營業者ニ下付シ置クヘシ

第十七項 營業者ヨリ前項桶瓶類ノ新調等ヲ届出タルトキハ其時々主任官出張シテ左ニ掲クル所ノ丈量法

及ヒ算則ニ依リ詳密ニ調査ヲ遂ケ桶ノ側面ヘ左ノ件々ヲ掲載シ管應ノ烙印ヲ爲スヘシ

番號

口徑 何程 胴徑 何程 底徑 何程

深サ 何程 石數 何程

調査ノ年月日

調査人官姓名

酒造桶類丈量法

口徑 口頭ヨリ一寸 胴底 口底徑 底板面ハ就レモ内測リニテ縱横 $\oplus$ 圖ノ如ク度リ此縱横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ

除シ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前宜<sub>呑栓等適</sub>後<sub>其背</sub> 孰レモ底ヨリ口徑迄ノ間ヲ丈量シ此前後ノ尺度ヲ和シ

之ヲ二ニテ除シ以テ定ムヘシ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算則

口胴底ノ三徑ヲ各箇自乘シ此三箇ヲ和シ之ヲ三ニテ除シ以テ實トス之ニ深サヲ乘シ又圓積率<sub>七八</sub>ヲ乘

シ而シテ升法<sub>六四八</sub>ヲ以テ除シ其容量ヲ得ル

但石數ハ合位ニ止メ勺以下切捨ツヘシ



第十八項 瓶類容量ハ總テ桶類ニ準シ之ヲ査定スヘシ其準シ難キモノハ便宜適實ノ方法ヲ以テ之ヲ査定スヘシ

但番號石數等ハ適宜木札ニ書載シ之ヲ正面ニ付シ置カシムヘシ

第十九項 桶瓶類ノ番號ハ倉庫ノ數ト酒類ノ種別トニ拘ラス總テ酒造場一箇所毎ニ起號シ桶瓶類ノ總數ニ應シテ其順次ヲ定ムヘシ

第二十項 粕桶水桶米浸シ桶ノ類ニシテ全ク酒類ヲ容レサル分ハ丈量ニ及ハスト雖モ番號前項桶瓶類ノ類號ヲ逐フヘシ

第二十一項 調查濟ノ桶瓶類賣買讓與又ハ貸借スルトキハ其旨双方連署ノ書面ヲ以テ届出サセ其賣買讓與スルモノハ主任官出張ノ上其桶瓶類ノ番號ヲ書換ヘ且調査簿ヲ加除シ其貸借スルモノハ直ニ調査簿ニ記入スヘシ其營業者ニアラサル者へ賣渡スカ又ハ破解スルモノハ桶側面ニ記載ノ件々ヲ削除シ調査簿ヲ削却スヘシ

但本文賣買讓與等ノ節若シ甲乙兩管應ニ交渉スルトキハ第七項ニ準シ其手續ヲ爲スヘシ尤桶瓶類ノ番號書換及調査簿記入等買受讓受人ニ關スル處分ハ乙管應ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十二項 稅則第二十五條器械ノ封緘ハ各府縣應ニ於テ豫メ一定ノ方法ヲ相立テ搾器械ハ酒精ノ桶口

並男柱ノ孔蒸溜器械ハ兜釜等緊要ノ箇所へ嚴重封緘ノ上主任官ノ檢印ヲ捺スヘシ

但封緘ノ爲メ繩類ヲ要スルトキハ緊牢ナルモノヲ用キ封紙ハ管應ノ印章ヲ捺シ且其封緘ハ年月日ヲ記シタルモノヲ用キ弛緩剝脫ノ患ナキ様取計フヘシ

第二十三項 開封ヲ願出ルトキハ時日ヲ遷サス主任官出張シ使用又ハ洗滌ノ日數ヲ計查シ至當ト思惟ニ

當ル時ハ其封印ヲ開披スヘシ而シテ使用等ノ日數滿限ニ至レハ再ヒ出張シテ前項ノ手續ニ據リ之ヲ封緘スヘシ

第二十四項 前項封緘並解披ノ年月日及ヒ使用等ヲ許シタル日數ハ第四號書式ノ如ク詳細ニ記入シ營業者ヲシテ調印セシムヘシ

第四款 造石檢查

第二十五項 稅則第十條造石檢查ハ收稅額ヲ定ムル基礎ニシテ最モ緊要ノ件ニ付諸事注意ヲ加フヘシ且

檢查ハ營業者ノ申出ニ依リ速ニ取計ヒ營業ノ差支トナラサル様之ヲ處辨スヘシ

第二十六項 檢查季節ニ至レハ各府縣應ニ於テ營業者ノ多寡及ヒ地形ノ難易等ニ據リ管内ヲ數部ニ分テ

每部檢査員出張所ヲ設ケ主任官二名以上ヲ駐在セシメ該檢査ニ係ル一切ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

但檢査ニ關スル諸般ノ手續ハ豫メ營業者へ達シ置クヘシ

第二十七項 造石檢査簿ハ第五號書式ノ如ク酒造場毎ニ甲乙二帳ヲ製シ置キもと、もろみ、製酒等ヲ檢



査シ其時々詳細ニ之ヲ記入スヘシ  
但甲帳ハ主任官之ヲ携帶シ乙帳ハ營業者ニ下付シ置クヘシ

第二十八項 造石検査ヲ受クヘキ酒類ハ桶瓶等口頭ヨリ一寸ヲ減シ側面記載ノ石數ヲ入置カシムヘシ

第二十九項 造石検査ノ節ハ每桶査定ノ石數ヲ通算シテ總石數ヲ定ムヘシト雖モ其査定ノ石數ニ充タラ

ルモノハ現在ノ入實ニ就テ其石數ヲ調査スヘシ

但本文入實胴徑ヨリ以下ニ在ルモノハ其口徑現在ノ入實ト深サトヲ度リ之ニ査定ノ底徑ヲ用キ算出ス

ヘシ又胴徑ヨリ已上ニ在ルモノハ該方法ニ依リ胴徑ノ已下已上ヲ區別シ各箇ニ石數ヲ算出胴徑以上ヲ算出スルト

キハ胴徑ヲ底徑ニ換用スシ之ヲ合算スヘシ

第三十項 酒類皆造ノ検査ハ第三期納税ニ差支ヘサル様之ヲ完了スヘシ

第三十一項 検査期節中營業者疾病事故アルトキハ其營業熟知ノ代理人ヲ定メ届出シムヘシ

第三十二項 税則第十九條ニ基キ營業者ヲシテ左ニ掲クル所ノ諸帳簿ヲ製シ詳細ニ記入シ置カシメ造石

検査ノ際之ヲ参照ニ供セシムヘシ

酒造米買入帳 搗米通帳 仕込帳 杜氏仕込帳 酒蔵出帳 酒賣上帳 酒貨帳 酒造米仕拂帳

杜氏並日雇給料帳 荷物判取帳 金錢判取帳 樽貸帳 積出帳 酒粕糖賣拂帳 酒造諸器械

賣買控帳酒粕目方帳

此他酒粕麴麥萌シ及銘酒類ニ加味スヘキ品類買入帳等一切

第三十三項 他家ノ造酒ヲ買受ケ販賣スルトキハ其石高及代價等ヲ詳記シタル仕切書又ハ送り狀等ヲ取

置カシメ造石検査ノ際之ヲ参照ニ供セシムヘシ

第三十四項 税則第十五條検査濟ノ酒類ヲ變製税則第二條一類ノ酒ヲ二類ニスルトキハ該條ニ據ルヘシト雖モ

一酒類中ノ變製濁酒ヲ清酒ニ味淋ヲ銘酒ニ變製スルノ類ニ係ルトキハ單ニ其變製シタルモノニ就テ課税ノ石數ヲ査定スヘシ

第三十五項 検査濟ノ酒類並買入酒等ヲ粕漉ニスルトキハ其時々前以届出サセ之ヲ検査スヘシ

第三十六項 酒類ノ火入滓引等ハ造石検査ノ後之ヲ爲サシムヘシ

第三十七項 税則第十六條酒類並ニもろみ共非常ノ損害ニ罹リタルトキハ營業者ヨリ其實況ヲ詳記シタ

ル書面ヲ以テ届出シムヘシ而シテ右届出ヲ受ケタルトキハ時日ヲ遷サス主任官出張シ實際詳密ニ検査

ヲ遂ケ事實相違ナシト認ムルトキハ造石検査簿上該石數ヲ削除スヘシ

第三十八項 前項検査セシ酒類ヲ變製セント欲スルトキハ更ニ變製酒ノ種目並石高共詳記シタル書面ヲ

差出サセ調査ノ上至當ト思惟スルトキハ之ヲ認可シ尙製成ノ上精數ニ検査シ之ヲ造石検査簿ニ記入ス

ヘシ

第三十九項 税則第十八條造石税免除ノ酒類ハ検査ニ及ハスト雖モ他ノ酒類取締ノ爲メ便宜ニ主任官出

張シ之ヲ點檢スヘシ



第四十項 稅則附則ニ據リ酒類一箇年一石以上ヲ製造スル者ハ其旨願出サセ免許鑑札ヲ下付シ免許稅ヲ徵收シ及ヒ造酒檢査ノ上造石稅ヲ徵收スヘキハ勿論其一石已下ヲ製造スル者ト雖モ其酒類ノ種目並造石共届出サセ實際不取締無之様取計フヘシ

第五款 課稅區別

第四十一項 造石稅納期已前免許鑑札ヲ賣與讓與シ又ハ廢業スル者ノ檢査濟酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納セシムヘシ

第四十二項 營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類酒もとヲ除クヲ販賣スル者ハ其旨届出サセ詳密ニ檢査ノ上其石數ニ應シ稅則第二條ノ類別ニ據リ課稅スヘシ

第四十三項 免許鑑札賣讓與シ又ハ廢業ノ節未製成ノ酒類酒もとヲ除クヲ營業者ニ賣渡ストキハ双方連署ノ書面ヲ以テ届出サセ檢査ヲ遂ケ且製成ノ上ハ更ニ之ヲ檢査シ該酒類ノ石數ニ依リ課稅スヘシ其營業者ニアラサル者ニ賣渡ストキ其酒類ニ係ル造石稅ハ第四十一項ノ手續ニ依リ之ヲ完納セシムヘシ但本文酒類賣買ノ節若シ甲乙兩管應ニ交渉スルトキハ第七項ニ準シ其手續ヲ爲スヘシ尤製成ノ酒類ヲ檢査シ及ヒ其石數ニ係ル造石稅徵收方等ハ乙管應ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第四十四項 稅則第十八條葡萄酒及ヒ麥酒ノ類トハ總テ西洋酒模製ニ係ルモノヲ謂フ實際疑似ニ涉ルモノハ其製造方法等ヲ詳記シ大藏省ヘ稟議スヘシ

第六款 申牒期限

第四十五項 新規營業者人員ハ每一期分第六號雛形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ其期十月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第四十五項 製造場ノ員數ハ第六號雛形ニ倣ヒ報告書ヲ調製シ左ノ期限通り差立租稅局ヘ送附スヘシ  
(第六號雛形略ス)(明治十五年十月十二日)  
(大藏省達第三十七號改正)

第一回 十月ヨリ十二月迄 免許セシ分 一月十五日限

第二回 一月ヨリ六月迄 同 七月十五日限

第三回 七月ヨリ八月迄 同 十月十五日限

第四十六項 一期造酒見込届出ノ種目石數ハ第七號雛形ニ倣ヒ種目石數表ヲ調製シ其期十一月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ  
(明治十五年十二月二十一日)  
(大藏省達第五十二號削除)

第四十七項 前項届出ノ後造酒石數ノ増減ハ第八號雛形ニ倣ヒ増減表ヲ調製シ左ノ期限ノ通り差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第一次 三月三十一日マテ 届出タル分 四月十五日限

第二次 四月一日ヨリ 届出タル分 七月十五日限  
六月三十日マテ

第三次 七月一日ヨリ 届出タル分 九月十五日限  
八月三十一日マテ

第四十七項 一期造酒見込届出ノ種目石數ハ第八號雛形ニ倣ヒ報告表ヲ調製シ左ノ期限通り差立租稅局ヘ送付スヘシ(第八號雛形略ス)(明治十五年十二月二十一日)  
(大藏省達第五十二號改正)



- 第一次 二月マテ 届出タル分 三月十五日限
- 第二次 三月ヨリ 届出タル分 七月十五日限
- 第三次 六月マテ 届出タル分 九月十五日限

第四十八項 造酒検査済石數ハ第九號雛形ニ倣ヒ石高表ヲ調製シ左ノ期限ノ通り差立テ租稅局ヘ送付ス  
ヘシ

- 第一期 三月三十一日マテ 検査済ノ分 四月十五日限
- 第二期 四月一日ヨリ 六月三十日マテ 検査済ノ分 七月十五日限
- 第三期 七月一日ヨリ 八月三十一日マテ 検査済ノ分 九月十五日限
- 第一期 十月ヨリ 検査済ノ分 三月十五日限
- 第二期 三月ヨリ 検査済ノ分 七月十五日限
- 第三期 七月ヨリ 検査済ノ分 九月十五日限

第四十九項 免許鑑札受拂ハ每一期分第十號雛形ニ倣ヒ計算表ヲ調製シ翌期十月十五日限差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第五十項 返納鑑札消却ノ分ハ第十一號雛形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ翌期十月十五日限差立テ租稅局ヘ送付スヘシ  
（明治十五年十月十二日大藏省達第三十七號削除）

- 第五十項 各酒造場ノ造酒石高並類別ハ第十一號雛形ニ倣ヒ石高區分並類別表ヲ調製シ翌期十月十五日限差立租稅局ヘ送付スヘシ  
（明治十六年六月二十二日大藏省達第四十三號追加）
- 第五十一項 免許稅造石稅ハ每一期分第十二號雛形ニ倣ヒ稅表ヲ調製シ翌期十月三十日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ
- 第五十二項 本書第十一項造石稅免除酒類ノ種目石數ハ每一期分第十三號雛形ニ倣ヒ種目石數表ヲ調製シ製造見込高ハ其期十一月十五日限リ製成高ハ翌期十一月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ
- 第五十三項 自家用料酒類製造免許鑑札ハ酒類製造營業免許鑑札ノ雛形ニ據リ府縣廳ニ於テ調製ノ上酒造營業者ニ準シ之ヲ下渡スヘシ  
（明治十六年二月二十日大藏省達第九號追加）
- 但鑑札面酒類製造營業免許鑑札トアルヲ自家用料酒類製造免許鑑札ト記スヘシ
- 第五十四項 自家用料酒類製造ノ者ハ其種目及ヒ造石高ヲ管轄廳ヘ届出サシムヘシ  
（同上追加）
- 但造高ノ増減及ヒ其種目ノ變換等ハ其都度届出サシムヘシ
- 第五十五項 自家用料酒類製造免許料ノ徵收及ヒ造石検査ノ場合ニ於テハ酒造營業者ニ準シ之ヲ取扱フヘシ  
（同上追加）
- 第五十六項 自家用料酒類製造免許料及造石届高ハ別紙雛形ニ倣ヒ每一期分調製シ翌期十月三十日限リ差立租稅局ヘ送付スヘシ  
（同上追加）



醬麴營業稅則

(明治十三年九月二十七日) (布告第四十一號)

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醸造酒類醸造酒類と醬麴ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

營業營業稅

金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ニ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ検査ヲ受クヘシ

營業及仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ検査スヘシ (明治十五年十二月二十七日) (布告第六十二號追加)

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ營業賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 罰 令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 營業營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣營業ヲ爲シ又ハ酒類醬麴ヲ製造スルヲ許サス (明治十五年十二月二十七日) (布告第六十二號追加)

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ (同上追加)

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス (同上追加)

第十五條 營業營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス (同上追加)

沿革 明治六年大藏省達第六十七號ヲ以テ營業營業者ニ免許鑑札ヲ付與シ營業稅ヲ徵ス同八年布告第二十六號ヲ以テ營業稅ヲ廢ス



替麴營業稅則取扱心得書

(明治十三年十一月二十四日)  
大藏省達乙第四十號

第一款 營業免許

- 第一項 免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ租稅局ヘ申出之ヲ受取置クヘシ
- 第二項 免許鑑札雛形及ヒ其記載方ハ第一號圖式ノ如シ
- 第三項 製造場ハ倉庫ノ棟數ニ拘ラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ免許鑑札ヲ授與スヘシ
- 第四項 免許鑑札ハ其年一期有效ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フ者アルトキハ最初授與シタル鑑札差出サセ其鑑札ノ裏面ヘ該期ノ免許證印第五號雛形ノ如シヲ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ
- 但鑑札裏面餘白盡キタルトキハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ
- 第五項 免許證印ハ左ノ雛形ノ如ク各府縣廳ニ於テ調製スヘシ
- 但其證印方郡區長ヘ委任ノ向ト雖モ各府縣廳ニ於テ之ヲ調製シ相渡スヘシ

明治何年 一期  
替麴營業免許之證

細輪廓 角 切 字体楷書  
印肉朱 寸法豎巾曲尺一寸四分  
横巾曲尺四分

- 第六項 稅則第六條免許鑑札賣買讓與ノ節其書替方若シ甲乙兩管廳ニ交渉スルトキハ雙方連署ノ書面ニ  
免許鑑札ヲ添ヘ甲管廳賣渡讓渡人所在ノ管廳ニ出願セシメ甲管廳ニ於テハ乙管廳買受讓受人所在ノ管廳ニ於テハ乙管廳該期免許稅納済且免許鑑札ハ取置キタル旨明記ヲ作り之ヲ下渡シ乙管廳ニ於テハ甲管廳ノ添翰ニ據リ書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ
- 但製造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩管ニ交渉スルモノモ本項手續ニ據ルヘシ
- 第七項 廢業ノ者ハ其届出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムヘシ
- 第八項 廢業並書換等ノ返納鑑札ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ十年當省乙第七號達ニ據リ不取締無之様消却スヘシ
- 第九項 稅則第八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製セシムヘシ

免許鑑札ノ番號  
第 何 號  
替麴賣捌所  
何府縣國郡區村町番地  
何 某

- 第十項 稅則第五條賣上帳簿差出シタルトキハ其記載ノ石數及ヒ購求者居所姓名等精數ニ檢査ヲ遂ケ檢印ノ上下渡スヘシ而シテ該帳簿ハ營業中ノヲ保存セシムヘシ



第十一項 營業取締ノ爲メ便宜ニ主任官出張シ之ヲ點檢スヘシ

第二款 申牒期限

第十二項 稅則第四條販賣見込ノ石數ハ每一期分第二號雜形ニ倣ヒ石數表ヲ調製シ其期十一月十五日限  
差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

但本文届出ノ後其増減ハ三箇月毎ニ取纏メ製表ノ上翌月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第十三項 營麴製造場ノ員數(新規營業人員)ハ三箇月毎ニ取纏メ第三號雜形ニ倣ヒ報告表(人名表)ヲ調製シ翌  
月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ(明治十五年十月十二日大藏省達第三十七號ヲ以テ新規營業  
人員ヲ營麴製造場ノ員數ニ人名表トアルヲ報告表ト改ム)

第十四項 免許鑑札受拂ハ每一期分第四號雜形ニ倣ヒ計算表ヲ調製シ翌期十月十五日限リ差立テ租稅局  
ヘ送付スヘシ

第十五項 返納鑑札消却ノ分ハ第五號雜形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ翌期十月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ(明治十五年十月十二日  
大藏省達第三十七號削除)

第十六項 營業稅ハ每一期分第六號雜形ニ倣ヒ稅表ヲ調製シ翌期十月三十日限リ差立テ租稅局ヘ送付ス  
ヘシ

第十七項 販賣シタル石數ハ每期分第七號雜形ニ倣ヒ石數表ヲ調製シ翌期十一月十五日限リ差立テ租稅  
局ヘ送付スヘシ(第一號雜形以下略ス)

明治十六年十月二十三日大藏省達第六十九號

酒造稅則第四條第二項ニ據リ酒類製造免許ヲ受タル後非常ノ災害ニ罹リ酒類釀造元米諸器械等ヲ減損ス  
ルノ類ニシテ實際止ヲ得サルノ事故アルモノヲ除クノ外徒ラニ種々ノ口實ヲ設ケ制限石高ヨリ減却セシ  
モノハ翌期營業ノ免許ヲ與ヘサル儀モ可有之候條詳細其事由ヲ具シ見込相立稟議スヘシ此旨相達候事

明治十六年十二月十八日布告第四十二號

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ  
外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未済ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ  
三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科  
料ニ處ス

酒造稅則施行細則

(明治二十二年十月二十五日  
大藏省令第十四號)

第一條 酒造營業ノ免許ヲ得ントスル者ハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ト製酒ノ種類トヲ問ハス都テ



其一區域ヲ以テ一箇所トシ願出ヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ検査済ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ酒造場ノ附屬トスルコトヲ得ヘシ

第二條 引續酒造營業ヲ爲サントスル者ハ毎年十月一日マテニ願出ヘシ

第三條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスル者ハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出會社ヲ設ケ營業ヲ爲サントスル者ハ頭取ノ名ヲ以テ願出ツヘシ

第四條 酒類ノ火入洋引ハ造石検査ノ後之ヲ爲スヘシ

第五條 検査済ノ酒類並古酒買入酒等ヲ粕漉セントスルトキハ其時々届出検査ヲ受クヘシ但製成ノ上増石スルモノハ其石數ニ課税スルモノトス

第六條 營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類ヲ販賣スルモノハ其旨届出検査ヲ受クヘシ

第七條 税則第十六條非常ノ損害ニ罹リタル酒類アル場合ハ其實況ヲ證明シ直ニ管廳ニ届出ツヘシ

第八條 造石税納期以前免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢業スル者ハ検査済酒類ニ係ル造石税ハ其節之ヲ完納スヘシ

附 則

第九條 第二條願出ノ期限ハ本年ニ限り來ル十一月三十日迄トス

酒造税則施行細則

(明治二十三年八月二十日)  
(大藏省令第二十號)

第一條 税則第一條一項ニ從ヒ製造免許ヲ受ケムトスルモノハ其願書ニ造石見込高ヲ記シ其酒造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數トニ拘ハラス總テ其區域ヲ以テ一箇所トシ之ニ關スル地所建物ノ坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添へ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖トモ検査済ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ酒造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

税則第一條二項ニ依リ保證物又ハ保證人ヲ要スルモノハ願出ノ際保證物又ハ保證人ヲ定メ認可ヲ受クヘシ

免許ヲ受ケタル後造石見込高ヲ増加シ又ハ土地建物等ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々届出ヘシ

免許ヲ受ケタル者ニシテ翌期ニ引續キ營業ヲ爲サントスルモノハ其年十月一日迄ニ願書ニ鑑札ヲ添へ管廳ニ差出シ免許ノ證印ヲ受クヘシ

税則第一條二項一ノ年數ハ處罰ト宣告ノ日滞納處分ハ完結ノ日ヨリ免許願出ノ日迄滿三年トス

第二條 酒造場ヲ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添へ管廳ニ申出鑑札ノ書替ヲ請フヘシ

他ノ管轄地へ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添へ管廳ニ申出添書ヲ受ケ之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書替ヲ請フヘシ



第三條 免許鑑札ヲ賣買讓與セントスルトキハ雙方連書ノ書面ニ鑑札ヲ添へ管應ニ申出鑑札ノ書替ヲ請フヘシ若シ他管應ニ交渉スルトキハ前條ノ手續ニ依ルヘシ申出番書マ受マシテ管應ニ書替ニ出シ

第四條 稅則第一條二項ニ依リ徵スヘキ保證物ノ種類左ノ如シ申出鑑札ノ書替マ請フヘシ

有利公債證書

大藏省證券

日本銀行株券

正金銀行株券

國立銀行株券

政府ノ保護ヲ受クル會社株券債券

府縣郡市町村ノ公債證券

土地 建物

第五條 前條保證物ノ保證價格ハ左ノ割合ニ依テ定ム

一 公債證券ハ明治二十三年勅令第四號第三條ノ價格ニ依ル

二 大藏省證券ハ其券面ノ金額ニ依ル

三 銀行會社株券債券府縣郡市町村ノ公債證券ハ價格十分ノ八

四 土地建物ハ價格十分ノ六

第六條 稅則第一條二項三ノ所有不動産ノ價格及ヒ保證物トシテ差出スヘキ株券債券公債證券不動産ノ

價格ハ各地現賣買ノ價格ヲ標準トシテ地方長官之ヲ定ム

前項ニ依リ定メタル價格ニ付異議アルトキハ地方廳及ヒ其所有者ヨリ各二名ノ評價人ヲ撰ミ價格ヲ評

定セシメ其評定價格ノ平均ニ依リ之ヲ定ム

第七條 稅則第一條二項ニ依リ立ル所ノ保證人ハ不動産ヲ有シ又ハ所得稅ヲ納ムル丁年以上ノ男子ニシ

テ地方長官ニ於テ相當ト認ムルモノニ限ル

第八條 保證物ハ土地建物ヲ除クノ外管應ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第九條 當初ノ造石見込高ニ依リ其營業ヲ免許シタル後更ニ増石スルトキハ之ニ相當スル保證物ヲ徵シ

又ハ保證人ヲ立テシムヘシ

第十條 保證ヲ徵セスシテ營業ヲ許可シタルモノ其造石數ヲ増加シタルタメ其所有不動産價格造石稅四

分ノ一ヲ下リタルトキハ保證物ヲ徵シ又ハ保證人ヲ立テシムヘシ

第十一條 稅則第十一條營業免許後不動産ヲ賣渡讓渡及抵當ト爲ス場合ニ於テハ其不動産ノ位置番號名

稱種類段別又ハ坪數及土地臺帳記入ノ地價地租ヲ詳記シテ管應ニ届出ツヘシ

第十二條 酒造用容器ハ左ニ掲クル方法ニ依リ其容積ヲ量リ所轄租稅檢査員派出所ニ申出檢査ヲ受クヘ



シ但シ容器ニハ番號烙印及石數ノ記載ヲ受クヘシ  
酒造桶類丈量法

口徑 口頭ヨリ一寸下リタル箇所 第一胴徑 口徑ヨリ全深四分 第二胴徑 口徑ヨリ全深四分 第三胴徑 第二胴徑ヨリ全深四分 底徑 底板面ノ箇所 ハ何レモ内

測リニテ縦横 $\oplus$ 圖ノ如ク度リ此縦横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前後左右中心等

孰レモ底面ヨリ口徑迄ノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算ノ規則

(一) 第二胴徑以上ノ分

口徑ト第一胴徑ノ和ヲ自乗シ甲トス

第一胴徑ト第二胴徑ノ和ヲ自乗シ乙トス

口徑ト第二胴徑ノ和ハ第一胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、〇四〇三八四四 乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ヲ乘シ之ヲ

四ニテ除シ其容量ヲ得ル

但石數ハ合位ニ止メ以下切捨ツヘシ

(二) 第二胴徑以下ノ分

第二胴徑ト第三胴徑ノ和ヲ自乗シ甲トス

第三胴徑ト底徑ノ和ヲ自乗シ乙トス

第二胴徑ト底徑ノ和ハ第三胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ之ヲ四ニテ除シ其容量ヲ得ル

右(一)(二)ヲ合算シ滿量桶ノ石數ヲ得ル

第十三條 酒造用容器ヲ修繕シタルトキハ使用以前管廳ノ検査ヲ受クルモノトス

第十四條 甕類及胴張桶其他第十一條ノ丈量法及算則ニ依リ容量ヲ得難シト認ムルモノハ便宜適實ノ方

法ヲ以テ之ヲ測定スヘシ

第十五條 稅則第十條ノ検査ヲ受クヘキ酒類ハ其容器ノ口頭ヨリ一寸ヲ減シ容レ置クヘシ其入實容器測

定ノ全數ニ充タサル端數ハ左ノ算則ニ依ルヘシ

入實第一胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス 此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ第一胴徑ヲ減シ

徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乗シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ容積ノ深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石



數ヲ得ル

入實第一胴徑ヨリ以下ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス此口徑ヲ求ムルニハ第一胴徑ヨリ第二胴徑ヲ乘シ四倍シ全深ニテ除シタルモノニ第二胴徑ヲ加ヘ假定ノ口徑トス

假定ノ口徑ト第二胴徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト第二胴徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ容積面ヨリ第二胴徑マテノ入實深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シタルモノニ第二胴徑以下ノ石數ヲ加ヘ現在ノ石數ヲ得ル

入實第三胴徑以上若クハ以下ニアルトキハ前項ニ準據スヘシ

第十六條 稅則第十七條ニ依リ酒類ヲ變製セントスルトキハ更ニ其變製スヘキ酒類ノ種目及石數ヲ届出テ製成ノ上尙検査ヲ受クルモノトス

第十七條 検査未済ノ酒類腐敗其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ所轄租稅検査員派出所ニ届出検査ヲ受クヘシ

第十八條 稅則第十八條造石稅免除酒類ハ一期中製造石高ヲ翌期十月中ニ届出ツヘシ

第十九條 検査済酒類及古酒買入酒等ヲ粕漉ニスルトキハ其時々届出検査ヲ受ケ尙製成ノ上検査ヲ受クルモノトス但此ノ場合ニ於テ増石スルモノハ其石數ニ課稅スルモノトス

第二十條 (清酒ハ搾リ揚ケ滓引以前)濁酒白酒ハ醪ノ儘其他ノ酒類ハ製成ノ上(滓引ヲ要スルモノハ滓引以前)造石數ノ検査ヲ受クヘシ(明治二十三年九月二十五日大藏省令第二十三號ヲ以テ清酒以下十一字ヲ削リ製成ノ上)ノ下(滓引ヲ要スルモノハ滓引以前)ノ制註ヲ加フ

第二十一條 造石稅納期以前免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢業スルモノノ検査済酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納スヘシ

第二十二條 營業人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

酒造原品受拂帳

仕込帳

酒粕目方帳

蒸溜帳

變製酒類原品受拂帳

酒類倉出帳

酒類賣上帳

酒類買入帳

第二十三條 此細則ニ關スル帳簿記入方其他書式等ノ手續ハ地方長官之ヲ定ム

附則



第二十四條 第十二條ハ此細則實施以後新調修繕ニ係ル分ヨリ施行ス

第二十四條 仕込桶及税則第十條ノ検査ヲ受クヘキ酒類ヲ容ルル桶類ヲ除クノ外ハ管廳ノ都合ニ依リ漸次第十二條ニ據リ改測スルコトヲ得(明治二十七年七月十一日大藏省令第一四號改正)

但新調修繕ニ係ル分ハ其時々第十二條ニ據リ改測スヘシ

第二十五條 第十五條ノ場合ニ於テ舊丈量ノ容器ニ係ルモノハ左ノ算則ニ依ルヘシ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス 此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ空積ノ深ニテ除シ之レニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乗シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乗シテ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實胴徑ヨリ以下ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス 此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアルモノハ其胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之レニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス

假定ノ口徑ト底徑トノ和ヲ自乗シ甲トス

假定ノ口徑ト底徑トヲ相乗シテ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

(沿革) 明治十七年八月三十日大藏省達第六十四號酒造税則取扱心得書

明治二十二年十月二十五日大藏省令第十四號酒造税則施行細則

### 酒精營業税法 (明治二十六年四月二十日法律第十七號)

第一條 酒精(アルコール)又ハ他物ト混和シタル酒精ヲ販賣スル營業者ヲ分テ左ノ二種トス

甲種營業人

本條ノ物品ヲ製造シ又ハ買入レ之ヲ自用者ニ非サル者ニ販賣スル者

乙種營業人

本條ノ物品ヲ製造シ又ハ甲種營業人ヲ經由セスシテ買入レ之ヲ自用者ニ販賣スル者

第二條 本法ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ先ツ管廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 營業ノ免許ヲ受クル者ハ政府ノ定ムル所ニ從ヒ保證金トシテ十圓以上千圓以下ヲ現金又ハ國債證券ヲ以テ供託スヘシ

第四條 本法ノ税金ヲ滯納シタルトキハ保證金ノ一部又ハ全部ヲ以テ税金ニ充ツ仍不足スルトキハ明治

二十二年法律第三十二號國稅滯納處分法ニ據テ處分スヘシ



第五條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ算程ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ

甲種營業人

酒精(アルコール)一石ニ付金二十五圓ノ割合

乙種營業人

酒精(アルコール)一石ニ付金二十五圓ノ割合

營業人ヲ經由セスシテ第一條ノ物品ヲ買取り消費スル者ハ本條ニ準シテ納稅スヘシ

第六條 營業稅ハ翌年一月三十一日限之ヲ納ムヘシ但シ廢業スル者ハ其ノ際營業稅ヲ納ムヘシ

前項ノ期限内ト雖營業稅高第三條ノ保證金高ニ超過スルトキハ先ツ其稅金ヲ納メテ後之ヲ販賣スヘシ

第七條 第一條ノ物品ヲ醫藥用又ハ工業用ニ供スル者(造酒家ヲ除ク)ハ勅令ヲ以テ定ムル所ノ規定ニ從

ヒ其ノ營業稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第八條 營業者ハ帳簿ヲ調製シ第一條物品ノ出入ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ主任官吏ノ檢定ヲ受クヘシ

第九條 主任官吏ハ正當ノ命令ニ依リ營業者ノ營業ニ關スル帳簿物品等ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十條 無免許ニテ營業シタル者ハ其現在酒精類及營業用ノ物品器械ヲ沒收シ營業稅三倍ノ罰金ニ處ス

但シ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵ス

第十一條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若ハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ圖リ又ハ脫稅シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七

十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 本法ハ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス

明治二十六年法律第十七號酒精營業稅法ハ之ヲ廢止ス(明治三十一年十二月二  
十七日法律第二十六號)

附 則

此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十六年法律第十七號酒精營業稅法廢止ノ年ニ係ル營業稅ニシテ翌年一月三十一日限り納付スヘキモノニ關シテハ仍明治二十六年法律第十七號酒精營業稅法ニ依ル

(明治三十二年三月二十二日勅令第五十七號ヲ以テ明治三十一年法律第二十六號ヲ明治三十二年八月十五日ヨリ施行ス)



酒精營業税法施行細則

(明治二十六年六月二日)  
(大藏省令第十號)

第一條 酒精營業ノ免許ヲ受ケントスル者ハ一箇年販賣見込石量ヲ記載シタル願書及保證金供託受領證ヲ管廳ニ差出シ營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ(明治三十一年二月十九日(省令第一號)願書ノ下九字挿入)營業場ハ倉庫建物ノ棟數ニ拘ハラズ總テ一區域ヲ以テ一箇所トス其區域外ニシテ營業物品ヲ藏置スルニ止マル場所ハ許可ヲ受ケ營業場ノ附屬トナスコトヲ得

第二條 前條ノ願書ニハ税法第三條ノ制限内ニ於テ一箇年販賣見込高ノ税金ト同額ナル現金又ハ國債證券ノ供託受領證ヲ添フヘシ但明治二十六年勅令第五十八號第二條ノ認許ヲ受ケントスル者ハ之ヲ要セス

營業免許後販賣見込石量ヲ増加セントスルトキハ其都度申出テ税法第三條ノ最高額ヲ限度トシ保證金ヲ追補スルコトヲ得  
營業免許後販賣見込石量ヲ減少セントスルトキハ其都度申出テ税法第三條ノ最低額ヲ限度トシ保證金ヲ減少スルコトヲ得

第二條 保證金額ハ稅務管理局長之ヲ指定ス(明治三十一年二月十九日(省令第一號)改正)

一旦指定シタル保證金額ニシテ相當ヲ失スルニ至リタリト認ムルトキハ其ノ指定金額ヲ變更スヘシ  
徵稅ニ因リ保證金額ニ缺減ヲ生シタルトキハ直チニ之ヲ補充スヘシ

第三條 免許鑑札ヲ受クル者ハ鑑札料金二十錢ヲ納ムヘシ第十條ノ場合ニ於テモ亦同シ

鑑札料ハ明治二十五年大藏省令第三號ニ依リ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第四條 税法第三條保證ニ充ツル國債證券ノ種類及價格ノ割合左ノ如シ

一 有利國債證券

一 大藏省證券

國債證券ハ明治二十三年勅令第四號第三條ノ價格ニ大藏省證券ハ其券面ノ金額ニ依ル

第五條 營業者ハ酒精營業免許ト書シタル標札ニ免許鑑札番號ヲ書載シ之ヲ戸外ニ掲出スヘシ

第五條 税法執行ニ關スル書類ハ營業場ニ送達スルモノトス但シ營業者ノ不在等送達シ能ハサル事情アルトキハ其ノ趣旨ヲ三日間官報若ハ新聞紙ニ公告シテ送達ニ代フルコトアルヘシ(明治三十一年二月十九日(省令第一號)改正)

第六條 免許ヲ受ケタル者ハ營業開始後七日以内ニ其營業場ニ使用スル諸器械容器類ノ目錄並ニ地所諸建物ノ圖面ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ但異動ヲ生シタルトキハ其時々届出ツヘシ

第七條 營業者ハ税法第八條ニ基キ營業ノ種類ニ從ヒ左ノ帳簿ヲ調製シ其使用前所轄間稅分署ニ差出シ其檢定ヲ受クヘシ

一 酒精製造帳又ハ買入帳

一 酒精賣上帳

一 製造原料品買入及遣拂帳

税法第五條第二項ニ該當スル者ハ酒精買入帳及使用帳ヲ調製スヘシ

第八條 第七條ノ帳簿及左ノ帳簿書類ハ附込濟又ハ受授ノ翌年ヨリ三年ヨリ少ナカラサル期間保存ス



ヘシ

- 一 營業ニ關スル金錢物品判取帳
- 一 營業ニ關スル送狀、仕切書及受取書

第九條 營業者ハ毎年其販賣酒精ノ石量又税法第五條第二項ニ該當スル者ハ其消費高ヲ翌年一月七日限  
リ管廳ニ届出ツヘシ但營業者廢業ノトキハ其際之ヲ届出ツヘシ

税法第六條第二項ノ場合ニ於テハ販賣前其超過スヘキ見込石量ヲ届出ツヘシ  
營業稅額ハ前各項ノ届出ニ依リ地方長官之ヲ査定ス

第十條 營業場ヲ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添へ管廳ニ申出テ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ  
他ノ管轄地へ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添へ管廳ニ申出テ添書ヲ受ケ之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出  
シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

鑑札ヲ遺失毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ届出テ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第十一條 代替リノトキ又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ管廳ニ届出テ免許鑑札ニ變更ノ記入ヲ請フ  
ヘシ

第十二條 營業者及税法第五條第二項ニ該當スル者ニシテ酒精ヲ買入ルトキハ著荷後三日以内ニ所轄間稅分署ニ届出テ左ニ掲クル書  
類ノ一若ハ其他取引上證據トナルヘキ書類ニ當該官吏ノ檢印ヲ受クヘシ

- 一 荷物送り狀
- 一 仕切書
- 一 代金領收書

第十二條 營業者及税法第五條第二項ニ該當スル者酒精ヲ買入レタルトキハ直チニ左ノ事項ヲ具シ所轄  
稅務署ニ届出ツヘシ但シ買入ニ係ル酒精他ノ管轄地内ニ現在スルトキハ其ノ酒精ノ發送前更ニ酒精現  
在地ノ所轄稅務署ニ届出ツヘシ(明治三十一年二月十九日  
省令第一號改正)

- 一 賣渡人ノ住所氏名
- 二 買入酒精ノ數量及其ノ現在地

第十三條 税法第五條第二項ニ該當スル者住所氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ其旨ヲ所轄間稅分署ニ届出  
ツヘシ

第十四條 天災其他ノ事故ニ依リ酒精ノ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ所轄間稅分署ニ届出テ檢査ヲ受クヘシ

第十五條 營業者廢業スルトキハ管廳ニ申出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第十六條 第十二條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(第五條)第六條第八條第九條第十  
條第十一條第十三條第十四條第十五條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス(明治

三十二年二月十九日省令  
第一號「第五條」ヲ削除)



酒造税法 (明治二十九年三月二十七日) (法律第二十八號)

第一條ノ一 此ノ税法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、焼酎(酒精ノ六種トス)ノ五種トス

(明治三十四年三月三十日法律第七號) (明治三十七年十二月三十一日) (括弧内ヲノ五種トス)ト改正 (法律第三號第一條ノ一ト改正)

第一條ノ二 此ノ税法ニ於テ清酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノヲ謂フ(明治三十七年十二月三十一日法律第三號追加)

左ニ掲クルモノハ清酒ト看做ス

一 前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、稗、清酒粕又ハ焼酎ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ

二 清酒又ハ清酒ト看做シタルモノヲ粕濾シタルモノ

三 清酒又ハ前二號ニ依リ清酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以内ノ焼酎又ハ酒精ヲ混和シタルモノ

第一條ノ三 此ノ税法ニ於テ濁酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノヲ謂フ(同上)

前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍若ハ稗ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セ

サルモノハ濁酒ト看做ス

第一條ノ四 此ノ税法ニ於テ白酒ト稱スルハ米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味淋、焼酎又ハ酒精トヲ混和シテ碾碎シタルモノヲ謂フ(同上)

前項原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノハ白酒ト看做ス

第一條ノ五 此ノ税法ニ於テ味淋ト稱スルハ米及米麴ト清酒、味淋、焼酎又ハ酒精トヲ混和シ濾過シタルモノヲ謂フ(同上)

前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノハ味淋ト看做ス

左ニ掲クルモノハ味淋ト看做ス(大正九年七月三十一日) (法律第十四號改正)

一 前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノ

二 味淋又ハ味淋ト看做シタルモノヲ粕濾シタルモノ

第一條ノ六 此ノ税法ニ於テ焼酎ト稱スルハ清酒粕ヲ蒸餾シタルモノヲ謂フ(明治三十七年十二月三十一日法律第三號追加)

左ニ掲クル物品ヲ原料トシテ蒸餾シタルモノハ焼酎ト看做ス

- 一 清酒
- 二 濁酒
- 三 味淋粕



四 米、麥、粟、黍、稗、玉蜀黍、馬鈴薯、(若ハ)甘藷若ハ味淋粕ト麩及水ト原料トシ醱酵セシメ  
 又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ(大正七年三月二十二日法律) (大正九年七月三十一日法律)  
 (第六號玉蜀黍、馬鈴薯ヲ加フ) (第十四號味淋粕ヲ加フ)

第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスル  
 トキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ニ從ヒ造石稅ヲ課ス

- 第一種 清酒、白酒 一石 金七圓
- 第二種 濁酒 一石 金六圓
- 第三種 燒酎 一石 金八圓

但當分ノ内北海道ニ於テハ渡島國一圓後志國ノ内八郡(磯谷郡、歌葉郡、壽都郡、太宰郡、釧路郡、釧路郡、久遠郡、奥尻郡、島牧郡)釧路國ノ内一郡山越郡ヲ除ク外各種  
 一石ニ付金一圓ヲ減ス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ニ從ヒ造石稅ヲ課ス

- 第一種 清酒、濁酒 一石 金十二圓
- 第二種 白酒、味淋 一石 金十三圓
- 第三種 燒酎、酒精 一石 金十三圓

攝氏檢温器十五度ノトキニ於テ原容量百分中酒精ノ容量第一種ニ在リテハ二十第二種ニ在リテハ五十ヲ超過スルトキハ  
 百分ノ一ヲ増ス毎ニ前項ノ金額ニ一圓ヲ加フ(明治三十一年十二月二十七日法律第二十三號改正)

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス(明治三十四年三月三十日法律第七號改正)

- 第一種 酒精分二十度以下ノ清酒、濁酒、白酒、味淋及シテ製造シタル燒酎ニシテ酒精分三十度以下ナルモノ 一石ニ付 金十五圓
- 第二種 酒精分四十五度以下ノ燒酎 一石ニ付 金十六圓
- 第三種 酒精分二十度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎 一石ニ付 酒精分一度毎ニ 金七十五錢

前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏檢温器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス(明治三十七年十二月三十一日法律第三號本項改正)

- 第一種 酒精分二十度以下ノ清酒、濁酒、白酒、味淋及 一石ニ付 金十五圓
- 第二種 酒精分三十五度以下ノ燒酎 一石ニ付 金十八圓
- 第三種 酒精分四十五度以下ノ燒酎 一石ニ付 金二十四圓
- 第四種 酒精分四十五度以下ノ燒酎 一石ニ付 金二十三圓
- 第五種 酒精分二十度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎 一石ニ付 酒精分一度毎ニ 金七十五錢

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス(明治四十一年三月十六日法律第十八號本項改正)

- 第一種 酒精分二十度以下ノ清酒、濁酒、白酒及酒精分 一石ニ付 金二十四圓
- 第二種 酒精分三十五度以下ノ燒酎 一石ニ付 金二十五圓
- 第三種 酒精分四十五度以下ノ燒酎 一石ニ付 金三十圓
- 第四種 酒精分四十五度以下ノ燒酎 一石ニ付 金三十五圓



第五種 酒精分二十度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル焼酎 一石ニ付 酒精分一皮毎ニ金一圓

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス(大正七年三月二十二日法律第六號改正)

- 第一種 酒精分二十度以下ノ濁酒 一石ニ付 二十圓
- 第二種 酒精分二十三度以下ノ清酒、白酒及酒精分三十度以下ノ味淋、焼酎 一石ニ付 二十三圓
- 第三種 酒精分三十五度以下ノ焼酎 一石ニ付 二十九圓
- 第四種 酒精分四十度以下ノ焼酎 一石ニ付 三十五圓
- 第五種 酒精分四十五度以下ノ焼酎 一石ニ付 四十一圓
- 第六種 酒精分二十度ヲ超ユル濁酒、酒精分二十三度ヲ超ユル清酒、白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル焼酎 一石ニ付 酒精分一皮毎ニ一圓

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス(大正九年七月三十一日法律第十四號改正)

- 第一種 酒精分二十三度以下ノ濁酒 一石ニ付(三十圓)三十六圓(大正十五年三月二十七日法律第十四號括弧内ヲ改正)
- 第二種 酒精分二十三度以下ノ清酒、白酒及酒精分三十度以下ノ味淋、焼酎 一石ニ付(三十三圓)四十圓
- 第三種 酒精分三十度ヲ超ユ四十五度以下ノ焼酎 一石ニ付 前號ノ金額ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度毎ニ(二圓二十五錢)一圓五十錢ヲ加ヘタル金額
- 第四種 酒精分二十三度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル焼酎 一石ニ付酒精分一度毎ニ(一圓五十錢)一圓八十錢

第五條 新ニ清酒製造ノ免許ヲ受ケル者ハ造石高百石以上ニ非サレハ許可セズ

第五條 政府ハ一酒造年度間清酒ハ「百石」三百石濁酒ハ「五十石」白石焼酎(酒精)ハ「五十石」十石以上ヲ製造スル者ニ非サレハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘス但シ清酒又ハ濁酒制限石數以上ヲ製造スル者ニハ他ノ酒類ニ關スル制限ヲ適用セズ(明治三十四年三月三十日法律第七號酒精ヲ削除) (大正七年三月二十二日法律第七號「内改正」)

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者本條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サザリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石稅ヲ課ス但シ其ノ製造セザリシ石數ニ對シテハ其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテニ査定シタルモノト看做シ「第四條第一項ノ稅率」濁酒ニ在リテハ一石ニ付(三十圓)(三十四圓)三十六圓清酒又ハ焼酎ニ在リテハ一石ニ付(二十三圓)(三十三圓)四十圓ノ割合ニ依リ其ノ造石稅ヲ徵收ス(明治三十一年十二月二十日法律第十四號改正) (大正九年七月三十一日法律第十四號改正) (大正十五年三月二十七日法律第十四號改正) (大正十四號三十三圓ニ改正) (大正十四號三十三圓ニ改正)

第六條 造石稅ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス

- 第一期 七月一日ヨリ同十五日限
- 前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一
- 第二期 九月一日ヨリ同十五日限
- 同上
- 第三期 翌年一月一日ヨリ同十五日限



同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一  
第四期 翌年三月一日ヨリ同十五日限  
前納額ノ殘數

第六條 造石稅ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス(明治三十一年十二月二十七日)  
法律第二十三號改正

第一期 七月十六日ヨリ同三十一日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第二期 十月十六日ヨリ同三十一日限

同上

第三期 翌年二月十六日ヨリ同二十八日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期 翌年三月十六日ヨリ同三十一日限

前納額ノ殘數

第七條 政府ハ酒類ヲ製造スル者稅又ハ通稅ヲ課ルノ所爲アリト認ムルトキ(若ハ納稅保證物ノ免除ヲ得シテ保證物ノ提供ヲ爲ササルトキ)ハ前條ノ納期ニ拘ラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得(此ノ場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ擔保スルコトヲ得)(明治三十一年十二月二十七日)  
法律第二十三號括弧内挿入)(明治三十四年三月二十七日法律)  
第七號内ヲ徵收ス以下ニ改正)

第七條 第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタルトキ又ハ酒類ヲ製造スル者納稅保證物ノ免除ヲ

得スシテ保證物ノ提供ヲ爲ササルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得(明治四十一年三月十六日)  
法律第十八號改正)

前項ノ場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル

(但シ清酒ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ査定石數百分二以内ノ滓引減量ヲ控除スルコトヲ得)  
但シ命令ノ定ムル所ニ依リ清酒ハ査定石數ノ百分ノ五以内ノ滓引減量及貯藏減量ヲ、味淋ハ査定石數百分ノ二以内ノ滓引減量ヲ控除スルコトヲ得(大正七年三月二十二日)  
法律第六號但書改正)

但シ命令ノ定ムル所ニ依リ清酒ハ査定石數ノ(百分ノ五)百分ノ七以内、味淋ハ査定石數ノ(百分ノ二)百分ノ三以内、燒酎ハ査定石數ノ(百分ノ二)百分ノ二以内ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除スルコトヲ得

(大正九年七月三十一日)  
法律第十四號但書改正)(大正十一年三月二十七日)  
法律第十六號括弧内ヲ改正)

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第八條ノ二 同一製造場内ニ於テ酒類ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒類ニハ造石稅ヲ課セス  
前項ノ原料用酒類ハ製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス(大正九年七月三十一日)  
法律第十四號追加)



第九條 粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醪ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

- 一 他人ニ讓渡ストキ
- 二 公賣セララルトキ
- 三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第八條ノ二ニ依リ檢定シタル酒類前項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ査定石數トシ造石稅ヲ課ス(大正九年七月三十一日法律第十四號本項追加)

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石稅ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條 左ノ酒類ニ係ル未納ノ造石稅ハ之ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ
- 二 酒類ノ腐敗シテ廢棄ニ屬シタルモノ
- 三 腐敗シタル酒類ニシテ蒸餾酒ノ製造ニ供スルモノ
- 四 容器ノ損傷ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十二條 左ノ酒類ハ其ノ造石稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

(明治三十一年十二月二十七日法律第二十三號改正)

- 一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ
- 二 腐敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ
- 三 腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ(第二種ノ種類)燒酎ノ製造ニ供スルモノ(明治三十七年十二月三十一日法律第三號括弧内ヲ燒酎ニ改正)
- 四 容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脱去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ造石稅半額ニ相當スル保證物ヲ供スヘシ保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ一酒造年度見込造石數一石ニ付(四圓)金七圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ豫メ提供スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケ造石數査定ノ都度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ提供スルコトヲ得(大正九年七月三十一日法律第十四號四圓ヲ七圓ニ改正)

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數前項ノ見込造石數ヨリ十石以上増加シタルトキハ其ノ石數ニ應シ前項ノ割合ニ依リ保證物ヲ増補スヘシ

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減少ヲ請フコトヲ得

酒類ヲ製造スル者此ノ法律ヲ犯シテ處罰セラレタルトキ又ハ造石稅ニ關シテ滯納處分ヲ受ケタルトキ



ハ爾後三年間政府ハ造石税全額マテノ保證物提供ヲ命スルコトヲ得

前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物ノ増減ヲ爲サス保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十一年十二月二十七日)  
(法律第二十三號改正)

第十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

- 一 相當ノ納稅保證人ヲ供シタルトキ
- 二 納稅保證トシテ造石税額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ
- 三 造石税ヲ前納シタルトキ

四 酒類ヲ製造スル者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納稅ヲ擔保シタルトキ(明治三十一年十二月二十七日)  
(法律第二十三號本號追加)

第十五條 酒類ヲ製造スル者税金ヲ納メサルトキハ政府ハ納稅保證ニ供シタル保證物及保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ造石税金ヲ徵收スヘシ但シ仍舊納アルトキ舊納處分ノ執行ヲ妨ケス

第十五條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ納メサルニ依リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ税金ヲ徵收スヘシ但シ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價格徵收スヘキ税金額及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財産ニ就キ滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス(明治三十一年十二月二十七日)  
(法律第二十三號改正)

第十六條 納稅保證人ハ酒類ヲ製造スル者造石税ヲ完納スル能ハサルトキハ納稅者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス

第十六條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ完納スル能ハサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組員ハ納稅者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス(明治三十一年十二月二十七日)  
(法律第二十三號改正)

第十七條 酒類ヲ製造スル者納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十九條 收稅官吏ハ命令ノ規程ニ依リ酒類ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十九條 收稅官吏ハ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得(明治三十四年三月三十日)  
(法律第七號改正)

第二十條 酒類ヲ製造セサル者酒母又ハ醪ヲ製造セムトスルトキハ政府ノ免許ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者ト等シク其ノ検査監督ヲ受クヘシ(明治三十七年十二月三十一日)  
(法律第三號削除)

第二十一條 酒類ヲ製造セサル者其ノ製造ニ係ル醪ヲ飲料ニ供シ又ハ飲料トシテ讓渡シタルトキハ濁酒ヲ製造スル者トシ其ノ製造ニ係ル總石數ノ造石税ヲ課ス

第二十一條 酒類ヲ製造セサル者ノ製造シタル醪ハ他人ニ讓渡シ、質入シ、飲料トシテ消費シ又ハ政府ノ承認ヲ受ケシテ製造場外ニ



移出スルコトヲ得ス(明治三十一年十二月二十)(明治三十七年十二月三十一日法律第三號改正)

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類、酒類製造用ノ偽酒母若ハ醗ヲ製造シ又ハ他人ヨリ譲受ケタル酒母若ハ醗ヲ以テ酒類ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ醗、濁酒、白酒、燒酎製造用ノ爲酒母一斗以下ヲ製造シ又ハ他人ヨリ譲受ケタル酒母ヲ以テ醗、濁酒、白酒、燒酎ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三石以下ヲ製造シタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ本項前段ノ場合ニ於テ酒母ノ量數不明ナルモ其ノ製造シタル醗若ハ酒類ノ量數一種若ハ數種ヲ通シテ三石以下ナルトキハ仍本項ニ依ル

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類又ハ酒類製造用ノ酒母若ハ醗ヲ製造シタル者ハ二十圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者又ハ間接國稅犯則者處分法第十一條ニ依リ處分セラレタル者ニハ其ノ造石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ酒母、醗ハ第四條第一種ノ稅率ニ從フ

前項ノ造石稅ハ其ノ際直ニ之ヲ納ムヘシ(明治三十一年十二月二十)(七日法律第二十三號改正)

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ(酒母、醗又ハ)酒類ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ直ニ造石稅ヲ賦課徵收スルコトヲ妨ケス(明治三十四年三月三十日)(明治三十七年十二月三十一日)(法律第三號括弧內削除)

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ハ三十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒類及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス(明治四十一年三月十六日)(法律第十八號改正)

前項ノ酒類ニ付テハ第六條ノ納期ニ拘ラス其ノ造石稅ヲ徵收ス

第二十三條 酒類ヲ製造セサル者免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醗ヲ製造シタルトキハ十圓以上(百圓)二百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治三十一年十二月二十)(十七日法律第二十三號)百圓ヲ二百圓ニ改正)

第二十三條 酒類ヲ製造セサル者第二十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治三十四年三月三十一日法律第三號改正)

第二十三條ノ二 酒類ヲ製造セサル者第二十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(明治卅一年十二月廿七日法律第二十三號追加)

第二十三條ノ二 免許ヲ受ケスシテ酒母、醗ヲ製造シタル者又ハ第二十一條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ濁酒ヲ製造シタル者トシ其ノ製造ニ係ル酒母、醗ノ總石數ニ對シテ造石稅ヲ課ス(明治三十四年三月三十一日法律第七號改正)(十一日法律第三號刪除)

前項ノ造石稅ハ第六條ノ納期ニ依ラス直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十三條ノ三 前二條ニ依リ處罰セラレタル者又ハ間接國稅犯則者處分法第十一條ニ依リ處分セラレタル者ハ濁酒ヲ製造シタル者トシ其ノ製造ニ係ル總石數ノ造石稅ヲ課ス(明治三十四年三月三十日)(法律第七號刪除)

前項ノ造石稅ハ其ノ際直ニ之ヲ納ムヘシ(同上追加)

第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅(三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス)五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(明治三十四年三月三十日法律第七號括弧內ヲ五倍以下ニ改正)

第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅(三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス)五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(明治三十四年三月三十日法律第七號括弧內ヲ五倍以下ニ改正)

第二十六條 納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滯納處分ヲ受クルモ仍稅金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石稅ノ(三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス)五倍ニ相當スル罰金ニ



處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(明治三十四年三月三十日法律第七號括弧内ヲ五倍以下ニ改正)

第二十七條 酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ検査ヲ免レ又ハ免レムトシタル(受ケサル)者ハ「十圓」三十圓以上「三百圓」五百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治三十一年十二月二十七日法律第二十三號)

(明治三十四年三月三十日法律第七號内ヲ改正)

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ(五四)十圓以上(五十圓)百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治三十四年三月三十日法律第七號括弧内ヲ改正)

第二十九條 酒類ヲ製造スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十九條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス(明治三十四年三月三十日法律第七號改正)

第三十條 酒類ヲ製造スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者ノ代理人、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ此ノ税法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス(明治三十四年三月三十日法律第七號改正)

第三十三條 第二十九條乃至第三十二條ハ酒類ヲ製造セサル者ニシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者ニモ適用ス(明治三十七年十二月三十一日法律第三號削除)

第三十三條 第二十四條乃至第二十八條ニ依リ處罰又ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒類ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ酒類製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得(明治四十一年三月十六日法律第十八號) (大正七年三月二十二日法律第六號又ハ以下十入ル)

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造(ヲ廢止スルモ)ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テモ造石稅完納前ニアリテハ總テ此ノ税法ノ規程ニ從フモノトス(明治四十一年三月十六日法律第十八號括弧内ヲ削リ「ノ免許ヲ」以下十六字挿入)

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ税法ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ特令アルモノヲ除キ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅町村費ヲ課スルコトヲ得ス

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ法律ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類ノ造石數若ハ造石稅ヲ標準トシテ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ課稅スルコトヲ得ス

(明治三十一年十二月二十七日法律第二十三號改正)







附 則 (明治三十七年十二月三十一日法律第三號)

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (明治四十一年三月十六日法律第十八號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三十八條削除ニ關スル規定ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別税法中酒造税法ニ依ル酒類及沖繩縣酒類出港税ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則 (大正七年三月二十二日法律第六號)

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒類製造ノ免許ヲ受ケ本法施行ノ際現在酒類製造者タルモノニ限リ第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ酒類ヲ製造セサルモノニ付テハ第三十三條第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附 則 (大正九年七月三十一日法律第十四號)

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條ノ改正規定ノ適用ニ付テハ大正九年九月三十日迄仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (大正十一年三月二十七日法律第十六號)

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十五年三月二十七日法律第十四號)

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

沖繩縣ニ於テ製造スル酒類ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方へ移出スルトキハ其ノ造石税ト本法ニ規定スル造石税トノ差額ノ税率ニ依リ出港税ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ樺太酒類出港税法第三條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

### 自家用酒税法 (明治二十九年三月二十七日法律第二十九號)

第一條 濁酒、白酒、焼酎ニ限リ自家用トシテ製造セムトスル者此ノ税法ニ依リ製造免許ヲ出願スルト

キハ政府ハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 自家用酒ノ製造免許ハ一家一人ニ限ル其ノ造石數ハ各酒類ヲ合セテ一酒造年度間(其ノ年十月ヨリ翌年九月マテ)

二石以下トス但シ直接國税ヲ納メサル者及其ノ納額五圓未滿ノ者ハ其ノ造石數一石ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 自家用酒ノ製造ヲナス者ニハ毎年度左ノ製造税ヲ課ス



一 前條但書ニ該當スル者 金 二 圓  
二 直接國稅五圓以上十圓未滿ノ者

一 石 迄 金 三 圓  
二 石 迄 金 八 圓

第四條 製造稅ハ之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年四月ヲ以テ納期トス但シ納期後ニ免許ヲ受クルトキハ即納トス

第五條 左ニ掲クル者及其ノ家族、同居者、同居ノ雇人ハ自家用酒製造ノ免許ヲ請フコトヲ得ス

- 一 直接國稅十圓以上ヲ納ムル者
- 二 酒類製造營業人及酒類販賣人
- 三 醬油製造營業人及醬油販賣人
- 四 酒母又ハ醪製造人及酒母販賣人
- 五 酢製造營業人及酢販賣人
- 六 料理店、飲食店、旅人宿營業者

自家用酒製造ノ免許ヲ得タル者前各號ノ一ニ該當スルニ至ルトキハ其ノ免許ノ效力ヲ失フモノトス  
第六條 自家用酒ハ製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ各自ノ居宅域内ニ限り之ヲ製造スルコトヲ得

第七條 收稅官吏ハ自家用酒製造者ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第八條 自家用酒製造者其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ其ノ居宅域外ニ於テ自家用酒ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 自家用酒製造者免許制限ヲ超過シテ酒類ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ酒造稅法第四條ノ造石稅ヲ課ス  
前項ノ造石稅ハ即時之ヲ徵收ス

第十條 自家用酒製造者元用トシテ清酒、味淋、酒精ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ酒造稅法ニ依リ處分ス

第十一條 第七條ノ検査ニ關シテハ酒造稅法第三十條ヲ適用ス

第十二條 此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十三條 自家用酒製造者ノ家族、雇人、同居者ニシテ其ノ製造ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ此ノ稅法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

第十四條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

但シ明治十九年勅令第六十號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス



第十五條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ税法ヲ施行セス

明治三十一年十二月二十七日法律第二十四號

明治二十九年法律第二十九號自家用酒税法ハ明治三十二年一月一日ヨリ之ヲ廢止ス

明治三十二年四月ニ於テ納付スヘキ製造税ハ之ヲ徵收セス

### 混成酒税法 (明治二十九年三月二十七日法律第三十號)

第一條 此ノ税法ニ於テ混成酒ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一 酒精ト他ノ物品トヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ
- 二 二種以上ノ飲料酒類ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ
- 三 一種又ハ二種以上ノ飲料酒類ト他ノ物品ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ
- 四 飲料酒類ニ酒精若ハ燒酎ト水ヲ混和シタルモノ

第一條 此ノ法律ニ於テ混成酒ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ (明治三十一年十二月二十七日法律第二十五號改正)

- 一 酒精ト酒類ニ非ラサル物品トヲ混和シテ酒類トナシタルモノ
- 二 酒精ト酒類トヲ混和シ又ハ酒精ト酒類及其ノ他ノ物品トヲ混和シテ酒類トナシタルモノ
- 三 一種ノ酒類ト酒類若ハ酒精ニ非ラサル物品トヲ混和シテ別種ノ酒類トナシタルモノ
- 四 二種以上ノ酒類ヲ混和シ又ハ二種以上ノ酒類ト酒精若ハ酒類ニ非ラサル物品トヲ混和シテ酒類ト爲シタルモノ

第二條 混成酒ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數一石ニ付金六圓ノ割合ヲ以テ造石税ヲ課ス

混成酒元用トシテ酒造税法ニ掲クル酒類ヲ製造スル者ニハ該税法ノ造石税ヲ課ス

第二條 混成酒ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ一石金十三圓ノ割合ヲ以テ造石税ヲ課ス

但シ攝氏檢温器十五度ノトキニ於テ原容量百分中酒精ノ容量二十ヲ超過スルトキハ百分ノ一ヲ増ス  
每ニ本條ノ金額ニ一圓ヲ加フ (明治三十一年十二月二十七日法律第二十五號改正)

混成酒元用トシテ酒造税法ニ掲クル酒類ヲ製造スル者ニハ該税法ヲ適用ス

第三條 第一條第四號ノ混成酒ヲ製造スルモ別種ノ飲料トナラス單ニ酒造税法ノ酒類ノ造石數ヲ増加スルニ止ルモノハ其ノ増加石數ノミニ課税ス

第三條 酒造税法ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ得タル者政府ノ承認ヲ得テ製造場内ニ於テ其ノ製造ニ係ル酒類ニ原容量百分ノ二以内ノ燒酎ヲ混和スルトキハ其増加石數ノミニ課税ス (明治三十一年十二月二十七日法律第二十五號改正)

第四條 造石税ノ納期ヲ左ノ二期トス但シ廢業シタル者ハ即納トス

第一期 其ノ年七月一日ヨリ同三十一日限

一月一日ヨリ六月三十日迄査定済石數ニ係ル税額



第二期 翌年一月一日ヨリ同三十一日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄査定済石數ニ係ル稅額

第五條 混成酒ヲ製造スル者ハ收稅官吏ノ認許ヲ受クルニ非サレハ其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第六條 第五條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 酒造稅法第二條、第七條、第八條、第十一條、第十二條、第十八條、第十九條、第二十二條  
(第一項)第二十四條、第二十五條、第二十八條、第二十九條、第三十條、第三十一條、第三十二條、第三十六條ハ混成酒ノ製造ニ適用ス(明治三十一年十二月二十七日法律第二十五號第二十二條ノ下「第一項」ヲ削ル)

附 則

第八條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

第九條 沖繩縣(東京府管下小笠原島伊豆七島)ニハ當分此ノ稅法ヲ施行セス(明治三十一年十二月二十七日法律第二十五號「東京府管下」以下十三字ヲ削ル)

附 則 (明治三十一年十二月二十七日法律第二十五號)

此ノ法律ハ明治三十二年一月一日ヨリ施行ス

明治三十四年三月三十日法律第八號

第二十六條 混成酒稅法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル混成酒ニハ仍該法ヲ適用ス

### 酒造稅法施行規則 (明治二十九年八月十七日勅令第二百八十七號)

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ其ノ酒類製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ居所氏名ヲ記シ(地方長官)稅務管理局長ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ(但シ商會社ヲ組織シテ酒類ヲ製造セムトスル者ハ合名會社合資會社ニ在リテハ其ノ契約書原本ヲ添ヘ社員ヨリ、株式會社ニ在リテハ發起認可書ノ原本及假定款原本ヲ添ヘ發起人ヨリ申請スヘシ)(明治三十一年十二月二十九日勅令第三百六十二號)  
酒類ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキ又ハ製造スヘキ酒類ヲ變更セムトスルトキハ(地方長官)稅務管理局長ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ(明治三十五年十月三十一日勅令第二百五十號)  
(三號稅務管理局長ニ改正以下同)

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ(明治三十四年八月二十三日勅令第六十四號改正)  
製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ(明治三十七年十二月三十一日勅令第三號本項削除)

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ(明治三十七年十二月三十一日勅令第三號追加)  
一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒造稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者若ハ雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條 酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ



第三條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面並ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ（地方長官（稅務管理局長）稅務署長ニ提出スヘシ但シ酒類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ此ノ限ニ在ラス（明治三十四年八月二十三日勅令第百六十四號但書追加）

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ（地方長官（稅務管理局長）稅務署長ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 酒類製造主ハ每酒造年度ニ於テ製造スヘキ每酒類ノ見込造石數、製造著手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ（地方長官（稅務管理局長）稅務署長ニ申告スヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ本項ノ申告ヲ爲スヘシ（明治三十一年十二月二十九日勅令第三百六十二號但書追加）

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

第六條 酒類製造主ノ相續人ニ於テ其ノ製造事業ヲ繼續セムトスルトキハ其ノ旨（地方長官（稅務管理局長）ニ申出製造繼續ノ免許ヲ受クヘシ

酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ（明治三十四年八月二十三日勅令第百六十四號本項改正）

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造稅法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第六條ノ二 酒類製造主其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ（明治三十七年十二月三十一日勅令第三號追加）

第六條ノ三 酒類製造主其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ（同上）

第六條ノ四 變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒造稅法第五條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サザリシ事由ノ證明ハ酒造年度終了後三箇月以内ニ之ヲ爲スヘシ（同上）

第七條 酒類ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條 酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條 清酒ノ造石數ヲ査定スルトキハ其ノ石數ヨリ百分ノ二ヲ滓引減量トシテ控除スヘシ但シ犯則ニ係ル清酒ハ滓引減量ヲ控除スルノ限ニ在ラス

第九條 酒造稅法第八條第二項但書ニ依リ滓引減量トシテ控除スルハ査定石數ノ百分ノ二トス（明治三十四年八月二十三日勅令第百六十四號改正）

犯則ニ依ル清酒ニ關シテハ滓引減量ヲ控除セス

第九條 酒造稅法第八條第二項但書ニ依リ控除スル清酒ノ滓引減量及貯藏減量ハ査定石數ノ百分ノ五、味淋ノ滓引減量ハ査定石數ノ



百分ノ二トス(大正七年三月二十八日)  
勅令第三十二號改正)

犯則ニ係ル清酒又ハ味淋ニ付テハ前項ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除セス

第九條 酒造税法第八條第二項但書ニ依リ控除スル滓引減量又ハ貯藏減量ハ清酒ニ在リテハ査定石數ノ(百分ノ五)百分ノ七、味淋ニ在リテハ査定石數ノ(百分ノ二)百分ノ三、燒酎ニ在リテハ査定石數ノ(百分ノ一)百分ノ二トス(大正九年七月三十一日)  
(勅令第二百二十九號改正) (大正十一年三月二十七日)  
(勅令第四十九號改正) (勅令第四十九號改正)

犯則ニ係ル清酒、味淋又ハ燒酎ニ付テハ前項ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除セス

第十條 酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル(醪又ハ酒類)酒類又ハ醪、酒精、酒精含有飲料<sup>レ</sup>ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ(明治三十四年勅令第六十四號括弧内)  
(明治四十一年三月十六日)  
(勅令第三十八號)内ヲ削ル)

第十一條 酒造原料用ノ爲メ酒類ヲ製造スルトキハ其ノ成功ノ時之ヲ検査スヘシ酒造原料用品トシテ酒類ヲ製造場内ニ移入シタルトキ亦同シ(大正九年七月三十一日)  
(勅令第二百二十九號改正)

收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得(同上)

第十二條 酒造原料用品トシタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費スルトキ若ハ公賣セラルルトキ又ハ製造場外ニ移出スルトキハ其ノ造石數ヲ査定スヘシ但シ他ヨリ讓受シタルモノニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス(大正九年七月三十一日)  
(勅令第二百二十九號改正)

第十三條 酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ着手前ニ其ノ數量時期等ヲ(地方長官(稅務管理局長)稅務署長ニ申告スヘシ

第十四條 酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確認スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條 酒滓、酒粕、蒸餾粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十六條 酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醪又ハ酒造税法第八條ノ二ニ依リ検査シタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ(地方長官(稅務管理局長)稅務署長ニ申告スヘシ)  
(大正九年七月三十一日勅令第二百二十九號)  
(又ハ酒造税法第八條ノ二以下二十一字挿入)

第十七條 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ(地方長官(稅務管理局長)稅務署長ニ申告スヘシ

第十八條 酒造税法第十二條ニ依リ(未納)造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ(地方長官(稅務管理局長)稅務署長ニ申請スヘシ)  
(明治二十一年十月二十九日勅令)  
(第三百六十二號)未納<sup>レ</sup>ヲ削ル)

第十九條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキハ未納稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ  
腐敗酒ヲ以テ蒸溜酒ノ製造用ニ供セムトスルモノハ未納稅金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燒酎又ハ酒精ノ原料用品ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十九條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ(稅務管理局長)稅務署長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタリト認ムルトキハ稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ



（明治三十一年十二月二十九日）  
勅令第三百六十二號改正

腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ヲ以テ燒酎（又ハ酒精）ノ製造用ニ供セムトスルモノハ税金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燒酎（又ハ酒精）ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ（同上）

（明治三十四年八月二十三日）  
勅令第三百六十四號括弧内削除

第二十条條 地方長官酒類ノ造石數ヲ査定シタルトキハ其ノ際酒類製造主ヲシテ酒造稅法第十三條ニ依リ保證物ヲ提供セシムヘシ但シ酒類製造主ハ見込造石數ニ依リ豫メ保證物ノ提供ヲ申請スルコトヲ得  
酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造稅法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ申請スヘシ

第二十條 酒類製造主ハ酒類製造着手前ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ酒造稅法第十三條第一項但書ニ依リ造石數査定ノ都度保證物ヲ提供セムトスル者ハ毎酒造年度製造着手前ニ其ノ旨（稅務管理局長）稅務署長ニ申請スヘシ（明治三十一年十二月二十九日）  
勅令第三百六十二號改正

保證物ヲ増補スヘキトキハ其ノ事由ノ生シタルトキ直ニ之ヲ提供スヘシ  
酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造稅法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ申請スヘシ

第二十一条條 保證物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

- 一 金 錢
- 二 利付國債證券地方債證券
- 三 政府ノ保護又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券
- 四 土 地

五（酒類製造場内ノ）建物但シ火災保險ニ付シタルモノニ限ル（明治三十年十月二十三日勅令）  
第三百八十四號括弧内削除  
第二十一条條 保證物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル（明治四十一年三月十六日）  
勅令第三百八十八號改正

一 金 錢  
二（稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券）國債（大正九年十二月二十七日）  
勅令第五百八十二號改正

三 土 地

四 火災保險ニ附シタル建物

第二十二條 保證物ノ保證價格ヲ定ムルハ有價證券ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格、土地ハ（土地臺帳ニ登記シタル地價）稅務管理局長ノ認メタル時價十分ノ八、建物ハ被保險額ニ依ル（明治三十年十月二十三日勅令第三百八十四號「土地臺帳」以下十二字ヲ「稅務管理局長」以下十七字ニ改正）

第二十二條 保證物ノ保證價格ヲ定ムルハ有價證券ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格土地建物ハ稅務管理局長ノ認メタル時價ヨリ十分ノ二ヲ控除シタルモノニ依ル但シ建物ニ付テハ時價ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シタルモノ被保險額ヨリ多キトキハ被保險額ニ依ル  
（明治三十一年十二月二十九日）  
勅令第三百六十二號改正

第二十二條 保證物ノ保證價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル（明治四十一年三月十六日勅令）  
勅令第三百六十二號改正

第二十三條 酒類製造主保證物ヲ提供スルトキハ金錢有價證券ハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ（地方長官）稅務管理局長ニ提出シ土地建物ハ書入ノ登記ヲ爲スヘシ第三者ニ於テ酒類製造主ノ爲メ保證物ヲ提供スルトキ亦同シ

第二十三條 保證物中金錢、有價證券ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出シ土地、建物ニ關シテハ稅務署ニ於テ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ（明治三十四年八月二十三日）  
勅令第三百六十四號改正



第二十三條 金錢又ハ無記名國債證券ヲ保證物トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄  
稅務署ニ提出スヘシ(大正九年十二月二十七日勅令第五百八十二號改正)

登錄國債ヲ保證物トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘ  
シ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ  
土地又ハ建物ヲ保證物トシテ提供スルトキハ稅務署ニ於テ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第二十四條 保證物トシテ提供シタル「證券、債券」(有價證券)國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ  
壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ(地方長官)(稅務管理局長)稅務署長ノ指  
定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物  
トシテ供託スヘシ(明治四十一年三月十六日勅令  
第三十八號「内ヲ」内ニ改正) (大正九年十二月二十七日勅令第五百  
八十二號「有價證券」ヲ「國債」ニ改正)

第二十五條 酒造稅法第十三條ノ保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡  
シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得

第二十六條 納稅保證人ハ(地方長官)(稅務管理局長)稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル者ニ  
限ル

第二十七條 (地方長官)(稅務管理局長)稅務署長ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムル  
トキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第二十八條 收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條 (地方長官)(稅務管理局長)稅務署長ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサ  
ルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第三十條 酒類製造主ハ(地方長官)(稅務管理局長)稅務署長ニ申出保證物、納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有  
スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 酒類製造主稅金ヲ納メサルトキハ納稅保證人ニ通知シ其ノ稅金ヲ納メシメ又ハ滯納處分ノ手續ニ依リ其ノ保證物又ハ保存  
ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣スヘシ

納稅保證人稅金ヲ完納セサルトキ又ハ保證物若ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シ尙ホ稅金ニ不足アルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納  
處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後尙ホ稅金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

第三十一條 酒類製造主稅金ヲ納メサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ其ノ  
稅金ヲ納メシムヘシ(明治三十一年十二月二十九日  
勅令第三百六十二號改正)

納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分  
ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後仍稅金ニ不足アルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ニ對  
シ滯納處分ヲ行フヘシ



第三十二條 同一製造場内ニ於テ清酒並ニ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ醸造藏置ニ供スル場所ヲ酒類別ニ特定シ(地方長官)(稅務管理局長)稅務署長ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 (地方長官)(稅務管理局長)稅務署長ノ認可ヲ受クヘシ  
其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙印スルコトヲ得

第三十四條 收稅官吏ハ隨時酒類製造場又ハ酒類販賣場ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器帳簿又ハ書類ヲ検査スヘシ(明治三十四年八月二十三日勅令第百六十四號「又ハ酒類販賣場」ヲ加フ)

第三十五條 收稅官吏ハ搾器械、蒸餾器械ノ使用停止中之ニ封緘ヲ附スヘシ但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

收稅官吏ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ原料用酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得  
收稅官吏ハ必要ナシト認ムルトキハ前項ノ封緘ヲ爲ササルコトヲ得(明治三十七年十二月三十一日勅令第三號改正)

收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ酒粕又ハ原料酒類ニ封緘其ノ他監督上必要ナル方法ヲ施スコトヲ得(同上追加)

第三十六條 自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十七條 酒造用原料品中酒母又ハ醪ノ検査ハ熟成ノ時ニ於テ之ヲ行フ但シ其ノ熟成シタル酒母又ハ醪ヲ製造場内ニ移入シタルトキハ其ノ移入ノ時ニ於テスヘシ

酒母、醪以外ノ原料品ハ其ノ使用前便宜之ヲ検査スヘシ其ノ検査後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十七條 收稅官吏カ必要ト認メテ酒造用原料品ヲ指定シ其ノ使用前検査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ検査ヲ受クヘシ(明治三十七年十二月三十一日勅令第三號改正)

第三十八條 酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ並ニ一仕込毎ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

第三十九條 酒類製造主左ニ掲クル事項ヲ行ハムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ  
一 熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込ムコト

- 二 熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲スコト
- 三 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換スルコト
- 四 仕込済ノ醪ニ水ヲ混和スルコト
- 五 原料用酒類ノ用途ヲ變更スルコト
- 六 蔵出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲スコト

第三十九條 左ニ掲クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ承認ヲ受クヘシ(明治三十七年十二月三十一日勅令第三號改正)

- 一 熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込マムトスルトキ
- 二 熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲サムトスルトキ
- 三 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換セムトスルトキ



- 四 仕込済ノ醪ニ水ヲ混和セムトスルトキ
- 五 原料用酒類ノ用途ヲ變更セムトスルトキ
- 六 藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲サムトスルトキ
- 七 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第四十條 酒類製造場外ヨリ酒類製造場内ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ(地方長官)(稅務管理局長)稅務署長ニ申告スヘシ

第四十一條 二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚ケムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ七仕込以上ノ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

第四十二條 酒粕ハ其ノ搾揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ検査スヘシ

酒類製造主ハ前項検査後ニアラサレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒粕ト混合スルコトヲ得ス

第四十二條ノ二 酒造稅法第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母、醪其ノ他半製品現存スルトキハ稅務署長ハ酒類製造主ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ(明治四十一年三月十六日勅令第三十八號改正)

第四十三條 酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醪ノ仕込、燒酎又ハ酒精ノ造リ込、酒類

ノ藏出、受拂、増減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條ノ二 收稅官吏ハ酒類製造主及販賣主ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス(明治三十七年十二月三十一日勅令第三號追加)

第四十三條ノ三 酒造稅法第三十五條ノ三第一項ニ依リ稅務署長ハ酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ酒造組合ニ對シテハ毎酒造年度間ニ於テ所屬組合員ノ製造酒類中造石數ヲ査定シタル酒類ノ査定石數(滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除シタルモノ)十石ニ付一圓ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ノ交付金ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ十石未滿ノ端數アルトキハ之ヲ十石トシテ計算ス(大正十五年三月三十一日勅令第三十二號追加)

第四十三條ノ四 前條ノ酒造組合前條第一項ノ命令ニ違反シタルトキハ交付金ノ全部又ハ一部ヲ交付セサルコトヲ得(大正十五年三月三十一日勅令第三十二號追加)

第四十三條ノ五 沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方へ移出スルハ那覇港ニ由ルヘシ(大正十五年一月三十一日勅令第三十二號追加)

前項ノ場合ニ於テハ樺太酒類出港稅法施行規則第二條乃至第四條ヲ準用ス但シ同規定中樺太廳支廳トアルハ稅務署トシ樺太廳長官トアルハ大藏大臣トス



附 則

第四十四條 酒造税法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ  
尙ホ引續キ酒造税法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面、目  
録ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ申請スヘシ

第四十五條 酒造税法第三十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實  
ヲ具シ(地方長官)(稅務管理局長)稅務署長ニ免許ヲ申請スヘシ

附 則 (明治三十一年十二月二十  
九日勅令第三百六十二號)

本令ハ明治三十一年法律第二十三號實施ノ日ヨリ施行ス  
酒造税法第十三條ニ依リ増補スヘキ保證物ハ明治三十二年一月一日以後製成スヘキ酒類ノ見込石數ニ依  
リ提供スヘシ

附 則 (明治三十四年八月二十  
三日勅令第六十四號)

本令ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (明治三十五年十月三十一  
日勅令第二百五十三號)

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (明治三十七年十二月  
三十一日勅令第三號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (明治四十一年三月十  
六日勅令第三十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正七年三月二十八  
日勅令第三十二號)

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製成シタル清酒又ハ味淋ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (大正九年七月三十一日  
勅令第二百二十九號)

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ規定ニ依リ檢査シタル原料用酒類ノ造石數查定ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (大正九年十二月二十七  
日勅令第五百八十二號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ効  
力ヲ有ス

附 則 (大正十一年三月二十  
七日勅令第四十九號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



附 則 (大正十五年三月三十日勅令第三十二號)

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四酒造年度ニ限り第四十三條ノ三ノ改正規定中毎酒造年度トアルハ大正十五年四月一日ヨリ同年九月三十日迄ノ期間トス

混成酒税法施行規則 (明治二十九年八月十七日勅令第二百八十八號)

第一條 混成酒ヲ製造スル者ハ毎年十二月三十一日迄ニ其ノ翌年中ニ製造スヘキ混成酒ノ酒類、石數及製造方法ヲ稅務管理局長ニ申告スヘシ (明治三十一年十二月二十九日勅令第三百六十號) (二號地方長官ヲ稅務管理局長ニ改正以下同)

前項申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第二條 (地方長官) 稅務管理局長ハ混成酒製造高ノ多少ニ從ヒ毎月一回以上時日ヲ定メ豫メ其ノ期間ノ混成酒製造高ヲ申告セシムヘシ

第三條 混成酒ノ製造用ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ他ヨリ其ノ製造場ニ移入スルモノハ移入ノ時、其ノ製造場ニ在ルモノハ原料品ト定メタルトキ(地方長官) 稅務管理局長ニ申告スヘシ

前項ノ申告アリタルトキハ收稅官吏ハ其ノ酒精又ハ飲料酒類ヲ検査シ必要ト認ムヘキ場合ニハ封緘ヲ附スルコトヲ得

第四條 混成酒ノ原料ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ前條ノ検査ヲ受ケ且收稅官吏ノ承認ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 混成酒ヲ製造スル者酒造税法ノ酒類其ノ他ノ飲料酒類ヲ製造場ニ移入シタルトキハ混成酒製造用ニアラサルモ其ノ旨直ニ(地方長官) 稅務管理局長ニ申告スヘシ

第六條 酒造税法施行規則第一條第二條第三條第四條第六條第七條第八條第十九條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第二項第四十三條ノ規程ハ混成酒ヲ製造スル者ニモ適用ス

附 則

第七條 明治二十九年十月一日以降同年十二月三十一日迄ノ間ニ混成酒ヲ製造セムトスル者ハ第一條ノ規程ニ準シ同年九月三十日迄ニ地方長官ニ申告スヘシ

自家用酒税法施行規則 (明治二十九年八月十七日勅令第二百八十九號)

第一條 自家用酒税法第一條ニ依リ自家用トシテ酒類ノ製造免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ居所氏名及製造ヘキ酒類並ニ左ノ種別ヲ記シ地方長官ニ申請スヘシ

第一種 造石數二石未滿

第二種 造石數一石未滿



前項申請書ニハ其ノ製造時期及酒類ノ製造方法ニ關スル事項ヲ附記スヘシ附記事項ヲ變更シタルトキハ其ノ際申告スヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル酒類又ハ第一條ノ種別ヲ變更セムトスルトキハ更ニ第一條ノ申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ但シ一酒造年度中ニ於テハ免許酒類又ハ種別ノ變更ヲ許可セス

第三條 自家用酒製造者其ノ居所氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第四條 自家用酒ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨地方長官ニ申告シ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

自家用酒製造者死亡若クハ失踪シタルトキハ相續人又ハ其ノ他ノ者ヨリ其ノ旨地方長官ニ申告スヘシ

第五條 此ノ規則ニ依リ地方長官ニ提出スヘキ書類ハ所轄市町村長(特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長又ハ之ニ準ス)ヲ經由スヘシ(キキ者)

### 酒精及酒精含有飲料稅法

(明治三十四年三月三十日) 法律第八號

第一條 酒精及酒精ヲ含有スル飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス

第二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇每ニ(金七十五錢)金一圓ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付(金十六圓)金二十一圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス(明治四十一年三月十六日) 法律第十九號括弧内改正

第二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇每ニ

(一圓)一圓五十錢一圓八十錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付(二十四圓)三十五圓四十二圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス(大正七年三月二十二日) 法律第七號改正 (大正九年七月三十一日) 法律第十五號括弧内改正 (大正十五年三月二十七日) 法律第十五號括弧内改正

第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏檢温器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス

第三條ノ二 本法ニ於テ葡萄酒ト稱スルハ葡萄酒ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ(明治三十七年十二月三十一日) 法律第四號追加 左ニ掲クルモノハ葡萄酒ト看做ス

- 一 葡萄酒ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十四ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ但シ葡萄酒ノ汁液一石ニ付精製糖二十五斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 二 葡萄酒ノ汁液又ハ前號ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル葡萄酒ノ汁液ヲ純炭酸石灰ヲ以テ除酸シ醱酵セシメタルモノ
- 三 葡萄酒又ハ前二號ニ依リ葡萄酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以内ノ酒精ヲ混和シタルモノ

第三條ノ三 本法ニ於テ果實酒ト稱スルハ葡萄酒ヲ除クノ外果實ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ(明治三十七年十二月三十一日) 法律第四號追加

葡萄酒ヲ除クノ外果實ノ汁液ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ糖分ヲ補充シ又ハ其ノ酸ヲ稀釋シ醱酵セシ



メタルモノハ果實酒ト看做ス

第四條 清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒（ビール）（及葡萄實ヲ以テ醸造シタル葡萄酒）及清涼飲料ニハ本法ヲ適用セス（明治三十七年十二月三十一日）（大正十五年三月二十七日法）  
（法律第四號括弧内及以下削除）（律第十五號及清涼飲料追加）

第五條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第五條ノ二 政府ハ其ノ年三月ヨリ翌年二月迄ノ一年度間ノ製造石數酒精ニ在リテハ五十石酒精ヲ含有スル飲料ニ在リテハ十石以上ニ非サレハ製造ノ免許ヲ與ヘス（明治四十一年三月十六日）  
（日法律第十九號追加）

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ免許ヲ受ケタル者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石稅ヲ課ス但シ其ノ製造セサリシ石數ニ對スル造石稅ハ一石（金二十一圓）（金二十四圓）（金三十五圓）四十二圓ノ割合ニ依ル

（大正七年三月二十二日法律第七）（大正九年七月三十一日法律第十）（大正十五年三月二十七日法律第十）  
（號二十一圓ヲ二十四圓ニ改正）（五號二十四圓ヲ三十五圓ニ改正）（五號三十五圓ヲ四十二圓ニ改正）

第六條 造石稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ（製造ヲ廢止）免許ヲ取消シタルトキハ即納トス（明治四十一年三月十六日）  
（法律第十九號括弧内改正）

前條第二項ニ依ル造石稅ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以内トス（同上本項追加）

第七條 造石稅ヲ納ムヘキ者造石稅ヲ遺脱シ又ハ遺脱セムトスルノ所爲アリト認ムルトキハ政府ハ直ニ造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ差押フルコトヲ得

第七條 第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消シタル場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ差押フルコトヲ得（明治四十一年三月十六日）  
（日法律第十九號改正）

第八條 同一製造場内ニ於テ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニハ造石稅ヲ課セス

前項ノ規定ニ依ラムトスル者ハ其ノ原料用ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第九條 製造石數ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製成シタル時實測シテ之ヲ査定ス但シ前條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ此ノ限ニ在ラス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料若ハ證憑物件ニ就キ製造石數ヲ査定シ造石稅ヲ課ス

第十條 第八條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ査定石數トシ造石稅ヲ課ス



一 他人ニ讓渡サレタルトキ

二 公賣セラレタルトキ

三 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造用外ニ消費セラレタルトキ

第十一條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニシテ災害ニ罹リ亡失シタルトキハ其ノ造石税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ製造石數査定前ニ於テ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十三條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ其ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十四條 收税官吏ハ命令ノ規定ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料、其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス(但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス) 仍其ノ製造ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但シ罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(明治四十一年三月十六日法律第十九號括弧内改正)

第十六條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石税ノ免除ヲ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條 第十二條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料若ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 收税官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十二條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同



居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十三條ノ二 第十六條乃至第十八條ニ依リ處罰（又ハ）若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒精若ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得（明治四十一年三月十六日法律第十九號追加）（大正七年三月二十二日法律第七號括弧内）（明治四十一年三月十六日法律第十九號追加）（削除）（又ハ三年以上以上）（以下二十九字入ル）

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十四條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料（ノ製造ヲ廢止シ）製造ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ハ造石稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ（明治四十一年三月十六日法律第十九號括弧内）（製造ノ免許ヲ取消サレニ改正）

第二十四條ノ二 葡萄酒及果實酒ニハ第五條、第十三條、第十四條及第十九條乃至第二十三條ノ規定ニ限リ本法ヲ適用ス（明治三十七年十二月三十一日法律第四號追加）

免許ヲ受ケスシテ葡萄酒又ハ果實酒ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條ノ三 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ第二條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

（明治四十一年三月十六日法律第十九號追加）

前項ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第二十五條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒精ニハ舊稅率ヲ適用ス

第二十六條 混成酒稅法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル混成酒ニハ仍該法ヲ適用ス

第二十七條 本法若ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ臺灣ニ施行スルマテハ臺灣ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ第二條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス（明治四十一年三月十六日法律第十九號追加）

前項ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附 則 （明治三十七年十二月三十一日法律第四號）  
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本法施行前ヨリ葡萄酒ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後一箇月以内ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

附 則 （明治四十一年三月十六日法律第十九號）



本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ニハ明治四十五年二月末日迄ハ第五條ノ二第二項ノ規定ヲ適用セス

非常特別税法中酒精又ハ酒精含有飲料ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則 (大正七年三月二十  
二日法律第七號)

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造セサルモノニ付テハ第二十三條ノ二第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附 則 (大正九年七月三十  
一日法律第十五號)

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十五年三月二十  
七日法律第十五號)

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 麥酒税法 (明治三十四年三月三 十日法律第十二號)

第一條 麥酒(ビール)ニハ本法ニ依リ麥酒税ヲ課ス

本法ニ於テ麥酒ト稱スルハ麥芽、「ホップ」及水ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノヲ謂フ(明治三十七年十二月三  
十一日法律第五號追加)

前項原料ノ外(麥芽ノ重量十分ノ三以内ノ米)總重量麥芽ノ十分ノ五ヲ超エサル米、玉蜀黍、馬鈴薯、澱粉又ハ砂糖ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノハ麥酒ト看做ス(同上) (明治四十一年三月六日法  
律第二十號括弧内改正)

第二條 麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 麥酒税ハ麥酒一石ニ付(金七圓)(金十圓)(金十二圓)(金十八圓)金二十五圓ノ割合ヲ以テ其ノ製造石數ニ應シ麥酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス(明治四十一年三月十六日法律  
第二十號七圓ヲ十圓ニ改正) (大正七年三月二十二日法律  
第八號十圓ヲ十二圓ニ改正) (大正九年七月三十  
八日法律第二十號十圓ヲ二十五圓ニ改正)

第三條ノ二 政府ハ其ノ年三月ヨリ翌年二月迄ノ一年度間ノ製造石數千石以上ニ非サレハ麥酒製造ノ免  
許ヲ與ヘス(明治四十一年三月十六  
日法律第二十號追加)



麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル  
事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル麥酒稅ヲ課ス

第四條 麥酒稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ(製造ヲ廢止)免許ヲ取消  
シタルトキハ即納トス(明治四十一年三月十六日法律第二  
十號括弧内ヲ「免許ヲ取消」ニ改正)

前條第二項ニ依ル麥酒稅ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消 場合ニ於テハ取消後三十日  
以内トス(明治四十一年三月十六  
日法律第二十號追加)

第五條 麥酒ヲ製造スル者麥酒稅ヲ通脫シ又ハ通脫セムトスルノ所爲アリト認ムルトキハ政府ハ直ニ麥酒稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收ス  
此ノ場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ麥酒ヲ差押フルコトヲ得

第五條 第十九條ノ二ニ依リ麥酒製造ノ免許ヲ取消シタル場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ麥酒稅ヲ  
徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ麥酒ヲ差押フルコトヲ得(明治四十一年三月十六  
日法律第二十號改正)

第六條 麥酒ノ製造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ之ヲ査定ス  
犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ麥酒又ハ證憑物件ニ付キ其ノ製造石數ヲ  
査定シ麥酒稅ヲ課ス

第七條 災害ニ罹リ亡失シタル麥酒ニ關シテハ其ノ麥酒稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタ  
ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條 麥酒ヲ製造スル者ハ製造石數査定前ニ於テ其ノ麥酒ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造  
場外ニ移出スルコトヲ得ス

第九條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ麥酒ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ  
記載スヘシ

第十條 收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル麥酒、其ノ製  
造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及麥酒製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ  
検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 免許ヲ受ケシテ麥酒ヲ製造シタル者ハ其ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十一條 免許ヲ受ケシテ麥酒ヲ製造シタル者ハ其ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍其ノ麥酒及  
其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但シ罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(明治四十一年三月十六  
日法律第二十號改正)

第十二條 麥酒ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムト  
シタルトキハ其ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條 麥酒ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ麥酒稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルト  
キハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十四條 麥酒ヲ製造スル者第八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス



第十五條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料又ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者麥酒ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十八條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ麥酒製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十條 第十二條乃至第十四條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ麥酒ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ麥酒製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得(明治四十二年三月十六日法律第二十號追加)八號又ハ以下十八字追加

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十條 麥酒製造(ヲ廢止シ)ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ハ麥酒稅完納前ニ在リテハ總テ本法

ノ規定ニ從フ(明治四十一年三月十六日法律第二十號 括弧内ヲ「ノ免許ヲ取消サレ」ニ改正)

第二十條ノ二 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル麥酒ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯スモノハ其ノ石數ニ應シ第三條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス(明治四十一年三月十六日法律第二十號追加) 前項ノ麥酒及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附 則

第二十一條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本法施行前ヨリ麥酒ノ製造ヲ爲ス者本法施行後十日以内ニ於テ製造場一箇所毎ニ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

附 則 (明治三十七年十二月三十一日法律第五號)

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (明治四十一年三月十六日法律第二十號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ニハ明治四十五年二月末日迄ハ第三條ノ二第二項ノ規定ヲ適用ス非常特別稅法中麥酒ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス



附 則 (大正七年三月二十  
二日法律第八號)

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ麥酒ヲ製造セサルモノニ付テハ第十九條ノ二  
第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附 則 (大正九年七月三十  
一日法律第十六號)

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(改正) (大正九年八月十日法律第五十八號)

附 則 (大正十五年三月二十  
七日法律第十七號)

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 酒精及酒精含有飲料稅法施行規則

(明治三十四年八月二十  
四日勅令第六十五號)

第一條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所氏名又ハ  
名稱ヲ記シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ (明治三十七年十二月三十  
一日勅令第四號本項削除)

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

(明治三十七年十二月三  
十一日勅令第四號追加)

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署  
ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒精及酒精含有飲料稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他  
從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハズ總テ一製造場ト認ムヘキモノ  
ヲ謂フ

第三條 酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面、製  
造用容器、器具、器械ノ目錄及酒精又ハ酒精含有飲料製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提  
出スヘシ但シ種類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ其ノ圖面及目錄ヲ提  
出スルコトヲ要セス

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又  
ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルト  
キハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號容量其ノ



他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙印スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス  
第五條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條 酒精又ハ酒精含有飲料製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ  
酒精又ハ酒精含有飲料製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外酒精又ハ酒精含有飲料製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ酒精及酒精含有飲料稅法第五條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ(明治三十七年十二月三十一日勅令第四號本項改正)

第六條ノ二 酒精又ハ酒精含有飲料製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ(明治三十七年十二月三十一日勅令第四號追加)

第七條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第七條ノ二 變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒精及酒精含有飲料稅法第五條ノ二ノ制限石數以上ノ

製造ヲ爲ササリシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以内ニ之ヲ爲スヘシ(明治四十一年三月十六日勅令第三十九號追加)

第八條 酒精及酒精含有飲料稅法第八條第二項ニ依リ檢定ヲ受ケタル酒精又ハ酒精含有飲料ハ製造場内ニ於テ他ノ酒精又ハ酒精含有飲料ト區別シテ藏置スヘシ

第九條 酒精又ハ酒精含有飲料ノ原料廢棄、亡失其ノ他原料ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 酒精及酒精含有飲料稅法第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量及其ノ製成ノ日
- 四 他ニ引渡シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條 酒精又ハ酒精含有飲料販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引取ノ日及引取先



二 販賣シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條 收税官吏ハ隨時酒精又ハ酒精含有飲料製造場又ハ販賣場ニ就キ酒精又ハ酒精含有飲料、其ノ

原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿、書類ヲ検査スヘシ

第十四條 收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械又ハ原料ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ左ノ場合ニ於テハ收税官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第十五條 左ニ掲クル場合ニ於テ收税官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒精又

ハ酒精含有飲料製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ(明治三十七年十二月三十一日勅令第四號改正)

一 醱酵液若ハ原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ

二 濾過、蒸餾又ハ調合ニ著手セムトスルトキ

三 原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ使用セムトスルトキ又ハ其ノ用途ヲ變更セムトスルトキ

四 酒精又ハ酒精含有飲料ノ殘滓等ヲ製造場外ニ移出シ又ハ之ヲ使用シ若ハ他ノ殘滓等ト混合セム

トスルトキ

五 自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

六 製造場外ヨリ製造場内ニ酒精又ハ酒精含有飲料ヲ移入セムトスルトキ

七 前各號ノ外收税官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ(同上追加)

第十六條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者製造場所在地ニ現住セザルトキハ酒精及酒精含有飲料稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理

人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ(明治三十七年十二月三十一日勅令第四號創除)

第十六條 酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ取消シタ

ル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要

ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ(明治四十一年三月十六日勅令第三十九號追加)

第十七條 收税官吏ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ

漏洩スルコトヲ得ス

附 則

第十八條 本令施行前酒造稅法又ハ混成酒稅法ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ

本令第一條第一項及第三條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス

第十九條 本令施行前ヨリ引續キ酒精含有飲料ヲ製造スル者ニハ本令施行ノ際ニ限り第四條第二項ヲ適

用セス

附 則 (明治三十七年十二月三十一日勅令第四號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (明治四十一年三月十六日勅令第三十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



## 麥酒稅法施行規則

(明治三十四年八月二十日勅令第六十八號)

一五四

第一條 麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ(明治三十七年十二月三十一日勅令第五號削除)

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ麥酒製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ(明治三十七年十二月三十一日勅令第五號追加)

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署

ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 麥酒稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署

ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條 麥酒ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、

器械ノ目錄及麥酒製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又

ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 麥酒製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙印スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ麥酒製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 麥酒製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若

ハ休止後製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條 麥酒製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

麥酒製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外麥酒製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ麥酒製造ノ免許申請書ヲ所

轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ麥酒稅法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

(明治三十七年十二月三十一日勅令第五號本項改正)

第六條ノ二 麥酒製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受

クヘシ(明治三十七年十二月三十一日勅令第五號追加)

第七條 麥酒製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第七條ノ二 變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ麥酒稅法第三條ノ二ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サザリ

一五五



シ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以内ニ之ヲ爲スヘシ(明治四十一年三月十六日勅令第四十號追加)

第八條 製造石數査定ハ濾過シタル時ニ於テス

第九條 麥酒醸造中醱酵液廢棄、亡失其ノ他醱酵液ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 麥酒稅法第七條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條 麥酒製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三 製造シタル麥酒ノ數量及其ノ製成ノ日

四 他ニ引渡シタル麥酒ノ數量、價額、引渡ノ日及引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條 麥酒販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル麥酒ノ數量、價額、引取ノ日及引取先

二 販賣シタル麥酒ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條 收稅官吏ハ隨時麥酒製造場又ハ販賣場ニ就キ麥酒、其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條 麥酒製造者ハ左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第十五條 左ニ掲クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ麥酒製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ(明治三十七年十二月三十一日勅令第五號改正)

一 麥芽汁ヲ醱酵桶ニ入レムトスルトキ

二 醱酵液ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ

三 麥酒ノ濾過ヲ爲サムトスルトキ

四 麥酒ノ殘滓等ヲ用キ更ニ麥酒ヲ製造セムトスルトキ

五 麥酒ノ殘滓ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他ノ殘滓ト混合セムトスルトキ

六 自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

七 製造場外ヨリ製造場内ニ麥酒ヲ移入セムトスルトキ

八 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ(明治三十七年十二月三十一日勅令第五號追加)



第十六條 麥酒製造者製造場所所在地ニ現住セサルトキハ麥酒稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ  
(明治三十七年十二月三十一日勅令第五號削除)

第十六條 麥酒稅法第十九條ノ二ニ依リ麥酒製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ麥酒製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ  
(明治四十一年三月十六日勅令第四十號追加)

第十七條 收稅官吏ハ麥酒製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附 則

第十八條 本令第四條第二項ハ本令施行ノ際ニ限り麥酒稅法第二十二條ニ依リ麥酒ノ製造ヲ申告シタル者ニ之ヲ適用セス

附 則 (明治三十七年十二月三十一日勅令第五號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (明治四十一年三月十日勅令第四十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法拔萃 (明治三十七年三月三十一日法律第三號)

第一條 臨時事件ニ因リ生シタル經費ヲ支辨スル爲本法ニ依リ地租、營業稅、所得稅、酒稅、砂糖消費稅、醬油稅、登錄稅、取引所稅、狩獵免許稅、鑛區稅及各種ノ輸入稅ヲ增徴シ毛織物及石油ニ消費稅ヲ課シ民事訴訟印紙ヲ增貼セシム

第一條 臨時事件ニ因リ生シタル經費ヲ支辨スル爲本法ニ依リ租稅ヲ增徴シ若ハ賦課シ又ハ印紙ヲ增貼シ若ハ貼用セシム (明治三十七年十二月三十一日法律第一號改正)

第二條 地租、營業稅、所得稅、酒稅、砂糖消費稅、醬油稅、登錄稅、取引所稅、狩獵免許稅、鑛區稅及飲食物、衣服及附屬品、石油、砂糖、糖蜜、糖水、絹布類、酒類、煙草類ノ輸入稅ハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ增徴ス  
四 酒 稅

酒造稅法ニ依ル酒稅

第一種

一石ニ付金五十錢

第二種

一石ニ付金五十錢

第三種

一石ニ付酒精分一度毎ニ金二錢五厘

麥 酒

一石ニ付金五十錢

酒精又ハ酒精含有飲料

(原容量百分中純酒精ノ容量二十ヲ超ユルモノ)

沖繩縣酒類出港稅

一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金二錢五厘

沖繩縣酒類出港稅則第一條第一項ニ依リ課稅スヘキ酒類

一石ニ付金五十錢



同 第二項ニ依リ課税スヘキ酒類

一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金二錢五厘

一六〇

第二條 左ニ掲クル租税ニ付テハ關係法規ノ定メタル税額ノ外左ノ割合ノ税額ヲ増徴ス(明治三十七年十二月三十一日法律第一號)  
(正改)

四 酒 税

酒造税法ニ依ル酒類

第一種 一石ニ付金貳圓

第二種 一石ニ付金貳圓

第三種 一石ニ付金貳圓

第四種 一石ニ付金貳圓

第五種 一石ニ付酒精分一度毎ニ金拾錢

麥 酒 一石ニ付金壹圓

酒精又ハ酒精含有飲料

原容量百分中純酒精ノ容量二十以下ノモノ 一石ニ付金貳圓

原容量百分中純酒精ノ容量二十ヲ超ユルモノ 一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量

一箇毎ニ金拾錢

沖繩縣酒類出港税

酒造税法ニ依ル酒類ニ對スル増徴税率ニ同シ

附 則

第二十七條 平和克復ニ至リタルトキハ其ノ翌年末日限本法ヲ廢止ス

附 則 (明治三十七年十二月三十一日法律第一號)

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (明治四十一年三月十日 六日法律第十八號)

非常特別税法中酒造税法ニ依ル酒類及沖繩縣酒類出港税ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則 (明治四十一年三月十日 六日法律第十九號)

非常特別税法中酒精又ハ酒精含有飲料ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則 (明治四十一年三月十日 六日法律第二十號)

非常特別税法中麥酒ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス



第四章 諸統計

一 酒類查定高表

宮城縣

年次	清酒		濁酒		白酒		味淋		燒酎		計
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	
明治二五		五三,三七五		一,〇三三		二二		一四		一三,七三三	二三五
二六		四三,八二五		一,三九九		九六		一四		一〇,五三三	一九〇
二七											一八九
二八											一六九
二九											三二六
三〇											一四九
三一											一五〇
三二											一四二
三三											一三四
三三											四六,三三〇



年次	三九	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇			
清酒	八八	八六	八六	八六	八七	八七	八七	八七	八六	八五	八六	八六	八五	八四	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三		
濁酒	三四,三八三	四七,一八九	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	五四,〇三二	
白味	一,九六〇	二,二〇四	一,九九七	四八八	一〇二	二〇七	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	
淋	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四
燒酎	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	三,七三九	五,〇八九	五,七七九	五,四八八	五,六三二	五,四一七	五,二一七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七	五,一五七

一六五

年次	三九	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇						
清酒	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七	一〇八	二七			
濁酒	四三,〇九八	四六,三四四	四二,九六九	六二,七七七	七六,一四八	七六,一四八	六〇,三九〇	八〇,〇五九	七六,四七九	六八,〇七四	五七,四九五	五二,二六一	五三,六二〇	四三,〇九八	四六,三四四	四二,九六九	六二,七七七	七六,一四八	七六,一四八	六〇,三九〇	八〇,〇五九	七六,四七九	六八,〇七四	五七,四九五	五二,二六一	五三,六二〇	四三,〇九八	四六,三四四	四二,九六九	六二,七七七	七六,一四八	七六,一四八	六〇,三九〇	八〇,〇五九	七六,四七九	六八,〇七四	五七,四九五	五二,二六一	五三,六二〇
白味	三,五〇三	四,五二五	五,二〇八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
淋	二	三	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
燒酎	一,四四六	一,五八七	一,四八五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	四八,一四〇	五二,五二九	四九,七六九	六二,七七七	七六,一四八	七六,一四八	七二,〇一八	九〇,六八〇	九七,二〇六	七〇,八七一	六〇,〇一〇	五三,八八六	五三,六二九	四八,一四〇	五二,五二九	四九,七六九	六二,七七七	七六,一四八	七六,一四八	七二,〇一八	九〇,六八〇	九七,二〇六	七〇,八七一	六〇,〇一〇	五三,八八六	五三,六二九	四八,一四〇	五二,五二九	四九,七六九	六二,七七七	七六,一四八	七六,一四八	七二,〇一八	九〇,六八〇	九七,二〇六	七〇,八七一	六〇,〇一〇	五三,八八六	五三,六二九

一六四



岩手縣

年次	清酒		濁酒		白酒		味淋		燒酎		計	
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數		
明治一五		四二,一三三		一,六五九		三三		五		四〇九	三一九	四三,三〇八
一六		三八,五六九		一,九四二		五		九		三六七	二七六	四〇,九六五
一七										二三五	二四三	二四,四九〇
一八										四四九	四四三	四二,八七〇
一九										二四三	二五	二五,六五六
二〇										二〇五	二〇三	二四,四九〇
二一										二〇三	一九三	二四,六七四
二二										一九三	一八四	三三,五二五
二三										一八四	一八七	四三,九一一
二四										一八七	一七六	五七,〇六七
二五		四七,四三九								一七六	一七四	四九,一一〇
二六		四七,五〇八								一七四	一七〇	四九,〇五七

一六七

年次	清酒		濁酒		白酒		味淋		燒酎		計	
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數		
大正九	九五	六八,〇九三								二〇五	九六	七〇,八三六
一〇	一〇〇	八九,四八二								二三八	一〇一	九二,六三六
一一	一〇五	九二,四〇四								二九七	一〇六	九六,二三六
一二	一〇八	九三,〇四〇								二四七	一〇九	九六,六〇四
一三	一〇八	八八,四二七								二〇七	一〇九	九二,五五〇
一四	一〇八	八三,六六八								一七六	一〇九	八六,三〇六
一五	一〇七	七八,九〇九								一五九	一〇八	八一,三七七
一六	一〇六	六八,四〇九								一〇七	一〇一	七〇,三三五
一七	一〇二	六九,五三三								一三四	一〇一	七一,五六四
一八	一〇二	六二,三六〇								七五九	一〇一	六三,八八二

一六六



大正											
年次	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	計
四二	一三二	四七,八〇三	九	七六九	四	四六八	四二	一七〇	一三二	五〇,二六〇	
四三	一一八	四六,四五八	二	三四一	二	四六八	三	一〇九一	一一五	四八,三八五	
四四	一一九	四八,六二七	二	二二五	二	四六五	二	九五〇	一一〇	五〇,〇三三	
四五	一一九	五五,七七二	二	三七四	二	五八七	二	一二九〇	一一三	五八,四二二	
二	一一八	四九,三九八	二	二九二	二	五九八	二	一三二八	一一三	五八,〇三六	
三	一一八	五〇,三八〇	一	一九七	二	五九八	二	一二四八	一一三	五二,四二七	
四	一一六	五三,七五七	一	一六四	二	六〇七	二	一五七七	一一二	五二,七九〇	
五	一一四	五八,四〇八	一	一七六	二	八七五	二	一四七〇	一一六	六〇,九七三	
六	一一七	六九,〇一八	一	一一二	二	九四〇	二	一七二五	一一九	七二,八二六	
七	一一二	七一,六九〇	一	七九	二	九三三	二	一八四八	一一三	七四,五五七	
八	一一五	八一,一六〇	一	五九	二	一〇四	二	二〇四七	一一六	八四,三四七	
九	一一五	六五,〇一六	一	六二	二	九二	二	一六〇五	一一六	六七,六六六	
一〇	一一九	八〇,四〇三	一	八三	二	八三	二	二〇三八	一一〇	八三,二七四	
一一	一一三	八〇,六二二	一	二〇	二	六五	二	二二四三	一一三	八三,五八一	

一六九

明治二七											
年次	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	計
二八	一五六	六〇,七四九	一	七四六	一	一六四	一	六七八	一七七	五二,八三七	
二九	一八五	六四,〇一三	一	七四〇	一	一六七	一	八三五	一七三	六二,四四四	
三〇	一七九	六五,〇三九	二	三,八九八	二	一四八	二	八五二	一三三	七一,八八五	
三一	一七九	五七,九六七	二	三,八四一	二	一五九	二	八七三	一三〇	六二,八五五	
三二	一七九	六九,八六五	二	二,五七三	二	二七六	二	一,一〇五	一四三	四九,三〇三	
三三	一七九	六九,八六五	二	二,五七三	二	二七六	二	一,一〇五	一四三	四九,三〇三	
三四	一四八	三九,三〇七	二	二,二七五	二	一八七	二	八九六	一四六	四三,〇四三	
三五	一三〇	四四,六九四	二	三,一四六	二	一九二	二	一一二四	一五三	四九,一七一	
三六	一三〇	四四,六九四	二	三,一四六	二	一九二	二	一一二四	一五三	四九,一七一	
三七	一三〇	四四,六九四	二	三,一四六	二	一九二	二	一一二四	一五三	四九,一七一	
三八	一三〇	四四,六九四	二	三,一四六	二	一九二	二	一一二四	一五三	四九,一七一	
三九	一三〇	四四,六九四	二	三,一四六	二	一九二	二	一一二四	一五三	四九,一七一	
四〇	一三〇	四四,六九四	二	三,一四六	二	一九二	二	一一二四	一五三	四九,一七一	

一六八



福島縣

年次	清酒		濁酒		白酒		味淋		燒酎		計	
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數		
一五		七六,八七四		三六		三四		三三		三四〇一	七〇三	八〇,六五九
一六		七九,九九三		三〇		九〇		三三		三,三〇一	六三二	八三,七三六
一七											六三二	五二,〇五一
一八											五六〇	四二,二二七
一九											五〇八	七九,八九七
二〇											五〇七	七八,七五〇
二一											五二二	一〇一,九四四
二二											四八八	九二,二六六
二三											四六六	七五,八四九
二四											四四八	一〇一,三九九
二五		八〇,九七三								三,六〇〇	四三六	八四,七四六
二六		八六,六四四								三,五五三	四三三	九〇,三七八

年次	清酒		濁酒		白酒		味淋		燒酎		計	
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數		
大正三	一三四	八二,〇〇八									一三五	八四,八五三
一三	一三三	八五,二七三									一三四	八七,八〇九
一四	一三三	七九,九三三									一三四	八二,〇六六
一五	一三〇	七二,二八九									一三一	七三,三五六
昭和二	一二八	六八,六八六									一二九	七〇,三三三
三	一二六	六四,四四〇									一二七	六五,八九三
四	一二三	六〇,九四〇									一二三	六二,〇四九
五												
六												
七												
八												
九												
一〇												
二												



大正														
年次	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四
清酒	三三七	三三二	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九
濁酒	一〇三,七四四	九二,六三四	九六,一九四	一〇八,六六七	一〇六,三三二	一〇四,二六九	九六,二八八	九九,一六四	一一九,五八七	一三七,六七〇	一四〇,六九五	一六五,六三八	一二五,六一〇	一六五,五二〇
白	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
味	一三七	一六六	一九二	二〇〇	二六二	二七一	三〇九	三八四	四〇〇	三九九	三六九	三五二	四三八	四二七
淋	六二	二四	六二	六二	六二	六二	六二	六二	六二	六二	六二	六二	六二	六二
燒	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
耐	四二七六	四,四三三	三,八三三	四,三三八	四,〇八五	四,三六六	五,二四一	四,二九二	四,八九五	五,〇〇五	五,〇六一	五,七五〇	四,三四〇	五,四八一
計	一〇八,一一〇	九六,九八〇	一〇〇,二九一	一一三,二九九	一一〇,七六一	一〇九,〇〇四	一〇一,九三三	一〇三,九三二	一二五,〇一五	一四三,一七二	一四六,二五一	一七一,八七三	一三〇,四六一	一七一,四七六

一七三

年次	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇
清酒	八七,五五四	一〇四,六五七	一二二,四七三	一二七,六七二	一〇〇,四八二	一二六,七四九	一二六,七四九	一〇七,七三六	七二,二八四	八八,八六四	八〇,七〇四	七八,六六八	九九,八〇八	三五一
濁酒	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
白	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
味	七五	八二	一一〇	一一〇	一二九	一二九	七三	七四	八二	九二	九二	七三	一〇五	一二七
淋	二二	六〇	三六	一八	三四	三四	二八	二八	九	九	二八	二八	二二	二七
燒	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
耐	三,六六八	三,九四二	四,六六八	四,四三二	四,五二五	三,二二三	三,九六七	三,七二三	三,四三九	四,五八四	四,九八八	三,四三九	四,五八四	四,九八八
計	九一,三六八	一〇八,八二四	一三三,〇九三	一三四,〇七五	一〇七,一六三	一二六,七四九	一二六,七四九	一〇七,七三六	七六,四七五	九三,七三九	八五,〇五一	八二,五六九	一〇四,八〇一	一二三,七三五

一七二



年次	清		酒		濁		酒		白		味		淋		燒		耐		計	
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數
大正三	三四	一七四、五三							一						一〇	五八八〇	三三	三三五	三三	一八〇、九六三
一三	三二	一六九、四三九													一一	四六三〇	三三	三三三	三三	一七四、五八〇
一四	三〇	一六四、三二五													一二	四六三〇	三三	三三三	三三	一七四、五八〇
一五	三四	一四九、五八四													一三	四六三〇	三三	三三三	三三	一六九、四四七
昭和二	三〇三	一三六、三七〇													一四	四、二〇〇	三六	三三六	三六	一五四、一五六
三	二九八	一四〇、〇三〇													一五	三、四二〇	三〇	三三〇	三〇	一四〇、二八八
四	二八七	一二七、九八三													一六	三、五九二	三〇	三〇四	三〇	一四四、一〇五
五															一七	二、六三〇	二九	二九一	二九	一三一、〇〇六
六															一八					
七															一九					
八															二〇					
九															二一					
一〇															二二					

一七四

年次	清		酒		濁		酒		白		味		淋		燒		耐		計	
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數
明治五		五三、一七四															三〇	三〇二	三〇	五五、八八一
一六		三九、六一四															二六	二二六	二六	四一、四三三
一七																	二六	二二六	二六	四一、四三三
一八																	二六	二二六	二六	四一、四三三
一九																	二六	二二六	二六	四一、四三三
二〇																	二六	二二六	二六	四一、四三三
二一																	二六	二二六	二六	四一、四三三
二二																	二六	二二六	二六	四一、四三三
二三																	二六	二二六	二六	四一、四三三
二四																	二六	二二六	二六	四一、四三三
二五		四〇、六一六															二六	二二六	二六	四一、四三三
二六		三七、七九四															二六	二二六	二六	四一、四三三

一七五

秋田縣



大正												
年次	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數
四二	一四二	五五,〇〇九	九	五六二	一	四九	九	四三	一	七	九	四三
四三	一三四	五二,五九二	八	五二六	一	七一	九	四二	一	九	九	三七七
四四	一三三	五六,〇八二	六	一,〇七九	一	六一	九	四一	一	〇	九	四五三
四五	一二八	六四,五七二	一〇	九四五	一	五〇	〇	四〇	一	〇	八	三八四
二	一三二	六七,五三三	七	一,〇六九	一	三五	〇	三九	一	〇	七	五〇七
三	一三一	六四,八八四	三	六〇〇	一	二七	〇	三〇	一	〇	五	一八二
四	一三四	六五,六九三	三	三三五	一	四九	二	二八	一	〇	八	一四八
五	一三四	六九,七二八	三	三〇九	一	四三	一	二七	一	〇	七	一四七
六	一三三	九五,六六一	三	二四〇	一	三七	一	二〇	一	〇	六	一四二
七	一四二	一一五,一一五	一〇八	二四〇	一	五五	一	一〇	一	〇	八	一四三
八	一五三	一四五,二八七	七三	一〇八	一	六八	一	〇	一	〇	八	一四二
九	一五三	一二六,六六〇	八九	七三	一	七三	一	〇	一	〇	二	一四一
一〇	一五七	一五二,〇四三	八九	七三	一	九六	一	〇	一	〇	二	一三七
一一	一五八	一四一,〇九九	四二	七九	一	七九	一	〇	一	〇	七	一六八

一七七

明治												
年次	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數
二八	四一,二四九	四七,一五五	五九	七八五	二	七五	一	六〇	一	九六	一	一六〇
二九	五七,〇二五	八,三三二	七六	六〇	一	六三	一	六〇	一	六〇	一	一六〇
三〇	四九,三三二	四,七八八	八二	四七五	一	二九	一	二九	一	二九	一	一六〇
三一	四九,六八五	一,五六二	一,五六二	六,七八〇	一	二四	一	二四	一	二四	一	一七八
三二	六六,四五二	六六,四五二	九	九	一	二五	一	二五	一	二五	一	一七八
三三	六六,四五二	六六,四五二	九	九	一	二五	一	二五	一	二五	一	一七八
三四	五八,一九五	五八,一九五	五	五	一	二五	一	二五	一	二五	一	一七八
三五	四九,七二二	四九,七二二	五	五	一	二五	一	二五	一	二五	一	一七八
三六	五二,三二八	五二,三二八	八	八	一	二五	一	二五	一	二五	一	一七八
三七	四三,七九八	四三,七九八	九	九	一	二五	一	二五	一	二五	一	一七八
三八	三一,七二九	三一,七二九	九	九	一	二五	一	二五	一	二五	一	一七八
三九	五三,一〇九	五三,一〇九	二	二	一	二五	一	二五	一	二五	一	一七八
四〇	一三四	一三四	二	二	一	二五	一	二五	一	二五	一	一七八
四一	一三九	一三九	二	二	一	二五	一	二五	一	二五	一	一七八

一七六



年次	清		濁		白		味		淋		燒		耐		計
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	
大正三	一五九	一四三,四五二			一	六	四	五二	六	一六六	一四六,一八九				
一三	一五九	一三七,〇九七			一	八五	三〇	五四九	六	一六六	一三七,七八四				
一四	一五八	二九二,四四五			一	七	五	四九八	五	一六四	二九,九〇五				
一五	一五六	二〇〇,九〇九			一	七	四	四〇七	四	一六二	二二,四三六				
昭和二	一五三	二七,七三九			一	六	四	二九七	四	一五八	二八,一五五				
三	一四九	一一,六二八			一	三	二	二六四	四	一五四	一一,〇四一				
四	一四八	一〇,八三五			一	五	一	一九八	三	一五二	一〇,三一六九				
五															
六															
七															
八															
九															
一〇															

一七八

年次	清		濁		白		味		淋		燒		耐		計
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	
明治五		五九,九八一				五	二六		二〇七						六二,五〇一
一六		四二,九三三				四	一三九		一九四						四六,二六七
一七															三五,二二一
一八															三六,七八八
一九															七七,八九六
二〇															五五,三五七
二一															四八,八三三
二二															五二,三三五
二三															四八,七九七
二四															五三,〇九二
二五		四九,一〇九				七	一五八		一四二						五〇,〇六七
二六		五〇,二〇八				七	一七六		一〇						五二,三三五

青森縣

一七九



明治四一	四二	四三	四四	四五	大正二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一
一二七	一二六	一二四	一二四	一二四	一二七	一二三	一一九	一〇七	一〇五	一〇六	一〇六	一〇五	一〇六	一〇四
五三,四四九	五〇,一〇〇	五五,五三〇	六三,五七六	六二,九七三	四四,七三九	五六,九三三	五四,四〇三	六〇,六二八	七〇,三八五	七六,五〇〇	八二,三九一	七三,九〇四	八四,一九六	八五,五八一
六	四	三	二	二	二	二	二	一						
一〇七八	一,一四	一〇一九	一八三	二〇七	一九八	一七五	一三六	一三六	一三六	一〇	四	六	二	二
三七五	二八三	三〇六	三三五	三三三	一四三	二三〇	二六二	二七九	三五六	三五八	三六七	四一五	五二四	四〇八
三	三	八	六	二	二	七	六	一	三	九	七	五	五	四
二	三	二	二	二	三	三	三	三	三	四	五	五	四	四
三六〇	四六七	四五三	七四〇	八五五	六三三	七五	六一七	五三四	六三六	七三	一,〇〇六	四八六	三五五	三三二
二五	二二	二九	二八	二二	二二	二二	二四	二二	二〇	二〇	二二	二〇	二〇	一〇八
五五,二六五	五一,九六七	五七,三二五	六四,八四〇	六四,三六六	四五,七三三	五八,〇七〇	五五,四二六	六二,五八二	七一,五二四	七七,五九〇	八三,七五五	七四,八二六	八五,〇七〇	八六,三〇七

一八一

明治二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇
五九,九三六	六二,二四	五九,六六一	六九,四七六	六二,五九四	六六,三四一	六六,三四一	六二,二八四	四〇,五二一	四九,九二九	四七,九八九	四四,九七一	四九,三八四	五六,五〇七
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
六六〇	九二五	二,五〇九	二,〇五〇	二,二三四				一四九二	一,二七四	一,二八〇	一,二六八	一,二四四	一,二三三
二〇〇	二二七	二二七	三三二	三二九				一六七	一七六	二二一	二四六	三三八	三八〇
三	二	五	六	三				一	二	四	一	四	七
二〇六	二〇二	二〇〇	二二五	三二一				一七一	二七二	二八七	三三三	三〇八	四七六
一四六	一四五	一九一	三五六	五九五				一四五	一四〇	一三七	一三三	二二七	二二五
五七,〇二四	六三,五九一	六二,六三二	七一,九九八	六五,三六一	六六,三四一	六六,三四一	六二,二八四	四二,三四二	五一,六五〇	四九,七七一	四六,六〇八	五一,二五八	五八,五九三

一八〇











年次	清		濁		白		味		淋		燒		耐		計
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	
大正二	二〇七	一四五六七九							一九	八	三、四九五	二五	一四九、三〇一		
一三	二〇五	一四二三五九						三	二九	九	二、八九五	二四	一四五、三七三		
一四	二〇三	一三六、九五〇						一	二九	九	二、六九二	二二	一三九、七六七		
一五	二〇五	一三三、五八二						一	二九	九	二、五九一	二四	一三五、一九七		
昭和二	二〇二	一三二、一九〇						三	二	九	二、〇三三	二二	一三四、三〇〇		
三	一九七	一二三、〇一一						二	二	七	二、〇〇八	二四	一二四、一三〇		
四	一九三	一一九、一四二						一	一	六	一、三三六	一九	一一〇、五四四		
五															
六															
七															
八															
九															
一〇															

年次	清		濁		白		味		淋		燒		耐		計
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	
明治一五		三六一、三五五		六五、五		四九五		二七				六五五〇	二、二四四	三七五、〇八六	
一六		三二六、六七二		六八、八六		三四四		一六八				五、九七〇	一九二四	三三〇、〇三九	
一七													一八五九	一九四、二四四	
一八													一六九一	二〇六、二二二	
一九													二六八三	三五三、五六七	
二〇													一五四七	三三六、七九一	
二一													一五二〇	三八二、八三六	
二二													一四四二	三七四、七六三	
二三													一三八四	三二五、二八三	
二四													一三五二	四〇四、九一七	
二五		三三六、五六七		四〇、三〇〇		三七二		一八四				七、〇六五	一三一	三四八、二二八	
二六		三四四、七八〇		三五、二八		三七四		一三八				六、六七八	一二八二	三四五、四八八	

六 縣 計



年次

清酒 濁酒 白酒 味淋 燒酎 計

年次	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數
明治二七		三五九,一五七		三,〇七三		五〇四		一三四		七,一八五		三七〇,〇五三
二八		四〇〇,〇八二		三,六五一		六〇四		一九七		八,〇一四		四三二,五四八
二九		四六三,七六三		四,三七四九		六八二		一七七		九,五六七		五二七,九三八
三〇		四六二,七九七		二,〇九七		六四二		一八二		九,一二七		四九四,八三五
三一		一,五五五		二,四六五		六七〇		二〇九		九,七三三		四三三,一三一
三二		三九九,八七七										
三三		五〇二,九九二										
三四		四三二,八八七										
三五		三二五,二〇四										
三六		三五六,一二三										
三七		三三三,五八二										
三八		三〇五,四〇三										
三九		三七二,七七七										
四〇		四二六,七三二										

一八八

大正

年次	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數
二		四〇八,四四八		一,一二七		一一七二		二二二		一一,二七九		一〇,三三五
三		四〇〇,二二七		七,七五		一,四五八		二二二		一三,三〇九		一〇,三二
四		四一七,七九七		七〇二		一,六四五		三四		一一,四四四		一〇,〇六
五		五〇九,三一九		六八九		一九五二		三二		一二,七二六		九九一
六		五八九,九三五		四二五		二二七〇		二九		一三七四二		一〇,一一
七		九九九		二二六		二,一三二		三七		一四,六三六		一〇,三九
八		一〇,一九		二二六		二,一三二		三八		一六,四三一		一〇,六〇
九		九九三		一九〇		二,六五五		三四		一一,七七八		一〇,二九
一〇		一〇,一五		二二六		二,一三二		三〇		一三,七九四		一〇,四七
一一		一〇,三二		七二		二,五四〇		二七		一五,八五六		一〇,六〇

一八九



全 國 計

年次	清		濁		白		味		淋		燒		耐		計
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	
明治一五		三,〇六三,九六九		三五,〇一〇		一,八八二		三,三五一九		九,九九四		五,一三九九		二,一八二四	三,一七四,七八九
一六	一六,五四六	三,一三九,五〇七	一,三三九	三九,七三二	三,八七	一,五四八	七〇一	二〇,三三二			五,一三七	二八,九五七	一八,一五四	二,五七二,九五四	三,二五二,四四五
一七															
一八															
一九															
二〇															
二一															
二二															
二三															
二四		三,四九五,五七二		三二,〇七二		一,八三三		二八,九五四				五〇,三三四	一四,七二〇	三,六〇七,七四五	
二五		三,七一九,一九三		三二,一七四		一,九七二		三六,三九五				五三,三七〇	一四,六二〇	三,八四二,一〇三	
二六		三,五九九,五四七		二八,〇八四		二,一八〇		三七,〇二七				五二,〇六〇	一四,二八二	三,七七八,八九八	

年次	清		濁		白		味		淋		燒		耐		計
	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	場數	石數	
大正二三	一,〇三七	七二,一五〇		五五	二	二,八九四		一四八		二九	一四,七四七		一,〇六八	七三九,九九四	
二三	一,〇三〇	七〇,五〇六		六九	一	二,八四四		八八		三〇	二二,九九七		一,〇六一	七二,七八四	
二四	一,〇一五	六七,五三六		六六	一	二,五九〇		一七六		三〇	一一,三九二		一,〇五六	六八九,五六二	
二五	一,〇一四	六七,九一〇		九八	一	二,三四七		一六		二九	一〇,二七三		一,〇四四	六四〇,七四四	
昭和二	九九一	五八,六七四		一〇八	一	二,二二八		七二		二三	八,一八五		一,〇一五	五九七,三七	
三	九七〇	五七,八三〇		一三〇	一	二,一〇一		六八		二〇	八,三八〇		九九一	五八九,五二〇	
四	九五〇	五四,七三三		一三〇	一	一,八九一		六二		一四	五,八〇六		九六五	五四九,六二四	
五	九二二	四二,四〇六		一三二		一,三二六		三三		一三	五,二五五		九三三	四二八,〇五〇	